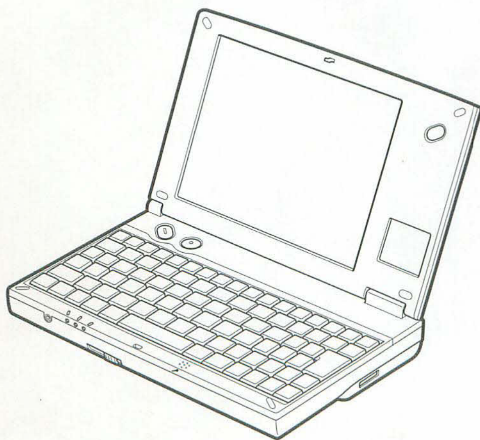


CASSIOPEIA
FIVA

FIVA 101
取扱説明書



お買い上げいただき、まことにありがとうございました。
本書はFIVA 101の基本的な取り扱い方を、簡単に正しく理解できるように書かれております。
本製品の取り扱い、操作をする前に必ずお読みいただき、またお読みになった後も必ず保存し、お手元においてご活用お願い致します。

CASIO

● 漏電電流自主規制について

この装置は、社団法人 日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

● 瞬時電圧低下について

[バッテリパックを取り付けている場合]

バッテリパック実装時は、社団法人 日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足していますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

[バッテリパックを取り付けていない場合]

この装置は落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

● 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報処理装置です。

この装置は家庭環境で使用することを目的としておりますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

● 国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。



安全上のご注意（必ずお守りください）

■ 安全に正しくお使いいただくために、ご使用の前にこの取扱説明書（本書）をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
また本書を大切に保管し、いつでも見られる所に置いてご活用ください。

■ 製品に表示されている警告・注意事項をお守りください。

■ この取扱説明書（本書）を紛失したり汚れて見にくくなった場合には再発行いたしますので、お買い上げの販売店へご依頼ください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が 想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される 内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、次の絵表示で区分し説明しています。



△記号は注意（危険警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図のなかに具体的な注意事項（左の場合は感電注意）が描かれています。



⦸記号は禁止の行為であることを告げるものです。図のなかや近傍に具体的な禁止内容（左の場合は分解禁止）が描かれています。

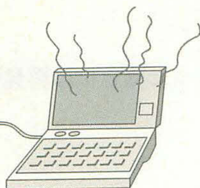


●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図のなかに具体的な指示内容（左の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告

本体について

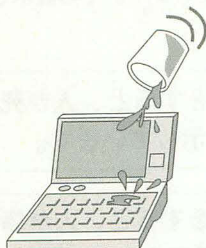




故障または煙が出る、変な臭いや異音がするなどの異常が起きたときは、すぐに電源スイッチを切り、バッテリパックを外し、コンセントから電源プラグを抜いてください。
そのまま使用するとショートして、火災や感電の原因となります。

■お買い求めの販売店またはお近くのサービスセンターにご連絡ください。





水などの液体の入った容器を近くに置かない／異物を内部にいれないでください。
水などがこぼれたり異物が中に入ったときは、すぐに電源スイッチを切りコンセントから電源プラグとバッテリパックを抜いてください。そのまま使用するとショートして、火災や感電の原因となります。

■お買い求めの販売店またはお近くのサービスセンターにご連絡ください。





風呂場など、水がかかったり湿気の多い場所には、置かないでください。
感電の原因となります。雨天や降雪中、海辺や窓際でのご使用は特にご注意ください。





装置を分解したり、改造は絶対にしないでください。
装置の内部には高電圧の部分があり、火災や感電の原因となります。

■点検整備修理は、販売店にご依頼ください。

⚠警告

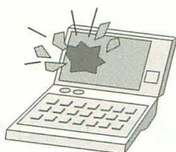




落としたり破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
そのまま使用するとショートして、火災や感電の原因となります。

■お客様による修理は大変危険ですから絶対にお止めください。お買い求めの販売店またはお近くのサービスセンターに点検をご依頼ください。



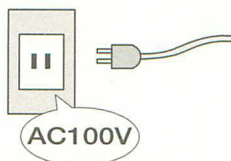


液晶ディスプレイ内部の液体は、人体に有害です。絶対に触ったり口にいれたりしないでください。

■ディスプレイ部が破損して、口に入った場合はすぐにうがいを、また皮膚に付着したり目に入った場合は、すぐに流水で 15 分以上洗浄して、医師に相談してください。

電源プラグ・ACアダプタについて

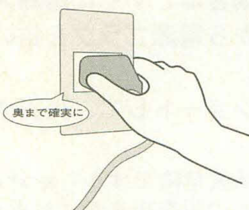




電源プラグは AC100V のコンセントに差し込み使用してください。
それ以外のコンセントに差し込み使用すると故障して、火災／感電の原因となります。また、プラグの接続をタコ足配線等で定格を超えると、コンセントが過熱し火災の原因となります。

⚠警告

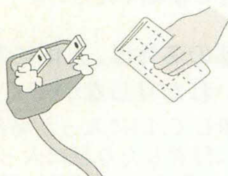

指示



電源プラグやACアダプタは根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全だと感電や過熱し、火災をおこす原因となります。

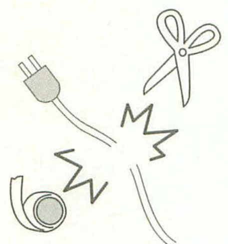
■傷ついた電源プラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。


指示



電源プラグの刃は、ほこりが付かないように定期的に乾いた布で掃除をしてください。
湿気などで絶縁不良になり、感電や火災をおこす恐れがあります。


禁止



電源コードや電源プラグを、傷つけたり加工はしないでください。
そのまま使用すると、コードの被覆の絶縁劣化や芯線の露出、断線により感電や火災の原因となります。

■電源コードや電源プラグの修理は、販売店にご依頼ください。


指示



本製品付属またはカシオ指定のACアダプタを使用してください。
付属または指定以外のACアダプタを使用すると、火災の原因となります。

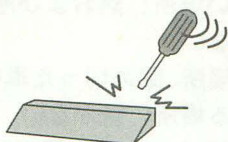
⚠警告





バッテリは本製品付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、カシオ指定の製品を使用してください。
指定以外の製品は、電圧や極性が異なる場合があり、火災や破裂の原因となります。





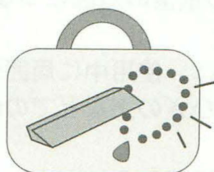
バッテリパックは分解・改造しないでください。
分解・改造すると、発熱、発火、あるいは破裂の原因となります。





バッテリパックを火の中に投げ入れたり過熱しないでください。
発火、あるいは破裂の原因となります。



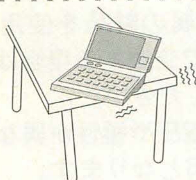


バッテリパックの電極の（＋）（－）を針金などの金属で接触させない、また、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
電極がショートすると、発熱、発火、あるいは破裂の原因となります。

■バッテリパックを持ち運ぶときや保管するときは、電極が金属に触れないようにビニールなどで包んでください。

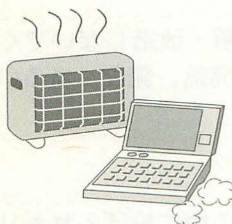
⚠注意





ぐらついた台や傾いた所には置かないでください。落ちたりしてけがをしたり、故障による火災、感電の原因となります。

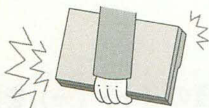




次のような場所には置かないでください。
- 湿気やほこりの多い場所、熱および冷気が直接当たる場所に置かない。
- 直射日光の当たる場所、閉め切った車中など、異常に温度が高くなる場所に置かない。

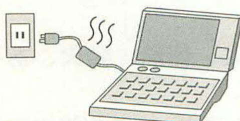
環境条件により機器不良や変形、発火による火災の原因となります。





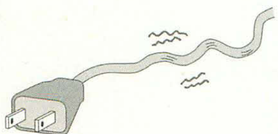
持ち運ぶときには、振動・衝撃等が加わらないようにしてください。
本装置にはハードディスク等精密機器が内蔵されていますので、装置の損傷の原因につながります。





本体や AC アダプタは、使用中に周囲が熱くなりますので、長時間のひざの上などでの使用は避けてください。
低温やけどをおこす原因となります。



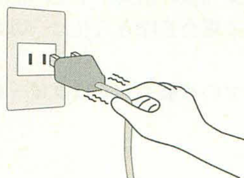


電源コードは無理に曲げたり机等にはさまないようにし、またコードの上には物を置かないでください。
断線したり中の電線が切れたりして、火災、感電の原因となります。

■コードやケーブルが傷んだら（芯線の露出、断線など）、交換をご依頼ください。

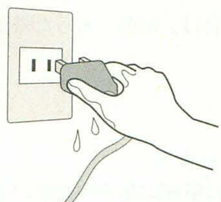
⚠注意


指示



電源コードをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグ部分を持って行うようにしてください。
コードを引っ張るとコードが傷つき、断線やショートして火災や感電の原因となります。


禁止



濡れた手で電源プラグを、抜き差ししないでください。
感電の原因となり、また電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。


禁止



ヘッドフォン使用時は、音量を上げすぎないでください。
音量が大きすぎると聴力に悪い影響がでて、難聴の原因となります。


指示



健康のために、次のことをお守りください。
連続して使用する場合は、1 時間毎に 10 ～ 15 分間休憩し、目や手を休ませてください。
また、使用する場所が明暗の差が大きかったり、画面に直射日光が当たる場所では使用しないでください。
視力の低下、けんしょう炎、腰痛等の障害の原因となります。

ご使用の前に

・この製品は厳重な品質管理と製品検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買い上げの販売店またはもよりのカシオサービスセンターまでご連絡ください。添付の「保証書」の定めるところにより修理を行います。
・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
・本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失／事業の中断／記憶内容の変化・消失等）に関して、法令上賠償責任が認められる場合を除き当社は一切責任を負いません。
・購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いにはご注意ください。

●仕様について

・本製品は、国内仕様向けです。国外で本製品を使用する場合は、電源にあった電源コードをお求めください。

●製品の用途に関するご注意

・本製品は、事務用機器として使用されることを意図しております。
・本製品の故障や誤動作が直接人命を脅かしたり、身体または財産に危害の恐れのある装置やシステム（交通機器、安全装置、医療機器等）には使用しないでください。

●再セットアップについて

・本製品は、あらかじめハードディスクにソフトウェア（Windows 98 やユーティリティ等）がインストールされています。万一の不具合により、これらに障害が発生したときは、同梱されている「Product Recovery CD-ROM」を使用してシステムの復元を行うことができます。これにより、本製品は購入時の状態に戻ります。

●コンピュータウイルス

❏コンピュータウイルスの感染を防ぐために

コンピュータウイルスとは、プログラムの一種です。ユーザー（使用者）が気が付かないうちにシステムに入り込み、異常なメッセージを表示したりプログラムやデータの一部を破壊したりするものなどさまざまなものがあります。

フロッピーディスクやネットワークを介して、ウイルスに感染したプログラムやデータを受け取る可能性があります。感染を少しでも防ぐために、以下を参考にしてください。

・プログラムやデータファイルなどのマスターは、書き込み禁止（ライトプロテクト）にして保管する。
・出所が不明なデータやプログラムは使用しない。
・入手したプログラムは必ずウイルス検査してから使用し、定期的にウイルス検査を行う。

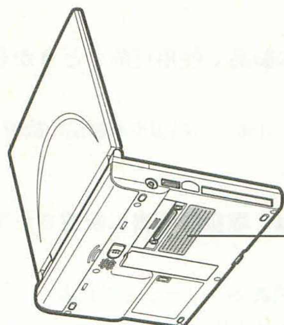
❑ 最新のウイルスチェックプログラム（市販）を入手し、チェックを行う。

特に以下の場合、ウイルスチェックを行うことをおすすめします。

・コンピュータを起動するとき

・フロッピーディスクなどの外部メディアから、またネットワーク、パソコン通信、電子メールなどから入手したデータ（圧縮されている場合は、圧縮解凍後のファイル）を使用または実行する前にウイルスチェックを行ってください。

●本体について



ご使用上のお願い

・周辺機器の接続・取外しは電源を切ってから行ってください。

・精密機器につき衝撃、振動を与えないでください。

・サービスマン以外の方による分解は行わないでください。

・ACアダプタは指定のものをご使用ください。

・使用中に底面部が熱くなることがありますので、長期間のひざの上などでのご使用はお避けください。低温やけどを起こす可能性があります。

❑ 電源について

・電源はAC100V 50/60Hzを使用してください。

・データ不良等の原因となりますので、ノイズを発生する機器とは別の電源に接続してください。

❑ 決められた手順で電源を切ってください。

・システムの立ち上げ時やプログラム実行中に電源プラグを抜くなど、強制的に電源を切ることは、絶対に行わないでください。データ消失等の損傷の原因となり、機器の故障につながることがあります。

・短時間に電源を入れたり切ったりは、行わないでください。誤動作を起こしデータ消失等の損傷の原因となり、機器の故障につながることがあります。

❑ 接続ケーブルについて

・装置への各種接続ケーブルは、添付品のケーブルをお使いください。

・断線やショートの原因となりますので、ケーブルを強く引っ張ったり、ケーブルの上に重いものを載せないでください。

❑ 振動や衝撃を与えないでください

・強い振動や衝撃は、装置の故障や誤動作の原因となります。特に使用中の場合は、内蔵のハードディスクのデータを壊してしまう可能性がありますので注意してください。

❑ 持ち運ぶときの注意です

・移動させるときは必ず電源スイッチを切り、周辺機器（ポートリプリケータや別売りのCD-ROM装置等）をすべて外したことを確認して、個別に移動してください。接続ケーブルを持って機器を持ち運びすると、ケーブルの断線や故障の原因となります。

●周辺機器について

❑ カシオ指定以外の周辺機器を使用する場合は、本製品で使用可能かどうかを取り扱い元へ確認してください。

・カシオ指定以外の周辺機器が原因で発生した損害（傷害、財産への損害や本製品の故障等）については、当社では責任を負いません。ご了承ください。

❑ 周辺機器を接続したり、取り外したりする場合は、取扱説明書に記述されている以外の操作はしないでください。

・故障の原因となります。また、不適切な操作をすると本装置がダメージを受けることがあり、本装置を適切な状態に戻すために広範囲な作業が必要となります。

●ハードディスク、フロッピーディスクのデータ保護について

❑ ハードディスク装置（アクセスランプが点灯中）、フロッピーディスク装置（別売り）が動作中は、電源を切ったりフロッピーディスク装置の取出ボタン（イジェクトボタン）を押したりしないでください。

・データやアプリケーションが使えなくなる場合があります。

❑ ハードディスクに保存している大切なデータは、万一の不具合（故障・変化・消失等）に備えて定期的にフロッピーディスク等に保存してください。本製品は次のような場合、本体内の記憶内容が変化し消失する恐れがあります。（ハードディスク等に保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いません。）

・誤った使い方をしたとき
・故障、修理のとき

❑ 一度使用したフロッピーディスクをフォーマット（初期化）するときは、その前に内容を確認してからにしてください。

・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。

● CD-ROMのお取り扱いについて

❑ CD-ROM は、ほこりやちりの影響を受けやすいものです。次のことにご注意ください。

・CD-ROMは専用のケースに入れ、大切に保管してください。
・CD-ROMを持つときは、外側の端か中央の穴の所を持つようにしてください。
・CD-ROMを折ったり曲げたり、字を書いたり傷をつけたりしないでください。
・CD-ROMにラベルなどを貼らないでください。
・CD-ROM は、直射日光が当たるところや極端に暑くなったり寒くなったりするところには置かないでください。
・汚れたCD-ROMは、柔らかい布で中心から外側へ放射状に拭いてください。

●消耗品について

❑ 次の部品は、消耗品です。

・標準バッテリパック
充電機能は、長時間の使用により消耗し低下します。充電機能が低下した場合は、あらたにバッテリパックをお買い求めください。

お買い求めは、お使いの機種を確認のうえお買い上げの販売店またはお近くのサービスセンターへご相談ください。

●本機の廃棄方法について

・本機を廃棄するときは、地方自治体の条令に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

保守について

●通常のお手入れ



お手入れ時は、安全のため必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。電源を切らずにお手入れをすると、感電の原因となります。

・装置の清掃は、柔らかい布で乾拭きし、汚れのひどい場合は水または薄めた中性洗剤を使用した布を固く絞って拭くようにしてください。液晶ディスプレイ部分は、やわらかいきれいな布で拭いてください。(水や中性洗剤、化学ぞうきんなどは使わないでください)。また、表面は傷つきやすいので無理な力が加わらないように注意して清掃してください。
・シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は、機器が変形したり脱色したりして、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

●修理について

下記の時には、装置の電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜き、販売店またはお近くのサービスセンターへご連絡ください。
・電源コードもしくは電源プラグが損傷した。
・何かの液体を本装置に滴らした。
・本装置が雨や水にさらされた。
・本装置を落下させた、もしくはカバーが損傷した。
・本装置の機能が著しく変わってしまった。
・本書通りに操作しても、正常に動作しない。本書に記載していない部分を調整することはしないでください。これら未記載部分の不適切な操作をすると本装置がダメージを受けることがあり、本装置を適切な状態に戻すために広範囲な作業が必要となります。

ご自分で修理することはおやめください。

もくじ

1

2

3

付録

この取扱説明書の読みかた

本書は「ご使用の前に」と3つの章で構成されています。本書の冒頭にもありますように、「ご使用の前に」の「安全上のご注意」からまずお読みください。
次に、第1章は本製品をはじめてお使いになる方のための基本的な知識が書かれています。第2章は、操作に慣れていただくために、第3章は周辺機器の接続や困ったときに役立つ内容が書かれています。
順にお読みになった後、作業をする場合は、本書を手元において確認しながら行ってください。
また、周辺機器に添付されているマニュアルや使用するソフトウェアに同梱されているマニュアル類も必要に応じてお読みください。

ご使用の前に

本製品を使うに当たって「安全上のご注意」と「使用上のご注意」を説明しています。

第1章　はじめて使うとき

ご使用の前に本機の機能や名前を覚えていただきます。また、初めてご使用いただく前のご注意について説明します。

第2章　使いかた

電源を入れる／切る方法や、初めて本機をご利用になる場合に必要となるWindows 98のセットアップ方法について説明します。

第3章　必要なときに

本体への周辺機器の接続方法と便利な機能について、また困ったときに役立つ内容について説明します。

付録　再セットアップ

シンボルマークについて



：注意して頂きたい事項について説明しています。



：知っておいて頂きたい事項について説明しています。



：参照して頂きたいページを示しています。

はじめて使うとき

1章

ご使用の前に本機の機能や名前を覚えていただきます。また、初めてご使用いただく前のご注意について説明します。

各部の名前とそのはたらき

本機の各部の名前と場所、そしてそのはたらきについて説明します。この取扱説明書ではこうした各部の名称が頻繁に使われますので、ここに出ている名前をよく覚えておいてください。

本機の説明をする前に、まずディスプレイ部を開いてみましょう。

●ディスプレイ部を開ける

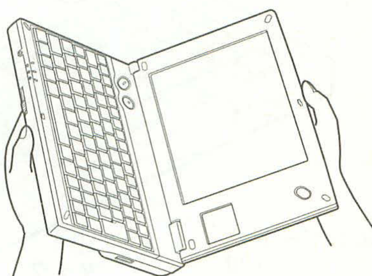
ディスプレイ部はラッチによって閉じています。開ける際には、両手で中央部分を持ち、左右に開いてください。



本機のディスプレイ部を開けるときに、手を滑らせて、本体を落とさないようにご注意ください。







●本体（表面）

コントロールボタン（右）
マウスの右ボタンと同じはたらきをします。また、このボタンを押しながらサムパッドに触れると「ジェスチャ機能」（89ページ）がはたらきます

ディスプレイ
HAST
HYPER AMORPHOUS SILICON TFT 6.7型カラー TFT LCD（SVGA）

リッドスイッチ
設定により省電力の機能がはたらきます

電源スイッチ
本体電源のON/OFFを行います

コントロールボタン（左）
マウスの左ボタンと同じはたらきをします

キーボード

サムパッド[*2]
カーソルを移動させるマウスの役目と「ジェスチャ機能」の2役のはたらきをします

ヘッドホンポート
市販のオーディオ用ヘッドホンスピーカ等を接続します

マイク

通信ポート[*1]
データ通信を行います

PCカードリリースレバー
PCカードの取り外しに使います

インジケータランプ
LEDランプで次の状態を右から示します。
- PW　電源表示ランプ（44ページ）
- BAT　バッテリ状態表示ランプ（28, 45ページ）
- HDD　ディスクアクセスランプ（動作時緑色）

*1　通信ポートなしのモデルもあります。
*2　サムパッド（thumb pad）のサムは親指のことです。

●本体（裏面）

ACアダプタIN
ACアダプタからの電源コードをつなげます

バッテリ･リリースラッチ
リリースラッチを動かしてバッテリパックを外します

USBコネクタ
USB対応機器を接続します

赤外線通信ポート

拡張コネクタ
ポートリプリケータを取り付けます

1

バッテリパック
着脱可能なバッテリパックが取り付けられます

スピーカ

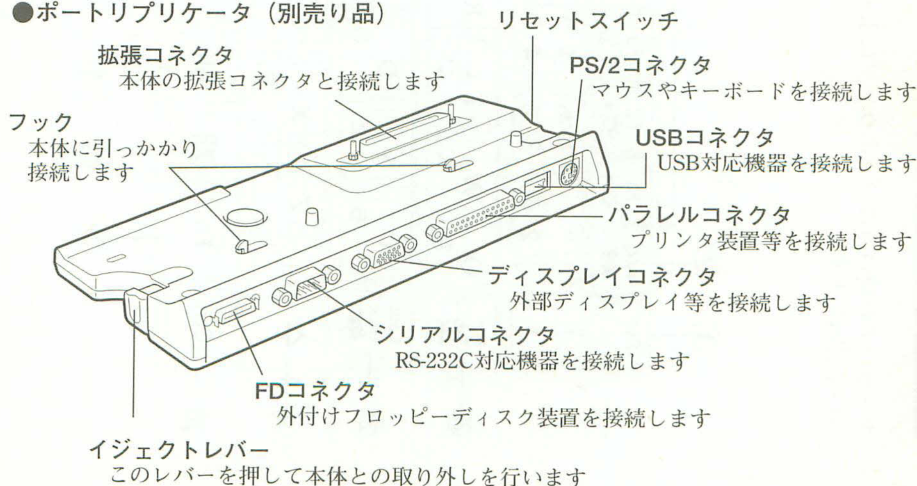
PCカードスロット
各種PCカードをここから接続します

RAMモジュール用ネジ

RAMモジュール用ふた
増設用RAMモジュールをセットします

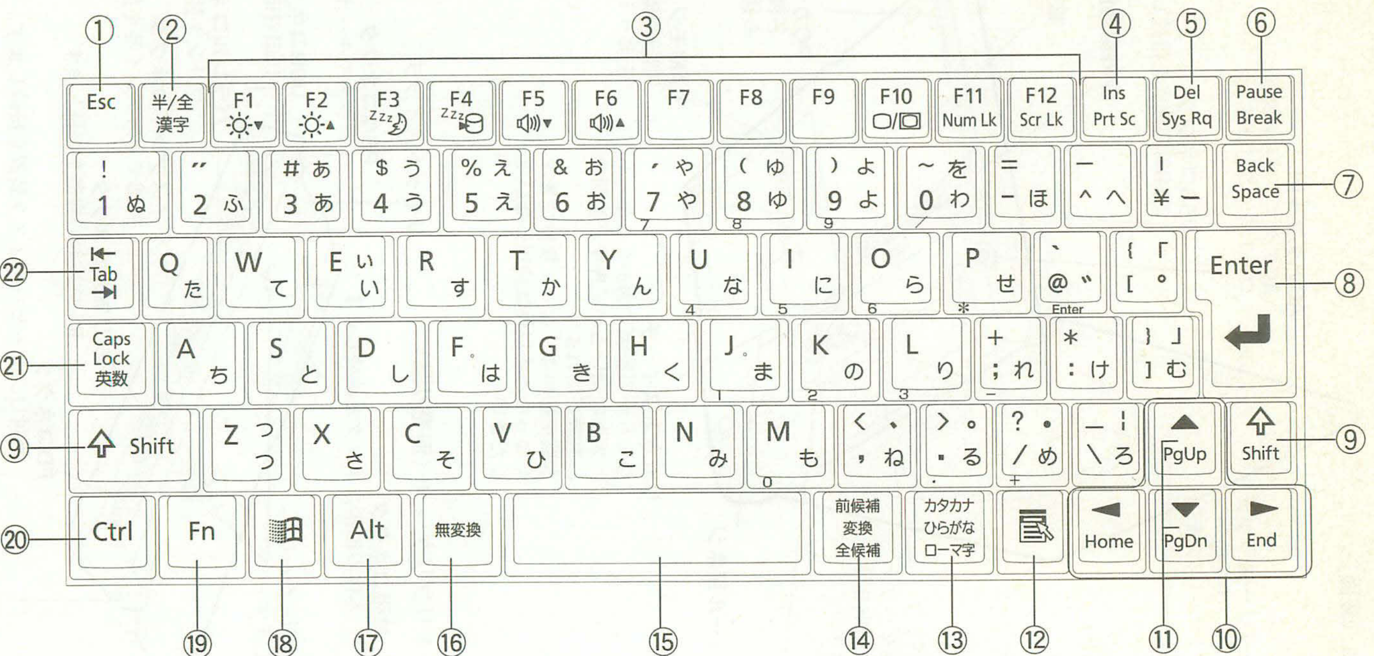
リセットスイッチ
なんらかの原因で動かなくなったとき先の細いもので押すと強制的に電源が切れます
本機が動かなくなって操作できなくなったとき以外は使用しないでください

●ポートリプリケータ（別売り品）



キーボード

キーボードの使い方はソフトウェアによって違いますが、ここでは基本的な使い方について説明します。



キー項目の説明は、お使いの日本語入力システムやアプリケーションにより変わることがあります。

番号	項目	キー名称	説明
①	Esc	エスケープ	操作を取り消すときに使います
②	半/全	漢字　半角・全角	カタカナ・英字を半角／全角で入力するときに使います
③	F1 ～ F12	ファンクション	特定の操作を実行するときに使います
④	Ins	インサート(挿入)	文字を挿入するときなどに使います
⑤	Del	デリート(削除)	文字を削除するときなどに使います
⑥	Pause	ポーズ(中止)	処理を一時停止するときなどに使います
⑦	Back space	バックスペース（1文字後退）	入力された文字を1文字ずつ削除します
⑧	Enter	エンター(リターン)	入力の確定／改行時に使用します
⑨	Shift	シフト	アルファベット（英字）の英大文字／英小文字の選択をします
⑩	▶ ◀ ▲ ▼	カーソル移動	カーソル移動などで使います
⑪	PgUp PgDn	ページアップ･ダウン	Fn とあわせ前のページ、次のページへの移動ができます
⑫		アプリケーション	マウスの右ボタンのクリック、またはコントロールボタンの右ボタンを押したのと同様の動作をします
⑬	カタカナ・ひらがな・ローマ字	かな　入力	日本語入力するときに、カタカナ→ひらがな→ローマ字で入力されます
⑭	前候補・変換・全候補	変換	入力された文字を変換するときに使います
⑮		スペース	空白文字を入力するときに使います
⑯	無変換	無変換	入力文字をそのまま確定するときに使います
⑰	Alt	オルタネート	他のキーと組み合わせて特定の操作を実行するときなどに使います
⑱		Windows	Windows 98 のスタートメニューを表示するときに使います。また、他のキーと組み合わせてショートカットとして使うこともできます
⑲	Fn	エフエヌ	オーバーレイキーを使用するときに使います
⑳	Ctrl	コントロール	他のキーと組み合わせて特定の操作を実行するときなどに使います
㉑	Caps Lock 英数	キャップスロック 英数	日本語変換システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります
㉒	TAB	タブ	設定された次のタブ位置までカーソルを移動します

●キーの組み合わせによる機能

あるキーを押しながら別のキーを押すときは、次のように「＋」を使って表記します。

Shift ＋ CapsLock／変換	一度押すとアルファベットを入力したときに大文字が入力されるようになります。もう一度押すとアルファベットを入力したときに小文字が入力されるようになります。
Alt ＋ 半／全	一度押すと日本語入力システムが起動され、日本語が入力できるようになります。もう一度押すと、日本語入力システムは終了し、日本語入力はできなくなります。
Alt ＋ カタカナ／ひらがな	（MS-IME98使用時のみ 24ページ）日本語入力システムが起動されているとき、一度押すと「かな入力モード」になります。もう一度押すと「ローマ字入力モード」になります。
Ctrl ＋ Alt ＋ Del	電源を切らずに、システムを再起動します。
Fn ＋ Ins	現在表示中の全体画面を、クリップボードにコピーします。
Alt ＋ Fn ＋ Del	現在実行中のアクティブな画面を、クリップボードにコピーします。

田 キーと他のキーとの組み合わせにより、次のようにショートカットキーとして使用できます。

田 ＋ R	「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスを表示する。
田 ＋ M	すべてをアイコン化する。
Shift ＋ 田 ＋ M	すべてのアイコンを元に戻す。
田 ＋ F1	ヘルプを起動する。
田 ＋ E	Windows Explorer　を起動する。
田 ＋ F	ファイルまたはフォルダを検索する。
Ctrl ＋ 田 ＋ F	他のコンピュータを検索する。
田 ＋ Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える。
田 ＋ Break	「システムのプロパティ」ダイアログボックスを表示する。

Fn を押しながら他のキーを押すと特殊機能が有効になります。この機能を「ホットキー機能」といいます。

Fn ＋ F1 と F2	液晶ディスプレイの輝度をダウン（暗）、アップ（明）します。
Fn ＋ F3	スタンバイ状態にします。（39ページ）
Fn ＋ F4	ハイバネーション状態にします。（39ページ）
Fn ＋ F5 と F6	スピーカの音量を小さく／大きくします。
Fn ＋ F10	画面表示の表示先を切り替えます。 （液晶→ＣＲＴ→ＣＲＴ＋液晶→液晶）



システムの起動中、スタンバイやハイバネーション状態ではホットキー機能は動作しないことがあります。
高速でデータ通信を行っている場合にホットキー機能を使用すると、通信エラーになることがあります。

● NumLock 状態のキー配置

NumLock は、0～9、＋、－のようにテンキー入力の代わりに利用できます。
[Fn] を押しながら [F11] を押すと NumLock 状態となり、以下のようなキー配置となります。再び [Fn] ＋ [F11] により、NumLock 状態は解除されます。



● 日本語入力システム

本機には、Microsoft 社製の日本語入力システム　MS-IME98 が標準装備されています。

❑ 日本語入力システムの起動

漢字変換を行うためにMS-IME98を起動するには、次の方法があります。

・メニューバーの



ここをクリックして、メニューから「全角ひらがな」を選択します

・ Alt ＋ 半／全 から、日本語入力システムを起動する。

漢字変換が行えるようになると、メニューのツールバーは以下のようになります。

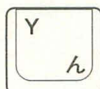




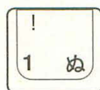
日本語入力システム MS-IME98 の詳しい使い方は、「MS-IME98 のオンラインヘルプ」をご覧ください。

● 入力するキーの表現

本文中で操作で入力するキーを表すときには、説明に必要な部分だけを□で囲んで表現します。



キーを押す　→　Y を押す

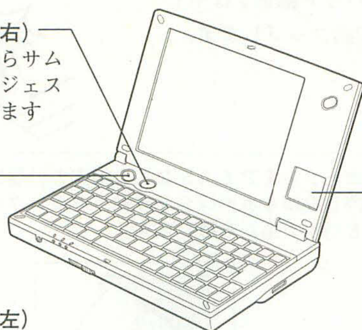


キーを押す　→　1 を押す

サムパッドとコントロールボタン

本機には、マウスと同じはたらきをするサムパッドと2つのコントロールボタンが装備されています。このサムパッドにタップ（トンと叩く）することでクリック動作となったり、また字を書くようになぞる（ジェスチャ機能）ことでソフトを呼び出したりすることができます（89ページ）。

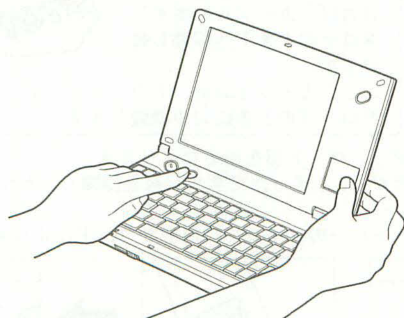
ここでは、サムパッドの基本的な操作説明をしますが、詳細はサムパッドのヘルプをご覧ください。



*サムパッド（thumb pad）のサムは親指のことです

●基本操作

右ボタンとサムパッドを同時に操作するときは、イラストのように操作します。



右ボタンを左手の人差し指で押さえながら、右手の親指でサムパッドをなぞるとジェスチャ機能がはたらきます。
サムパッドをタップする（ボタンは両方とも押さない）と、マウスの左ボタンと同じはたらきになります。
右ボタンだけを押すと、マウスの右ボタンと同じはたらきになります。

機能	操作説明	
	コントロールボタン	サムパッド
クリック	左ボタンを1回押します。	パッド部を1回タップします。
ダブルクリック	左ボタンをすばやく2回押します。	パッド部をすばやく2回タップします。
ドラッグアンドドロップ	左ボタンを使用します。	カーソルをアイコンなどの指定の位置に移動し、左ボタンを押しながらポインタを移動（ドラッグ）し、目的の場所で指をパッド部から離します。
エッジモーション	使用しません。	エッジモーションを使えば、パッド部で何回も繰り返し指を上げ下げしてカーソルを移動することはありません。 パッド部の端（これをエッジといいます）まで指をなぞりそのまま指を移動しなければ、カーソルのポインタはそのまま下へ移動し続けます。 エッジモーションは、ドラッグアンドドロップのときにのみ機能します。
ジェスチャ（89ページ）	右ボタンを押さえながら、パッド部を指でなぞります。 右ボタンを離したときから、なぞった文字や記号を認識し、それぞれに対応した操作を実行します。 認識の可否は、メニューバーのアイコンの色やサウンドにより判断ができます。	

ACアダプタからの電源でも使用できますが、バッテリで使用する場合は、付属のバッテリパックを本体に取り付けて充電を完了してからFIVAの電源を入れてください。

●バッテリパックの取り付け／取り外し

使用中にバッテリパックがはずれたりしないように、取り付け／取り外しの方法を練習してください。

別売りの大容量のバッテリパックの取り付け／取り外しは、標準のバッテリパックと同様にできます。



付属のバッテリパックは、購入時には充電されていません。充電を完了してからお使いください。

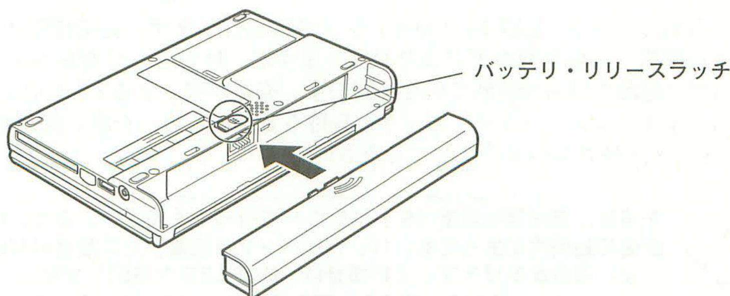


バッテリパックは、必ず本体に付属またはメーカー指定の製品を使用してください。指定外の製品を使用していると、発煙・発火して火災の原因になります。

❏ 取り付け

手順

1. ディスプレイ部を閉じて、本体を裏返します。
2. バッテリパックを「カチッ」という音がするまで、静かに差し込みます。もし、バッテリパックが入りにくいような場合は、バッテリ・リリースラッチをスライドさせながら、バッテリパックを差し込んでください。



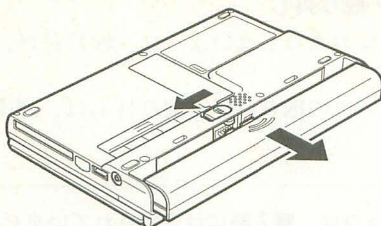


バッテリパックがしっかりと取り付けられていることを必ず確認してください。正しく装備されていないと、持ち運びの際に外れ、故障やけがの原因になります。

取り外し

手順

1. ディスプレイ部を閉じて、本体を裏返します。
2. バッテリ・リリースラッチをスライドさせながら、バッテリパックを引き抜きます。

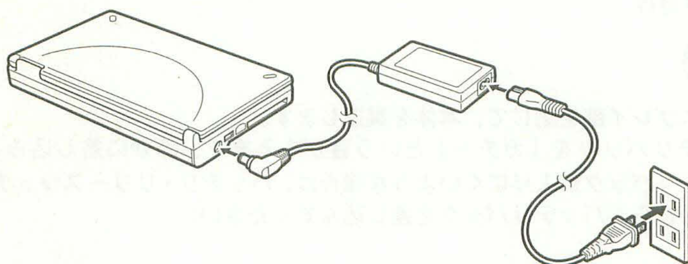




パッテリパックは、しっかりと手に持って取り外してください。乱暴に外すと、足の上などに落ちて思わぬけがの原因となります。

●バッテリパックの充電方法

本機にバッテリパックを取り付け AC アダプタを接続すると、電源が入っていても切れていても、バッテリパックへの充電が行われます。



充電が開始されると、BAT-LED がオレンジ色に点灯します。充電時間は、周囲の温度や周辺機器の接続状態などにより異なりますが、目安として電源が入った状態で約 4 時間、電源を切った状態で約 2 時間です。充電が完了すると、BAT-LED が緑色に変わります。なお、バッテリパックを長持ちさせるため、充電が完了するまでは、AC アダプタを外さないようにしてください。



充電は、使用環境温度（5 ～ 35 ℃）で行ってください。また、使用環境温度の範囲内であっても、バッテリパックが低温または高温の時は充電できない場合があります。その場合は、BAT-LED が点灯しません。

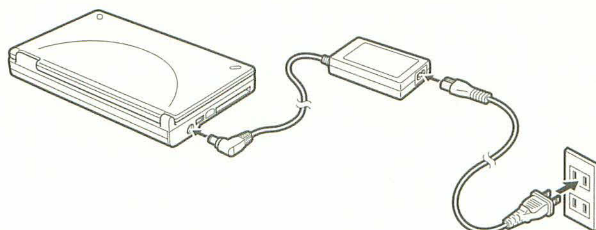
・充電中に BAT-LED が点灯しなくなった場合は、内部の保護回路がはたらき、充電が中止された可能性があります。このような場合には、いったん AC アダプタとバッテリパックを本体から取り外し、再び取り付けてください。このような現象が繰り返し起こる場合は、故障の可能性がありますので、お買い上げの販売店またはサービスセンターへご相談ください。

BAT-LEDの状態	内　容
緑色点灯	充電が完了しました。
オレンジ色点灯	充電中です。
充電しようとしても消灯	充電できません。使用環境温度にしてから充電してください。
充電中に消灯	充電が中止されました。バッテリパックの取り付けを確認してください。または故障の可能性があります。

1

● ACアダプタを取り付ける

ACアダプタを取り付けてください。
バッテリパックを取り付けた状態でも、ACアダプタの接続はできます。





バッテリパックの取り付け時は、BAT-LEDが緑色（満充電）になるまでは、ACアダプタを外さないようにしてください（バッテリパックを長持ちさせるためです）。
本機にACアダプタを接続しないときは、コンセント側も抜いておくようにしてください（無駄な電力消費が防げます）。

使いかた

2章

電源を入れる／切る方法や、初めて本機をご利用になる場合に必要となる Windows 98 のセットアップの方法について説明します。

はじめて電源を入れるとき
電源を切るとき
電源を入れる（2 回目以降）
バッテリパックを使う
スピーカの音量を設定する
ディスプレイの明るさを設定する

はじめて電源を入れるとき

本機に初めて電源を入れるときは、ライセンス情報などを設定するための「Windows 98 セットアップ」の操作が必要となります。この操作は、電源を初めて入れたときの1度だけ行うもので、次回に電源を入れたときにはWindows 98の初期画面が表示されるようになります。

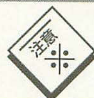
「Windows 98 セットアップ」の作業を進めるには、同梱されている「ファーストステップガイド Windows 98」に貼られている「プロダクト キー」が必要です。お手元に準備したうえで、セットアップを開始してください。

「Windows 98 セットアップ」では、次の設定／操作を行います。

設定する項目	内　容
ユーザー情報	名前と会社名の登録
使用許諾契約書	Windows 98の使用許諾書への同意
プロダクト キー	Windows 98のプロダクト キーの入力
Windowsパスワードの入力	ユーザー名とパスワードの入力

●**Windows 98 のセットアップ**

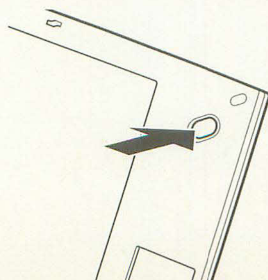
初めて電源を入れたときには、Windows 98 のセットアップが必要です。手順に従って、必要事項を入力してください。



Windows 98 セットアップ中は、電源を切らないでください。また、必ずACアダプタを接続した状態で操作してください。

手 順

1. **ディスプレイ部を開けます。**
2. **電源スイッチを軽く押します。**
(画面表示されるまで時間がかかりますが、押し続ける必要はありません)



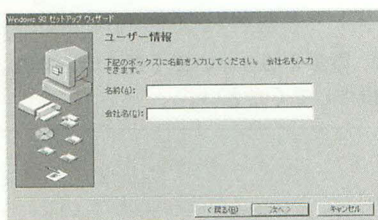
3.「CASIO」のロゴが画面に表示されます。



画面が一瞬消え、そのまましばらくすると、Windows 98が起動します。
初めて電源を入れた場合は、続いてWindows 98セットアップの操作となります。

4. ユーザー情報を入力します

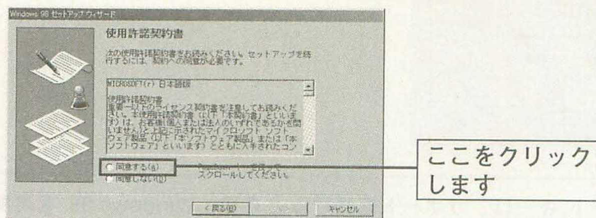
ここでは、名前と会社名を登録します。名前の入力は必須ですが、会社名は省略可能です。なお、日本語入力システムが起動されています。入力方法は、「ローマ字入力」です。［名前］を入力したら、TAB を押します。カーソルが［会社名］に移動します。



名前と会社名を入力したら、ご確認のうえ、［次へ>］ボタンをクリックしてください。

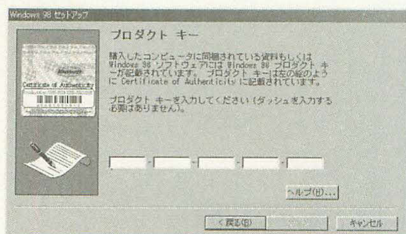
5. 使用許諾契約書を確認します

「マイクロソフト ソフトウェア使用許諾契約書」の内容を必ずお読みください。すべての説明を読むには、画面のスクロールバーの▲、▼ボタンまたは PgUp（Fn ＋ ↑）、PgDn（Fn ＋ ↓）を使って表示内容をスクロールしてください。



[同意する] の左にある○部分をクリックし、[次へ>] ボタンをクリックしてください。

6. プロダクト キーを入力します



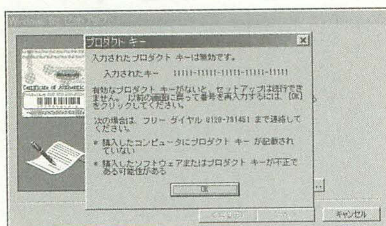
同梱されている「ファーストステップガイド Windows 98」に貼られた「Certificate of Authenticity」に印刷されている英数字（プロダクト キー）を入力し、[次へ>] ボタンをクリックしてください。この入力では、Shift を押さない状態でも英文字が大文字で入力されます。



プロダクト キーを入力する際は、0（ゼロ）とO（オー）、B（ビー）と8（ハチ）など間違いやすい文字がありますので、十分注意してください。

2

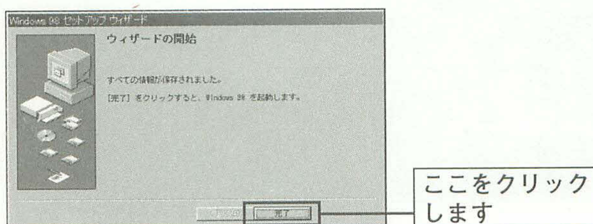
プロダクト キーの入力が正しくない場合は、以下のメッセージが表示されます。この場合は［OK］をクリックして、再度プロダクト キーを入力し直してください。



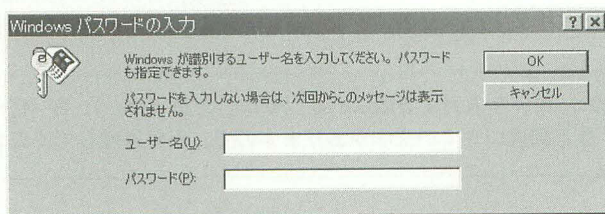


プロダクト キーは、サポートを受けるときや、Windows 98 を再度セットアップするときなどに必要になります。「ファーストステップガイド Windows 98」ともども大切に保管してください。

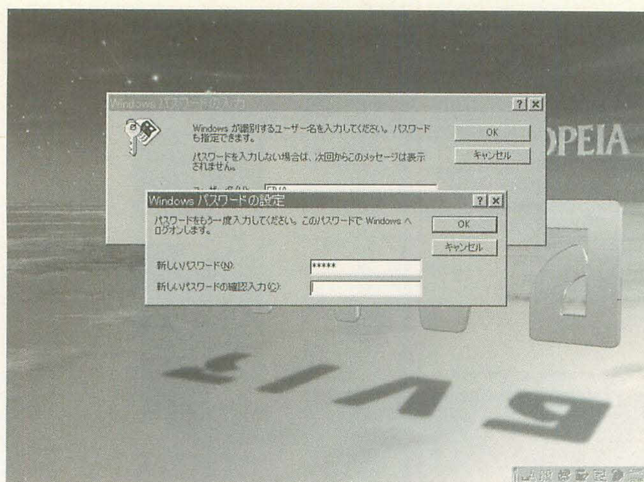
プロダクト キーの入力が完了すると、「ウィザードの開始」画面となります。［完了］ボタンをクリックしてください。



7. ユーザー名とパスワードを入力します



Windows 98 を利用するユーザーの名前と、その人のパスワードを入力します。ユーザー名とパスワードの入力を省略すると、次回の起動からはこの画面は表示されません。ユーザー名を入力したら、TAB を押します。するとカーソルが［パスワード］に移動します。パスワードでは、入力した文字がすべて「＊」で表されます。パスワードの入力が完了したら、［OK］ボタンをクリックします。



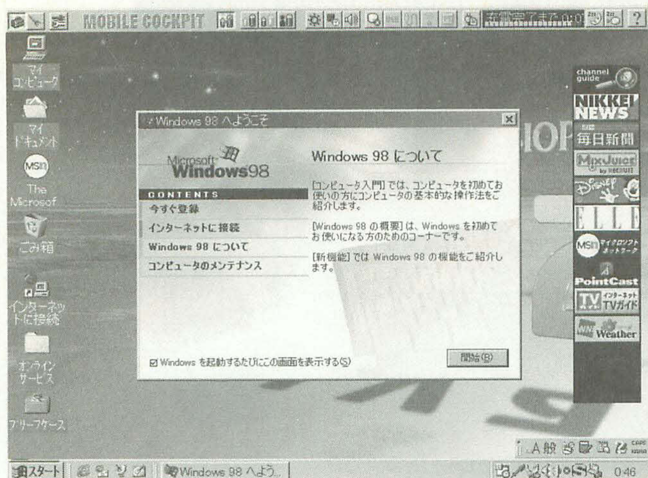
パスワードの確認を行うため、同じパスワードを「新しいパスワードの確認入力」に入力します。ここでも入力した文字がすべて「*」で表されます。入力が完了したら[OK]ボタンをクリックしてください。ここで入力したユーザー名とパスワードは、次回からのWindows 98のログインに必要となります。

8. ［日付と時刻のプロパティ］を設定します



［タイムゾーン］は、［(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌］が選択されていることを確認します。［日付と時刻］タブをクリックし、日付と時刻を設定します。月は、［▼］をクリックし、リストから月を選択します。日は、カレンダー上で数字をクリックすることで設定します。時刻は、時、分、秒をそれぞれ数字で入力します。AM、PMは［▲］、［▼］で切り替えます。設定後、［閉じる］ボタンをクリックします。

2



以上でWindows 98セットアップは完了です。この後Windows 98の初期画面が表示され、Windows 98を利用できるようになります。Windows 98の操作方法については、同梱の「Windows 98オペレーションガイド」を参照してください。



本機には、さまざまなソフトがあらかじめインストールされています。これらの利用方法については、67ページを参照してください。

スタンバイとハイバネーション

本機では、電源を切る方法によって、

- ・電源が切れた状態
- ・スタンバイ状態
- ・ハイバネーション状態

の3種類の状態にすることができます。これらは、電源を切った状態での電力消費量や、Windows 98 が再度利用可能になるまでの時間などが異なります。それぞれの特徴を理解して、適切な方法を選ぶようにしてください。

●電源が切れた状態

Windows 98を完全にシャットダウン（終了）し、電力供給を停止します。このためハイバネーション状態の場合と同様に、バッテリの寿命は長くなりますが、再度電源を入れるときには、Windows 98 を最初から起動する必要があります。Windows 98 やアプリケーションの以前の状態は保存されません。長期間にわたって電源を切る場合や、増設メモリを拡張するような場合には、この方法を選択します。

●スタンバイ状態

スタンバイでは、液晶画面の表示を始め、ほとんどのデバイスが休止状態になりますが、Windows 98やアプリケーションの実行状態はメモリに保存されたまま、すぐに使用できるように準備されています。このため Windows 98の画面に戻るまでの時間は最も短くなりますが、代わりにわずかながら常時電力を消費しています。操作途中でほんの一時的にパソコンから離れて、すぐにまた先程の操作から再開する場合などに適しています。サムパッド等に触れることで、回復します。

●ハイバネーション状態

Windows 98やアプリケーションの実行状態を保存する点ではスタンバイ状態と同じですが、ハイバネーション状態では、これらの情報をハードディスクに記録して、システムへの電力供給を停止させます。メモリに書き込まれた情報から Windows 98の画面に戻るスタンバイ状態に比較すると、戻るまでにかかる時間は長くなりますが、電力は消費しません。長時間にわたってパソコンの操作を中断したいとき、Windows 98 やアプリケーションの状態を先程の状態のままで保存しておきたい場合に適しています。電源スイッチを押すことで、回復します。

電源が切れた状態と、スタンバイ状態、ハイバネーション状態の違いをまとめると、以下の表にようになります。

状態	状態の保存先	復帰までにかかる時間	電力の消費	PW-LED表示
電源が切れた状態	ー(保存しない)	遅い(再起動する)	なし	消灯
スタンバイ状態	メモリ	速い	あり	点滅
ハイバネーション状態	ハードディスク	遅い	なし	消灯



バッテリパックのみで本機を使用している場合、初期状態では、キーやサムパッドの入力がなくなってから 10 分で自動的にスタンバイ状態となります。さらに、そのまま 10 分が経過すると、ハイバネーション機能がはたらきます。



バッテリパックのみの状態で長時間スタンバイ状態にしていると、正常に復帰できなくなる場合があります。長時間放置する場合は、電源が切れた状態にするか、ハイバネーション状態にしてください。

電源を切るとき

本機の電源を切る方法には、以下の 4 種類があります。これらは、前の節で述べた「電源が切れた状態」、「スタンバイ状態」、「ハイバネーション状態」のいずれかに対応しています。

- ・スタートメニューから Windows 98 を終了する
- ・スタートメニューから Windows 98 をスタンバイにする
- ・ディスプレイ部を閉じる
- ・電源スイッチを押す

●スタートメニューから終了する（電源が切れた状態）

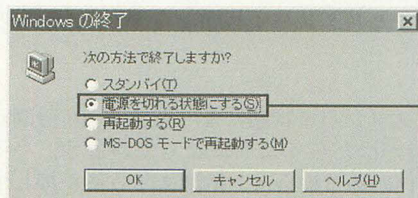
手順

1. ［スタート］ボタンをクリックするか、［⊞］を押して、スタートメニューを表示させます。



2. ［Windows の終了］を選択します。

3. ［電源を切れる状態にする］の左にある○印をクリックし、［OK］ボタンをクリックします。自動的に本機の電源が切れます。



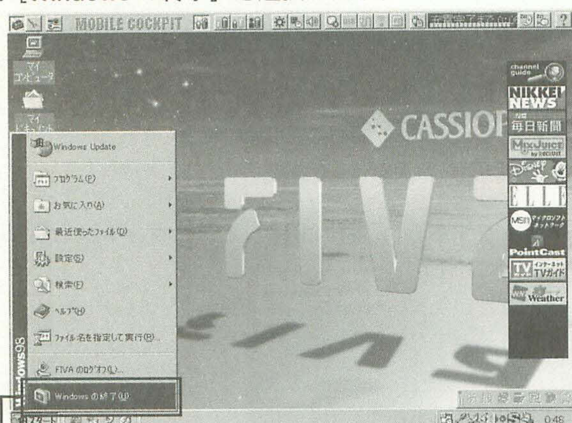
再び電源を入れる場合は、電源スイッチを押してください。

●スタートメニューから終了する（スタンバイ状態）

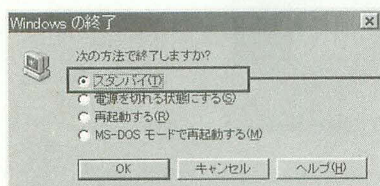
手順

1. [スタート] ボタンをクリックするか、[田] を押して、メニューを表示させます。

2. [Windows の終了] を選択します。



3. [スタンバイ] の左にある○印を選択して、[OK] ボタンをクリックします。画面が消え、スタンバイ状態となります。



再び使いはじめる場合は、サムパッド等を触れば電源を切る前の状態に復帰します。

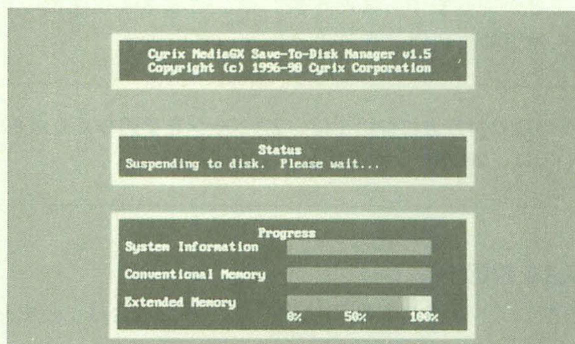
●ディスプレイ部を閉じる（スタンバイ状態／ハイバネーション状態）

本機のディスプレイ部を閉じると、自動的にスタンバイ状態となります。再び使い始める場合には、ディスプレイ部を開けるとスタンバイ状態から Windows 98 の画面に戻ります。

なお本機は、ディスプレイ部を閉じてスタンバイ状態になったまま 10 分間が経過すると、自動的にハイバネーション機能がはたらくようになっています。ハイバネーション状態になった場合でも、再び使い始める場合は、電源スイッチを押して立ち上げてください。しばらく待つことで Windows 98 の画面に戻ります（ただし、スタンバイ状態に比べると、Windows 98 の画面に戻るまでに時間がかかります）。

●電源スイッチを押す（ハイバネーション状態）

本機の電源スイッチを1秒以上押し続けると、ハイバネーション機能がはたらきます。



メモリの内容などがハードディスクに書き込まれますので時間がかかりますが、書き込み終了後自動的に電源は切れます。
再び使い始める場合は、電源スイッチを押してください。「CASIO」のロゴ画面が表示されたのち、Windows 98の画面に戻ります。

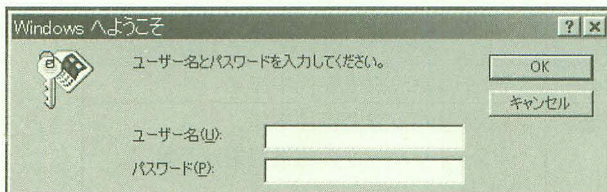
2

電源を入れる（2回目以降）

2回目以降に電源を入れた場合は、Windows 98の初期画面が表示されます。Windows 98の操作を行ってください。
ユーザー情報入力や使用許諾契約の画面などは表示されません。



電源を入れてからWindows 98の初期画面が表示されるまでの間で、画面切換のため画面表示が一瞬白くちらつくことがありますが、故障ではありません。



バッテリパックを使う

本機には標準でバッテリパックが付属しています。これを充電すれば、外出先などでACアダプタを接続しない状態で使うことができます。また本機には、さまざまな電源の管理機能が搭載されており、バッテリを効果的に利用できるようになっています。



バッテリパックの取り付け方については、27ページを参照してください。
充電方法については、28ページを参照してください。

●バッテリパックの充電容量を確認する

バッテリパックは、自然放電しています。長期間使用しなかった場合は、必ず充電してからご使用ください。
バッテリの充電容量を確認するには、以下の3通りの方法があります。

❏ PW-LEDの色で確認する

バッテリパックだけで使用中にバッテリの残量（10%以下）が少なくなると、PW-LEDがオレンジ色の点滅を始めます。この場合には、ACアダプタを接続してバッテリを充電してください。ACアダプタを接続せずそのまま使い続けていると、残量が5%のときに自動的にハイバネーション状態になります（参照 45ページ）。



バッテリ残量が10%以下の時に電源を入れて使用すると、画面に警告がでて自動的に電源が切れます。
そのようなときは、ACアダプタを接続して使用してください。



本機の電源を入れたままでも、ACアダプタを接続すればバッテリの充電が開始されます。ただし電源を切って充電すれば、より早くバッテリの充電を完了することができます。

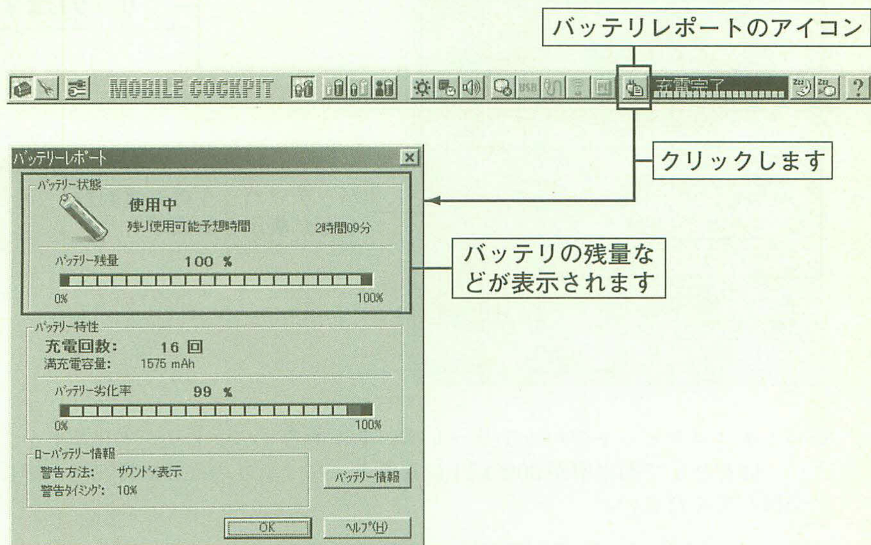
PW-LEDの状態	内　容
オレンジ色の点灯	バッテリパックで使用中です
オレンジ色の点滅	バッテリパックで使用中に、 ・バッテリパックの電池残量が不足 または、 ・スタンバイ状態
緑色の点灯	ACアダプタで使用中です
緑色の点滅	ACアダプタで使用中にスタンバイ状態

BAT-LED の色で確認する

AC アダプタを接続したときに、BAT-LED が緑色に点灯していれば充電完了です。オレンジ色のときは、充電途中です（29 ページ）。

モバイルコックピットで確認する

モバイルコックピットのバッテリ状況監視機能により、バッテリの残量を確認することができます（75 ページ）。
さらに詳しいバッテリパックの状況は、バッテリレポートにより知ることができます。



●バッテリパックを効果的に使う

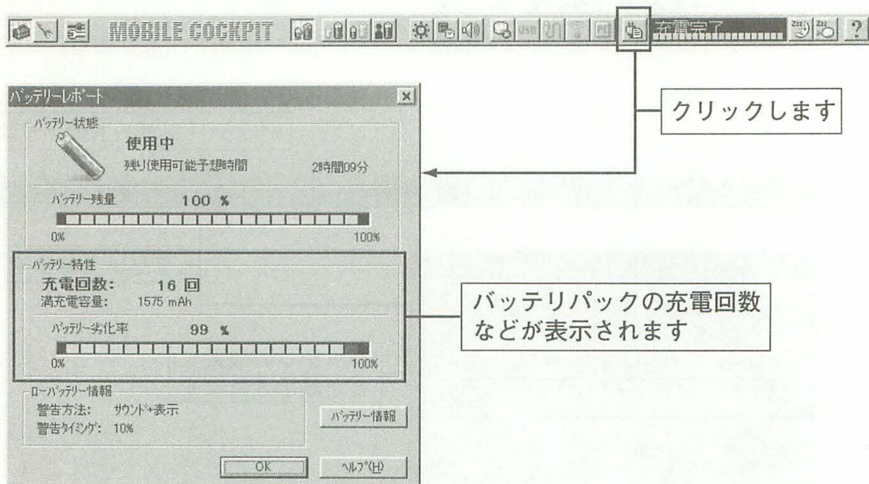
バッテリパックでの使用可能時間は、使用する環境や使い方などによって大きく異なります。本機が備える電源の管理機能（モバイルコックピットの「電力管理機能」）を利用すれば、バッテリによる使用可能時間を長持ちさせることができます（70 ページ）。

強制ハイバネーションが実行されたときは

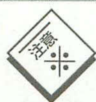
本機は、アプリケーションで作業中のファイルなどを失わないようにするため、バッテリの残量が少なくなると、強制的にハイバネーション状態になります。こうして強制ハイバネーションが実行された場合には、AC アダプタを接続して、電源スイッチを押してください。強制ハイバネーションが実行される直前の状態に戻ります（44 ページ）。

❏ バッテリパックの交換時期を知る

バッテリパックは長期間使用していると、充電が完了してもバッテリで使用できる時間が短くなってきます。バッテリパックは消耗品ですので、バッテリによる使用時間が短くなってきたら、新しいものと交換してください（参照：製品番号などは同梱の「別売り品一覧」を参照してください）。本機では、バッテリパックの交換時期の目安をモバイルコックピットで知ることができます。



モバイルコックピットのバッテリーレポートにある「バッテリー劣化率」をご覧ください。目安として劣化率が30%以下になると、バッテリの交換時期です。新しいものと交換してください。



「バッテリーレポート」ツール等に表示される各数値は、使用環境により変動します。ご使用時の目安としてご利用ください。

●大容量バッテリパックを使用する

外出先などで、長時間にわたって本機をバッテリで稼働させる必要がある場合には、別売りの大容量バッテリパックをご利用ください（参照：製品番号などは同梱の「別売り品一覧」を参照してください）。大容量バッテリパックでの使用可能時間は、目安として約6時間です。取り付け／取り外しの方法は、標準のバッテリパックと同様です。

スピーカの音量を設定する

内蔵スピーカの音量を変更するには、以下の３つの方法があります。

ホットキーを使って音量を設定する

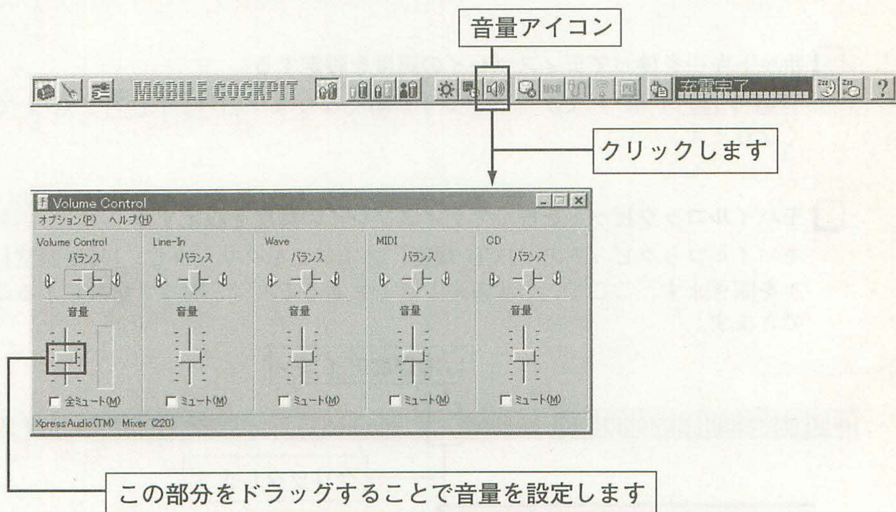
Fn ＋ F5 （🔈▼）でスピーカの音量は小さくなります。Fn ＋ F6 （🔈▲）で、音量が大きくなります。



ホットキーを利用した音量設定は、内部的にはモバイルコックピットが処理しています。このためモバイルコックピットが正しくインストールされていない場合などは、ホットキーによる音量設定は行えません。ホットキーが正しく機能しない場合には、モバイルコックピットが正しくインストールされているか確認してください。または、以下に示すホットキー以外の方法で音量設定を行ってください。

モバイルコックピットを使って音量を設定する

モバイルコックピットの［音量］アイコンをクリックし、ボリュームコントロールを開きます。このボリュームコントロールの「音量」部分のつまみをドラッグすることで、音量の上げ下げができます。

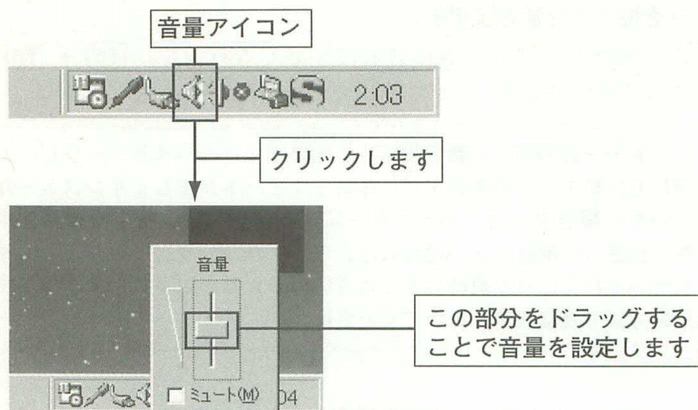




モバイルコックピットの詳細については、67 ページをご参照ください。

❑ [インジケータ領域] の [音量] アイコンを使って音量を設定する

[インジケータ領域] の [音量] アイコンをクリックし、[音量調節] パネルを開きます。このつまみをドラッグすることで、音量の上げ下げができます。



ディスプレイの明るさを設定する

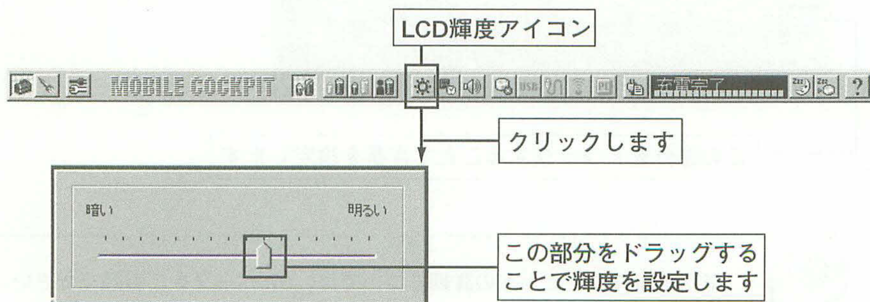
ディスプレイの明るさを設定するには、以下の 2 つの方法があります。

❑ ホットキーを使ってディスプレイの輝度を設定する

[Fn] + [F1] (☼▾) でディスプレイが暗くなります。[Fn] + [F2] (☼▴) で明るくなります。

❑ モバイルコックピットを使ってディスプレイの輝度を設定する

モバイルコックピットの [LCD 輝度] アイコンをクリックし、[輝度調整] パネルを開きます。ここで、つまみをドラッグすることで、明るさを設定することができます。





モバイルコックピットの詳細については、67 ページをご参照ください。

必要なときに

3章

本体への周辺機器の接続方法と便利な機能について、また困ったときに役立つ内容について説明します。

本体へ周辺機器を接続する
PCカードや増設メモリのセット
ポートリプリケータへの周辺機器の接続
モバイルコックピットを使う
ジェスチャ機能を使う
デジタルカメラとデータ交換する
困ったときは

本体へ周辺機器を接続する

プリンタや外付けフロッピーディスクドライブなど、本機に接続して使用する機器等を「周辺機器」といいます。ここでは、本体からの周辺機器の接続や PC カードや増設メモリのセット方法、ポートリプリケータからの周辺機器の接続について説明します。

本書で説明していない周辺機器については、各周辺機器に添付されている取扱説明書を参考にしてください。



周辺機器を接続する場合は、電源を切り電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。電源を入れたまま接続し使用可能になるプラグ&プレイ対応の周辺機器もありますが、より確実です。

本機ではさらに次の機器を、本体から接続することができます。

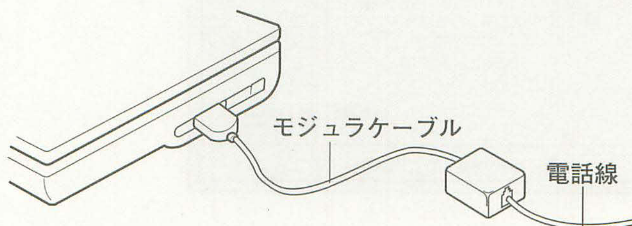
ヘッドホンポート	市販オーディオ用ヘッドホン、スピーカ等が接続できます。
通信ポート	モデム内蔵モデルに添付のモジュラケーブルを接続して、FAX モデムとして利用できます。 ＊モジュラケーブルはモデム内蔵モデルに標準です。
赤外線通信ポート	同じ仕様を持つ他の機器とのデータ通信ができます。
USB コネクタ	USB（Universal Serial Bus）対応の周辺機器を接続します。

● ヘッドホンやスピーカを接続する

ヘッドホンポートを使用して、市販のヘッドホンや外部スピーカを接続することができます（音量の調節方法は 47 ページ）。

● 通信ポートを使用して通信を行う

56kbps* の FAX モデムが内蔵されているモデルでは、高速なデータ通信や、FAX 送受信を行えます。これには通信ポートにモジュラケーブルを接続して利用します。



* 実際の通信速度は、使用する回線状態等により変化します。



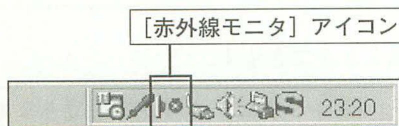
通信ポートにシリアル変換アダプタ（通信ケーブル）を接続したまま移動などを行わないでください。通信ポートの破損やシリアル変換アダプタ（通信ケーブル）の断線の原因となります。

● 赤外線通信をする

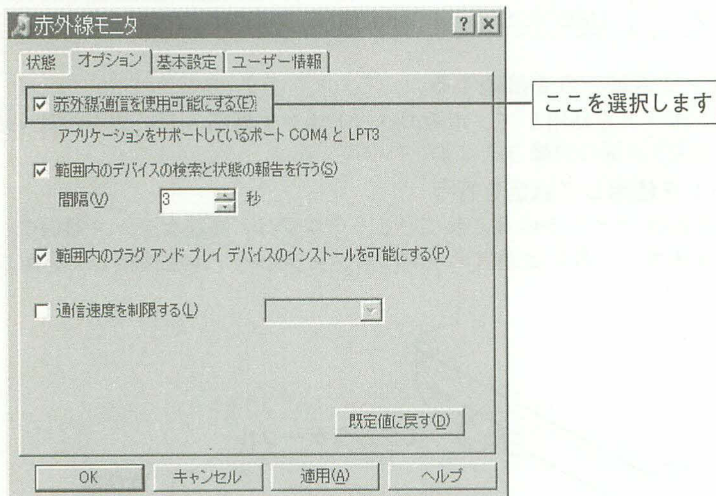
❏ パソコン同士の通信

手順

1. インジケータ領域の［赤外線モニタ］アイコンをダブルクリックします。

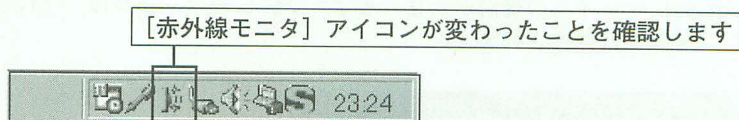


2. ［赤外線モニタ］ウィンドウが表示されます。このウィンドウの［オプション］タブをクリックし、［赤外線通信を使用可能にする］の左側にある□部分をクリックして、チェックします。



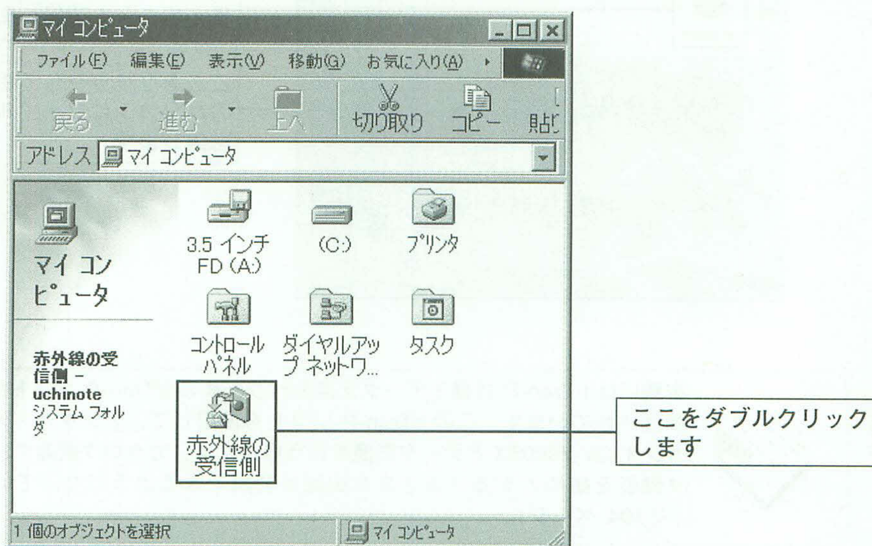
3. ［OK］ボタンをクリックします。

4. インジケータ領域の［赤外線モニタ］アイコンが通信可能状態に変わったことを確認してください。



5. 本機の赤外線通信ポートを通信したいパソコンの赤外線通信ポートに近づけます。

6. ［マイコンピュータ］の［赤外線の受信側］アイコンをダブルクリックします。

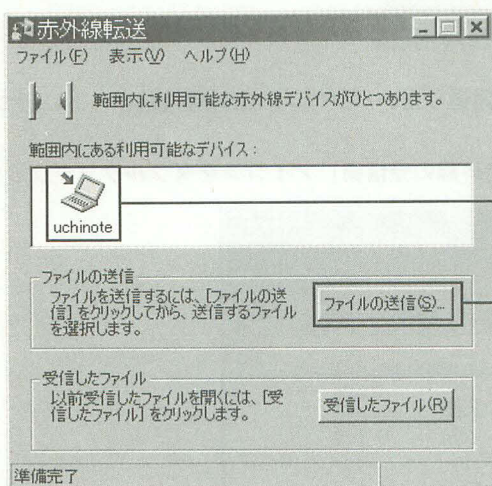


［範囲内にある利用可能なデバイス］にファイルの送受信を行いたいパソコンの名前が表示されているか確認します。

7. ファイルの送受信を行います。

ファイルを送信したいときは、［ファイルの送信］ボタンをクリックし、送信したいファイル名を選択します。

ファイルを受信したいときは、相手のパソコン側でファイルの送信操作を行います。自動的にファイルの受信が始まります。受信したファイルは、［My Received Files］フォルダに保存されます。





本機には IrTran-P 仕様でデータ交換を行うための IrTran-P ソフトが標準添付されています。この IrTran-P ソフトを使用して、デジタルカメラのカシオ QV-7000SX とデータ交換を行う場合には、カタログ機能やパノラマ機能を始めとするさまざまな機能が利用できるようになっています（94 ページ）。

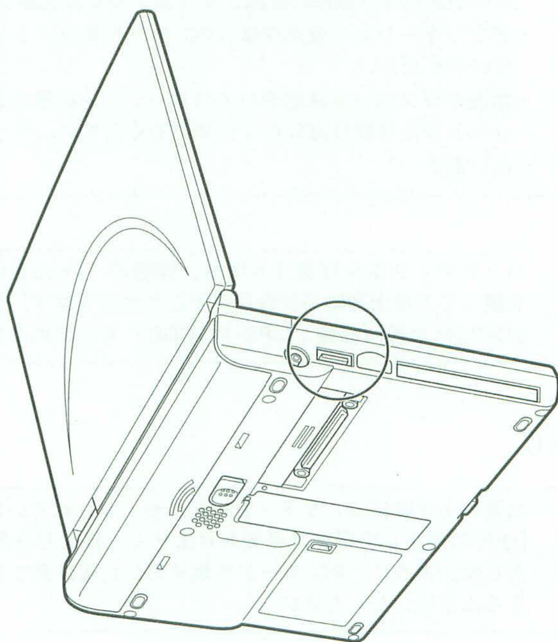


赤外線モニタをオンにした状態では、バッテリパックによる使用可能時間が短くなります。AC アダプタを接続して、ご使用ください。

● USB コネクタ ⭠ への接続

USB は、キーボードやマウス、プリンタ、スキャナなどの周辺機器とパソコンを接続するための標準規格です。

USB は、機器の接続または取り外しを行う場合でも本機の電源を切る必要はなく、電源を入れたままでの接続が可能です。USB コネクタは、本体に１つ、別売りのポートリプリケータに１つあり、あわせて２台の USB 対応機器の接続が可能です。



3

● PCカードを使う

本機には、PC Card Standard 準拠のPCMCIA TYPE Ⅱ PCカードを1枚取り付けることができます。

PCカードを使うことで、スキャナ装置といったSCSI機器などの各種周辺機器を接続することができます。



・自己発熱の大きいPCカードを長時間に渡り使用すると、カードの動作が不安定になり故障の原因となりますのでご注意ください。

・アプリケーション使用中は、PCカードをセットしたり取り出したりしないでください。

・本機がサスペンド状態やハイバネーション状態のときは、PCカードをセットしたり取り出したりしないでください。データが消滅する恐れがあります。



ハードディスクを修復する場合、同梱の「Product Recovery CD-ROM」を使って工場出荷時の状態に戻すことができます。別売りのカシオ指定のCD-ROM装置（品番：MPC-141CDD）をご利用ください。

❑ 取り外し

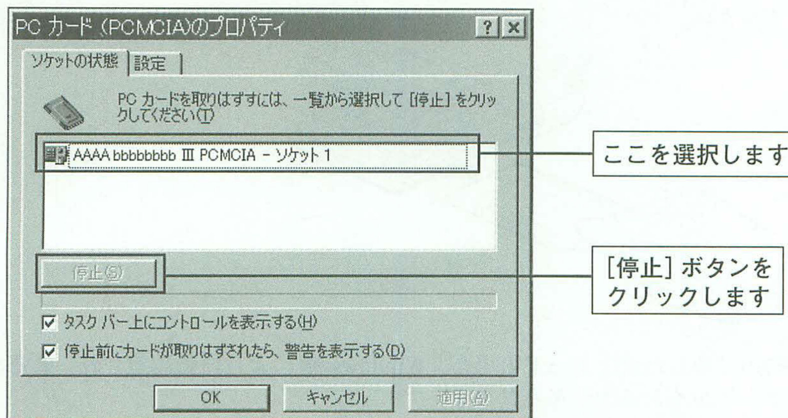


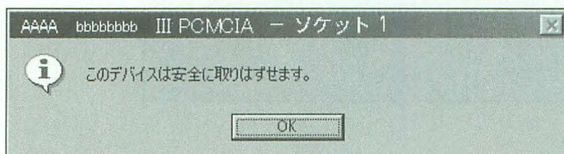
お買い上げ時には、ダミーカードがセットされています。ダミーカードは［使用の停止］の操作は必要ありません。ほこりや異物がスロット内部に入らないように、PCカードを取り出した後は必ずダミーカードをセットするようにしてください。

・PC カードを取り出す前には、モバイルコックピットにある［PC カード］アイコンをクリックし PC カードの使用を停止してから、取り外してください。

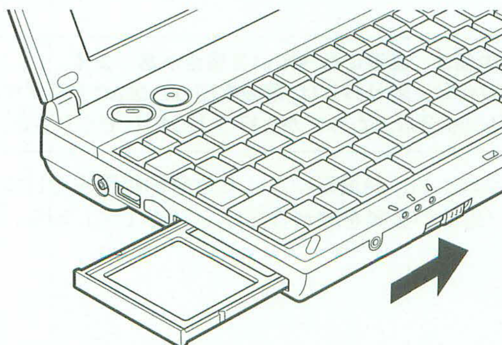
手順

1. モバイルコックピットにある［PC カード］アイコンをクリックするか、［インジケータ領域］の［PC カード］アイコンをダブルクリックすることで、［PC カード（PCMCIA）のプロパティ］ウィンドウを表示し、一覧からカード名を選択し、［停止］ボタンをクリックして、PC カードの電源を切ります。





2. 前面下部の PC カードリリースレバーを矢印側にずらします。
セットされていた PC カードが出てきますので、取り出します。



3

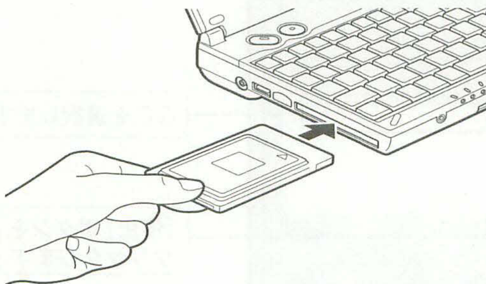
取り付け

PC カードには表と裏があり、スロットへセットする方向も決まっています。間違った向きで無理やりセットすると、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。セットする際は、ご注意ください。

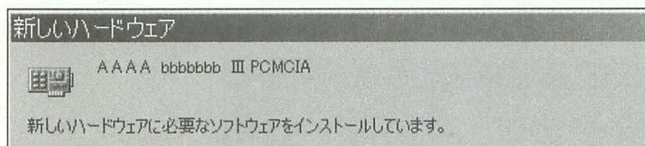
手順

1. カードの表裏を確認してから、PC カードスロットにセットします。

PCカードリリースレバーが左側にずれるまで、静かに奥に突き当たるまで押してください。



初めて差した PC カードの場合、Windows 98 により自動認識され、必要なソフトウェアがインストールされます。



● メモリを増設する

別売りの増設メモリ（品番：MPC-151RAM/152RAM）を増設しメモリ容量を拡張することで、より多くのアプリケーションや大きなデータを高速に処理することができるようになります。



使用直後の本体内部は、高温になっている場合があります。
増設メモリの取り付け／取り外しは、電源を切った後ACアダプタとバッテリパックを外し 30 分以上たってから行うようにしてください。

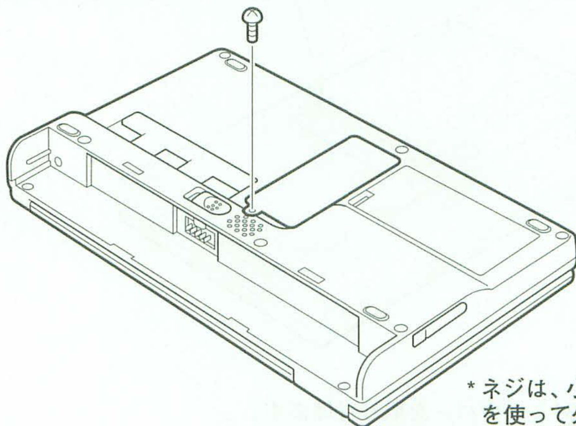
増設メモリは精密な電子部品のため、静電気によって致命的損傷を受ける場合があります。静電気を逃がして（近くの金属を触わるだけで OK です）から、増設の作業を行ってください。

手順

1. アプリケーションソフトなどの操作を終了し、本機の電源を切ります。
   サスペンド状態やハイバネーション状態のときは、一度元の状態に戻してから、本機の電源を切ります。

2. ＡＣアダプタや電源コード、周辺機器のケーブルを外します。また、バッテリパックも外してください。

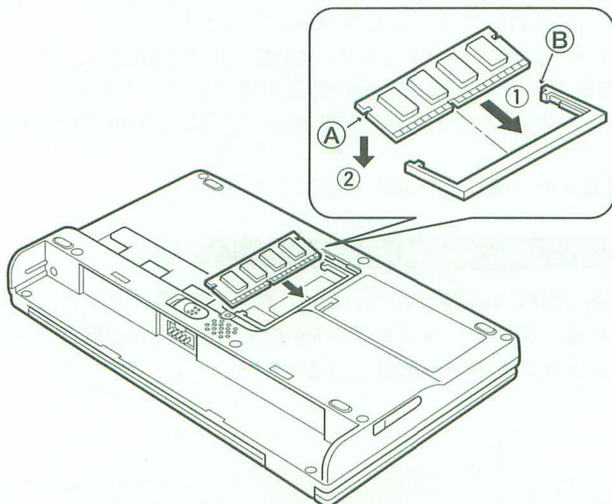
3. 本体裏面のネジ（１個所）を外します。
   次に、増設RAMモジュール用スロットのカバーを外します。



＊ネジは、小型のプラスドライバを使って外します。

❑ 増設メモリを取り付ける場合

4. 増設メモリの切り欠き部分（Ⓐ）を本機コネクタの突起部（Ⓑ）に合わせ、向きと角度に注意して増設メモリボードの端子が当たるまで挿入（①）しロックするまで上から押し込み（②）ます。

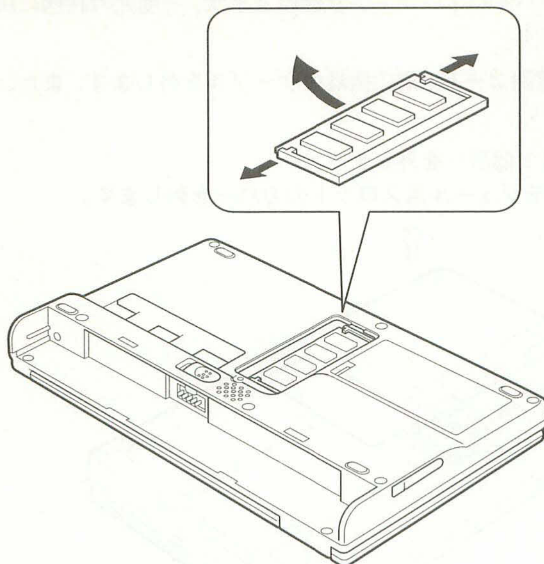


向きやミゾとの角度を間違えるとうまく入りません。

3

増設メモリを交換する場合

5. コネクタの両側を左右に押し広げながら、取り付けられているメモリボードを引き起こして取り外します。新しい増設メモリボードを取り付けます。



6. 手順3で取り外したカバーを取り付けます。

増設したメモリの確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

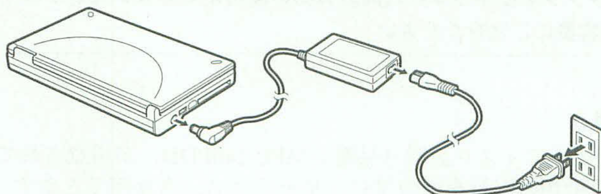
・[スタート] ボタン→ [設定] → [コントロールパネル] で [コントロールパネル] を開き、[システム] アイコンをダブルクリックします。
・表示された [システムのプロパティ] の [情報] タブで確認します。
メモリ容量が増えていないときは、次のことを確認してください。
・増設 RAM モジュール用スロットカバーを外して、正しく取り付けられているか確認します。
・FIVA 専用の増設メモリモジュールをご使用ください。

ポートリプリケータへの周辺機器の接続

ポートリプリケータ (品番：MPC-160PR) には、PS/2 対応の機器 (マウスや外付けキーボード等)、USB 対応の機器、外部ディスプレイ、RS-232C 規格の周辺機器、プリンタ装置、外付けフロッピーディスクドライブが接続できます。

手順

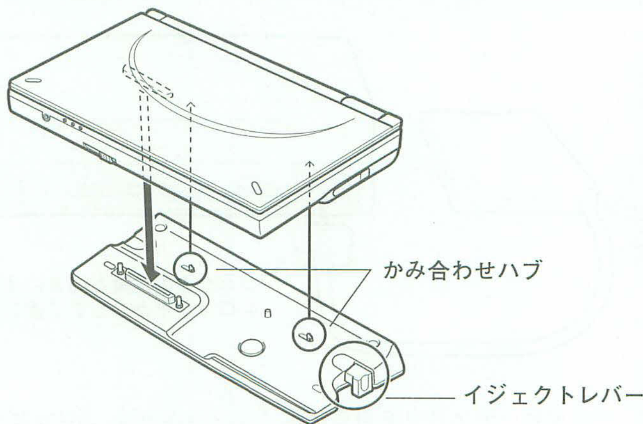
1. アプリケーションソフトなどの操作を終了し、本機の電源を切ります。
2. AC アダプタや周辺機器のケーブルは外します。



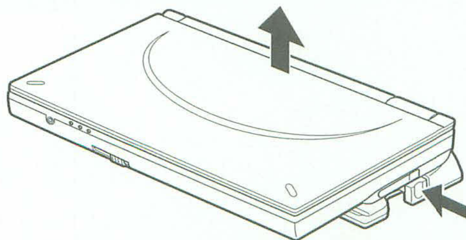
3. ディスプレイ部分を閉じて、本機を裏返します。

❏ 取り外し　　❏ 取り付け

本機底面の拡張コネクタのフタを開け、ポートリプリケータを取り付けます。ポートリプリケータの拡張コネクタと本機底面の拡張コネクタの位置を合わせ、かみ合わせハブが本体にしっかりと噛み合うように押し込みます。
イジェクトレバーがしっかりとはまっていれば、取り付けは完了です。



ポートリプリケータのイジェクトレバーを押しながら、ポートリプリケータの両端を持ち、本体を持ち上げて外します。



3



・ポートリプリケータを取り付けた状態で持ち運ぶときは、本体からはずれないように注意してください。故障の原因となります。
・ポートリプリケータに周辺機器を接続して使用する場合は、電源容量のため ACアダプタを使用しないと周辺機器の使用ができない場合があります。電源容量にご注意ください。

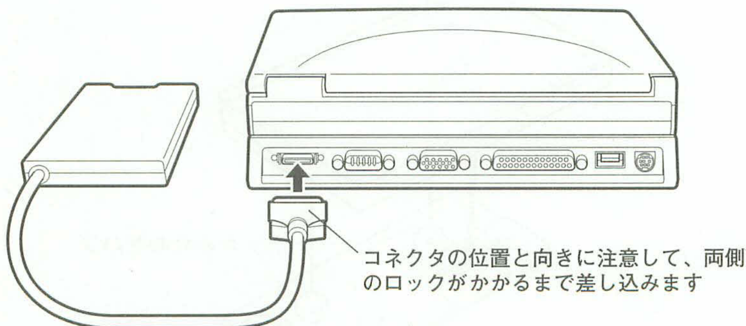
●フロッピーディスクを使う

本機には別売りのフロッピーディスク装置（品番：MPC-140FDD）が用意されていて、720KB、1.44MBの 2種類の容量を持つフロッピーディスクを使用できます。フロッピーディスク装置を接続することで、データを保存したり他のコンピュータとデータの交換をすることができます。

取り付け

手順

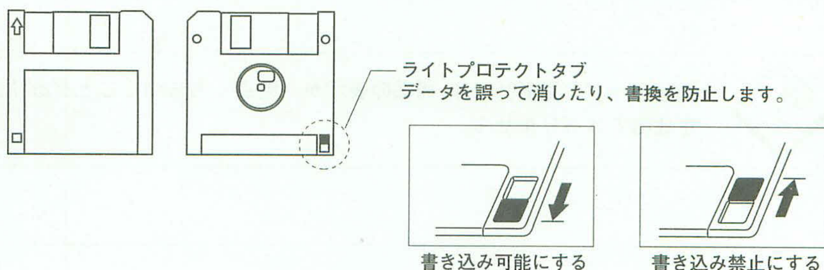
1. ポートリプリケータを取り付けます（60 ページ）。
2. 電源を切った状態で外付けフロッピーディスク装置を接続します。



フロッピーディスクを書き込み／読み込み中は、フロッピーディスクアクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。装置の故障やフロッピーディスクに書かれたデータの損傷につながります。

❑ フロッピーディスクのデータ保護

書き込み禁止（ライトプロテクト）を行います。
フロッピーディスクには、書き込み禁止を行うタブがあります。このタブを「書き込み禁止」側にすることで、データの削除や上書きができなくなります。



❑ フロッピーディスクを使用するには

FIVA 専用の別売りのフロッピーディスク装置（品番：MPC-140FDD）が必要です。接続すればすぐに使用できるように、工場出荷時の状態では設定されております。

●外部ディスプレイを使う

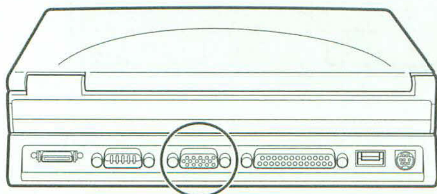
本機に外部のＣＲＴや液晶のディスプレイを接続し、その大画面を利用して各種の操作をすることができます。

❑ 取り付け

手順

1. ポートリプリケータを取り付けます（60 ページ）。
2. 電源を切った状態でディスプレイを接続します。

ディスプレイからの接続ケーブルをコネクタの位置と向きに注意して、ディスプレイコネクタに差し込みます。ディスプレイの電源コードは、別の AC コンセントに接続します。(詳細はディスプレイ付属の取扱説明書をご覧ください)。



3. 本機の電源を入れて、Windows 98 を起動します。

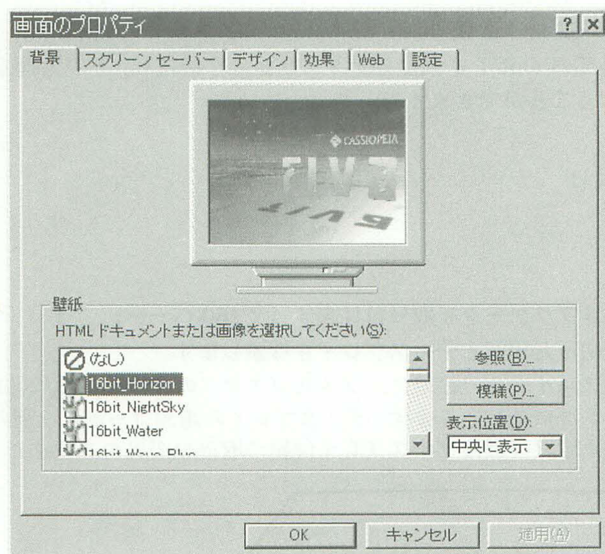
4. Fn + F10 を押し、表示を外部ディスプレイに切り替えます。Fn + F10 により、液晶→外部ディスプレイ→液晶＋外部ディスプレイ→液晶の順で出力先が切り替わります。



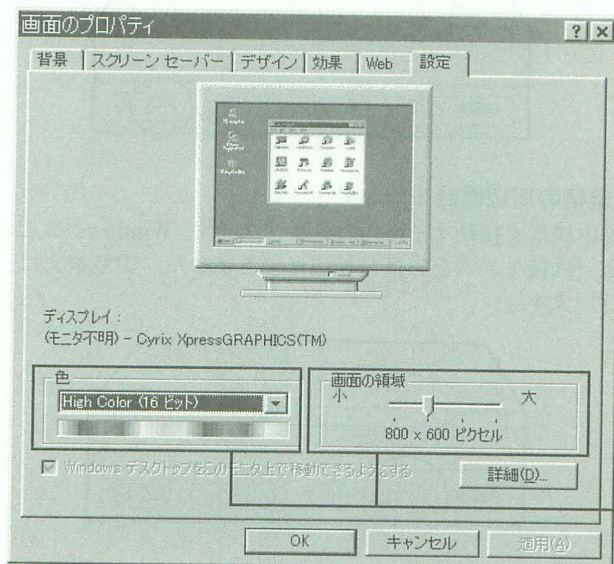
画面モードの変更時には、画面の表示が一瞬白くちらつくことがありますが故障ではありません。



外部ディスプレイのみの表示にしている場合は、画面の解像度と色数を変更することができます。Windows 98 のデスクトップ上で右クリックし、ショートカットメニューの［プロパティ］を選択します。［画面のプロパティ］が表示されます。



ここで［設定］タブをクリックし、［色］と［画面の領域］を変更します。



色と画面の領域は、以下の表の組み合せから選択できます。

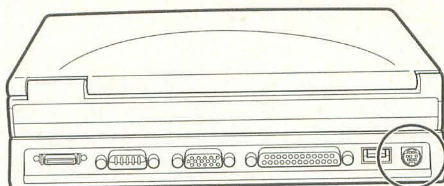
色	画面の領域（ピクセル）
16ビット	640×480／800×600／1024×768
256色	640×480／800×600／1024×768／1280×1024
16色	640×480／800×600／1024×768／1280×1024

ただし、外部ディスプレイによっては、必ずしもすべての解像度／色数で表示できないこともあります。

3

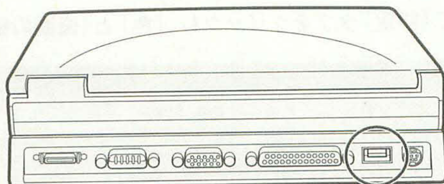
● マウスや外付けキーボードをつなぐ

PS/2 コネクタには、別売りのマウスやキーボードを接続することができます。マウスの設定は、Windows 98 で行うことができます。



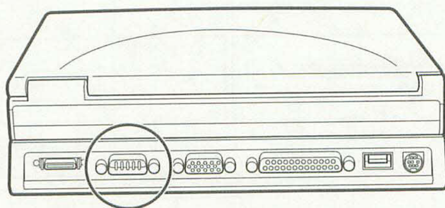
● USB 対応の機器をつなぐ

USB コネクタには、別売りの USB 機器を接続することができます。



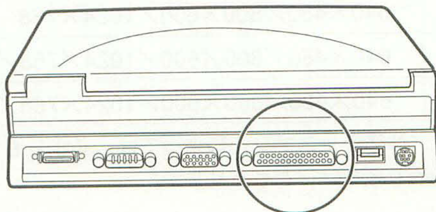
● RS-232C 規格の周辺機器をつなぐ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。Windows 98 では、COM1 と呼ばれています（内蔵モデムとの同時使用はできません。切り換えは、モバイルコックピットで行います）。



● プリンタをつなぐ

パラレルコネクタには、別売りのプリンタやパラレル対応の装置を接続できます。Windows 98 では、プリンタポートまたは LPT1 と呼ばれています。



モバイルコックピットを使う

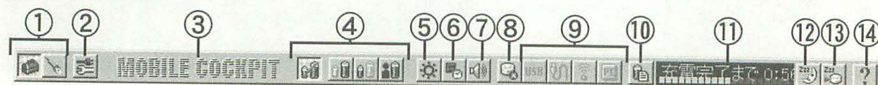
本機を快適にお使いいただけるように、独自のソフト「モバイルコックピット」があらかじめインストールされており、Windows 98のデスクトップの上側にツールバーとして表示されます。

モバイルコックピットでは、

- パワーマネージメントの設定
- バッテリパックの状態の確認
- アプリケーションの起動
- ハードウェアの電源制御
- BIOS 設定の確認

などが行えます。

システム管理ツールバー



AP起動ツールバー

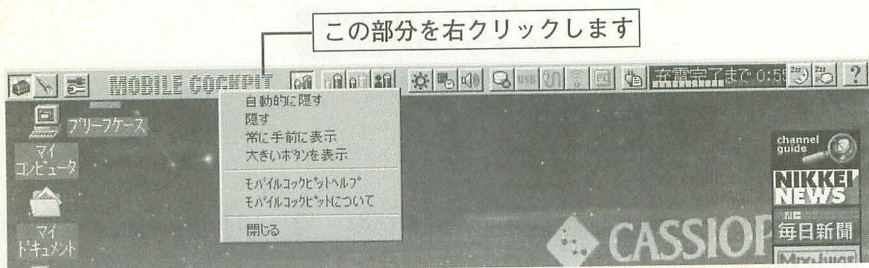


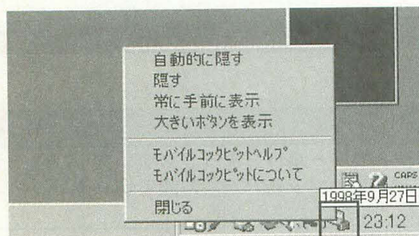
番号	機能	説明	参照
①	ツールバーの切り替え	モバイルコックピットのツールバーを［システム管理ツールバー］と［AP起動ツールバー］の間で切り替えます。	77ページ
②	システム関連ツールの起動	［パワーマネジメント設定ツール］、［BIOS設定ツール］を起動します。	72,82ページ
③	モバイルコックピットの設定機能	アイコンの大きさの変更やツールバーを隠すなどの設定を行います。	68ページ
④	パワーマネージメントの設定	フルパワー、エコノミーなどパワーマネージメントの設定を行います。	70ページ
⑤	LCD輝度の設定	液晶ディスプレイの輝度を変更します。	48ページ
⑥	CPU速度の設定	CPUの動作速度を変更します。	81ページ
⑦	音量の設定	音量の大きさを変更します。	47ページ
⑧	ハードディスクの停止	ハードディスクの動作を停止します。	80ページ
⑨	各ハードウェアへの電力供給の停止と制御ソフトの起動	USB、シリアルなどへの電力の供給を停止します。赤外線ポート、PCカードのプロパティを起動します。	80ページ
⑩	バッテリレポートの起動	バッテリ状態の残量や今までの充電回数などを表示するバッテリレポートを起動します。	75ページ
⑪	バッテリ状態の表示	現在のバッテリの残量やバッテリによる残り使用可能時間の予測などを表示します。	75ページ
⑫	スタンバイ状態への移行	現在の状況を保存したままスタンバイ状態になります。	77ページ
⑬	ハイバネーション状態への移行	現在の状況を保存したままハイバネーション状態になります。	77ページ
⑭	ヘルプの起動	モバイルコックピットの機能についてわからないときは、ここを押してください。	70ページ

● モバイルコックピットを設定する

モバイルコックピットでは、ツールバーを隠したり、メニュー上のボタンを大きくしたりすることができます。

設定するには、ツールバー上の「MOBILE COCKPIT」のロゴ部分を右クリックするか、[インジケータ領域] の [モバイルコックピット] のアイコンをクリックします。





[モバイルコックピット] アイコンをクリックします

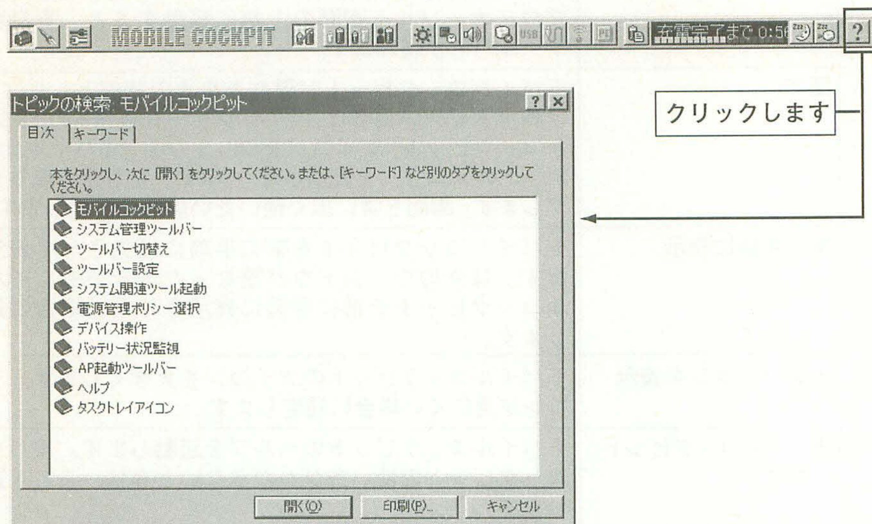
メニューの各項目では、以下の設定が行えます。

メニュー	機　能
自動的に隠す	画面を少しでも広く使いたい場合にこの設定を利用します。モバイルコックピットを使用したときに、ツールバーが自動的に隠れるようにします。このときでも、マウスカーソルを画面の上端に移動すると、自動的にツールバーが現れます。
隠す	モバイルコックピットが隠れたままの状態とします。再び表示させたい場合は、［インジケータ領域］の［モバイルコックピット］アイコンをクリックし、モバイルコックピットのメニューを表示させ、［隠す］をもう一度クリックします。画面を常に広く使いたい場合に設定します。
常に手前に表示	モバイルコックピットを常に手前に優先させて表示します。ほかのウィンドウが重なった場合でも、モバイルコックピットを常に手前に表示させたい場合に設定します。
大きいボタンを表示	モバイルコックピットのアイコンを大きくします。アイコンが見にくい場合に設定します。
モバイルコックピットヘルプ	モバイルコックピットのヘルプを起動します。モバイルコックピットの使い方がわからないときは、ここを選択します。
モバイルコックピットについて	モバイルコックピットのバージョン情報などを表示します。
閉じる	モバイルコックピットを終了します。

3

● モバイルコックピットのヘルプを起動する

モバイルコックピットのメニューを開き、[モバイルコックピットヘルプ] をクリックするか、ツールバーの [?] アイコンをクリックすると、モバイルコックピットのヘルプが起動します。モバイルコックピットの使い方を詳しく説明したヘルプが画面に現れます。



● パワーマネージメントを設定する

本機では、CPUや液晶ディスプレイ、ハードディスクなど、周辺機器ごとに電力の供給量を状況に合わせて変えることで、バッテリによる使用時間を延ばすことができます（これらの電力管理機能を「パワーマネージメント」といいます)。こうした周辺機器ごとの設定を簡略化するため、標準で

エコノミーモード
ノーマルモード
ユーザー設定モード

の3種類のモードを用意しています。モバイルコックピットでは、この3種類からの選択、およびパワーマネージメントを行わない設定が選べます。
また、ユーザー設定モードでは、

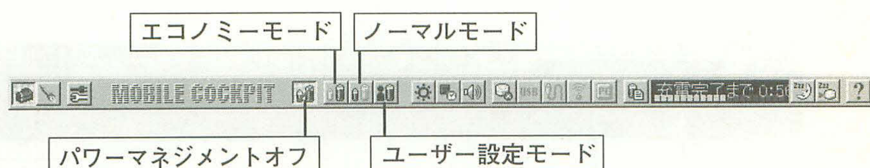
・システムが未使用になってからスタンバイ状態に移行するまでの時間
・ローバッテリ状態になった場合の警告方法
・CPUの速度

など、ユーザー独自の設定ができます。



Windows 98 の［コントロール パネル］→［電源の管理］→［電源の管理のプロパティ］ダイアログを利用して、システムの電源管理設定を変更することもできます。［電源の管理］での設定は、モバイルコックピットの設定よりも優先されます。モバイルコックピットでパワーマネージメントの設定を行っても、［電源の管理］で異なる設定を行うと、モバイルコックピットの設定内容は無視されます。［電源の管理］ではなく、モバイルコックピットの設定のみを行ってください。

❏ パワーマネージメントモードの変更



モバイルコックピットから

エコノミーモード
ノーマルモード
ユーザー設定モード

の各アイコンをクリックすると、パワーマネージメントモードの変更ができます。バッテリによる使用時間を延ばしたい場合は、エコノミーモードを選択してください。ノーマルモードとエコノミーモードの仕様は、以下の表のようになっています。



AC アダプタを接続したときは、パワーマネジメントオフになります。

	ノーマルモード	エコノミーモード	パワーマネジメントオフ
CPUの速度	100%	50%	100%
ハードディスクの電源オフ	5分	1分	電源オフしない
LCDの輝度	90%	50%	100%
スタンバイまでの時間	10分	2分	スタンバイしない
ハイバネーションまでの時間	10分	5分	ハイバネーションしない

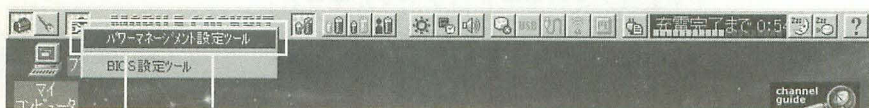
ユーザー設定モードの変更

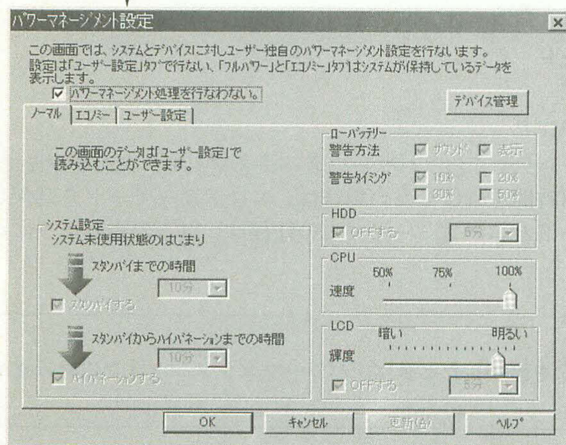
手順

1. モバイルコックピットの［ツール］アイコンをクリックします。

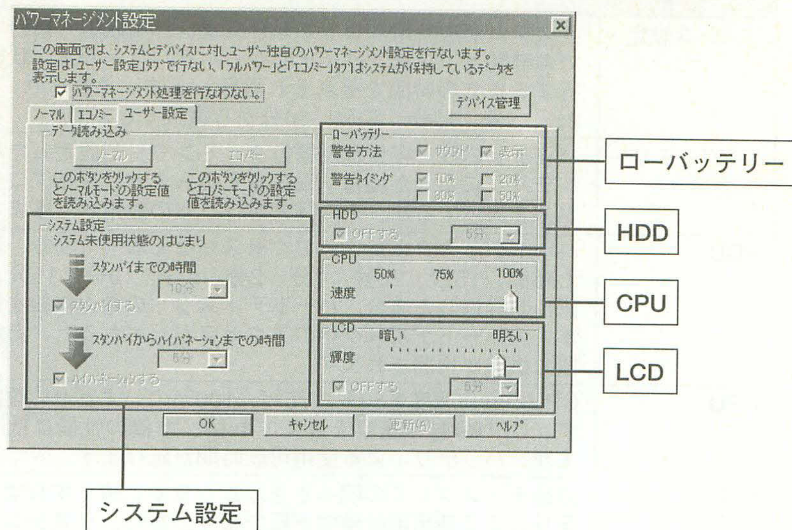


2. メニューの［パワーマネージメント設定ツール］を選択します。





3. [パワーマネージメント設定] ウィンドウの [ユーザー設定] タブをクリックします。



4. ユーザー設定を行います。

あらかじめ設定されている「ノーマルモード」または「エコノミーモード」を元に設定を行う場合は、[ノーマル] ボタンまたは [エコノミー] ボタンをクリックし、設定の読み込みを行います。その後、

・システム設定
・ローバッテリー
・HDD
・CPU
・LCD

の各項目を設定します。

3

項　目	内　容
システム設定	システムが未使用になってからスタンバイ状態へ移行するまでの時間と、スタンバイ状態からハイバネーション状態へ移行するまでの時間をそれぞれ設定します。それぞれ、1分、2分、5分、10分、20分、50分から選択できます。
ローバッテリー	バッテリの残り容量が［警告タイミング］で設定したパーセンテージになった場合、警告音を鳴らすか、ダイアログボックスを表示するか、その両方を行うかの設定ができます。
HDD	ハードディスクに対するアクセスがなくなってから、設定した時間（15秒、20秒、1分、2分、5分、10分、15分から選択）が経過した場合、ハードディスクへの電力供給を停止します。ハードディスクへのアクセスが行われると、自動的に電力供給が再開されます。
CPU	CPUの動作速度を50%、75%、100%のいずれかに設定します。CPUの動作速度を遅くすれば、本機の性能は低下しますが、バッテリによる使用可能時間が延びます。
LCD	液晶ディスプレイの明るさを設定します。暗くすれば、バッテリによる使用可能時間が延びます。また、システムが未使用になってから、設定した時間（1分、2分、5分、10分、15分から選択可能）が経過したら、液晶ディスプレイへの電力供給を停止させることもできます。

5.［OK］ボタンをクリックします。

6. モバイルコックピットの［ユーザー設定モード］アイコンをクリックします。

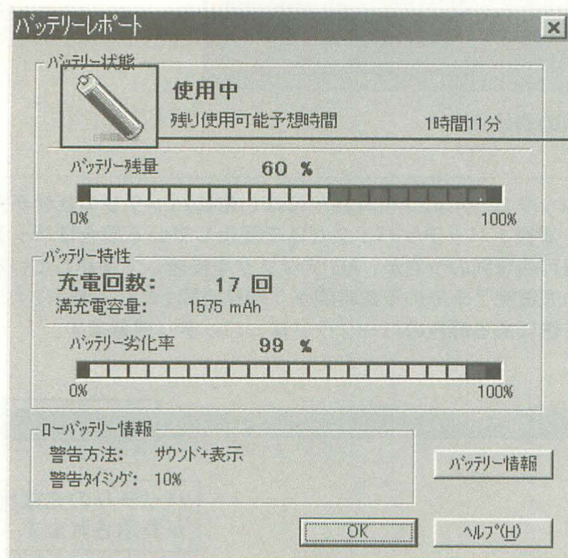
● バッテリパックの状態を監視する

モバイルコックピットでは、バッテリの状態や残量、現在までの充電回数、バッテリの劣化率など、バッテリパックの状態を確認することができます。目安としてバッテリの劣化率が30%以下になったら、バッテリパックの交換時期です。新しいものと交換してください（：「別売品一覧」）。

手順

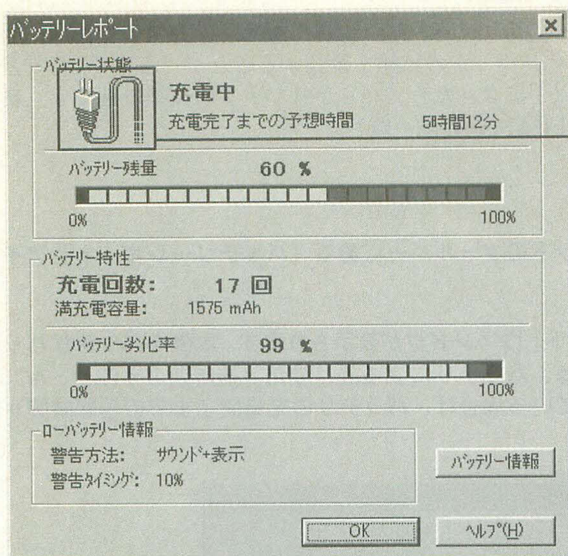
1. モバイルコックピットのツールバーにある［バッテリーレポート］アイコンをクリックします。

2. ［バッテリーレポート］ウィンドウが表示されます。本機をバッテリパックだけで使用している場合は、バッテリによる残り使用可能時間の予測が、AC アダプタを接続して使用している場合は、バッテリの充電完了までの予想時間が表示されます。



バッテリ使用中の表示例

3



AC アダプタ使用中の表示例



モバイルコックピットのツールバーには、常にバッテリの状態が表示されています。本機をバッテリパックだけで使用している場合はバッテリによる残り使用可能時間の予測が、AC アダプタを接続して使用している場合はバッテリの充電完了までの予想時間が「残り時間」として表示されます。時間表示の下側にある緑色のバーグラフは、バッテリ残量です。

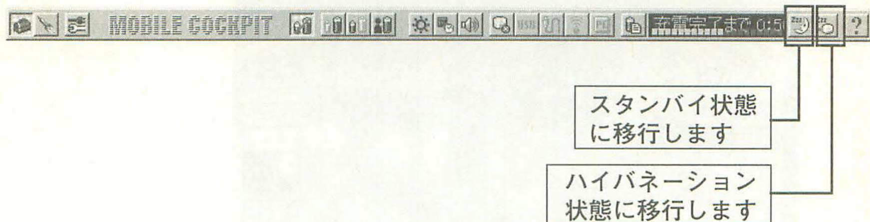




「バッテリーレポート」ツール等に表示される各数値は、使用環境により変わることがあります。ご使用時の目安としてご利用ください。

● スタンバイ状態、ハイバネーション状態にする

モバイルコックピットには、スタンバイ状態やハイバネーション状態に移行する［スタンバイ］アイコン（ ）、［ハイバネーション］アイコン（ ）が用意されています。これらのアイコンをクリックすることで、現在の状況のまま、即座にスタンバイ状態またはハイバネーション状態に移行させることができます。



● ［AP 起動ツールバー］にソフトを登録する

モバイルコックピットの［AP 起動ツールバー］にソフトを登録すれば、登録されたアイコンをクリックするだけで、ソフトが簡単に起動できるようになります。

❑［スタート］メニューからソフトを登録する

手順

1. モバイルコックピットの［ツールバー切り替え］アイコンをクリックし、ツールバーを［システム管理ツールバー］から［AP 起動ツールバー］に切り替えます。



h

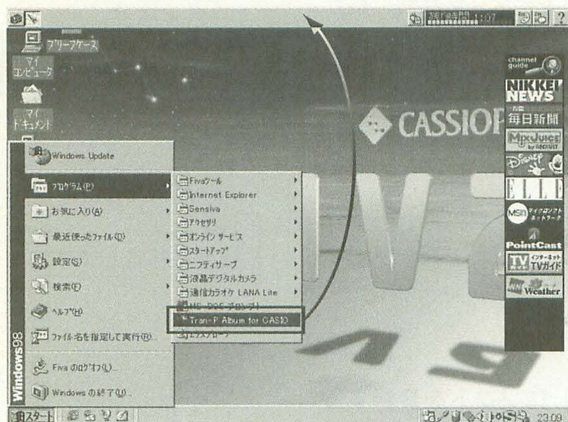
AP 起動ツールバー



3

2. Windows 98 の［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］から登録したいソフトを選択し、［AP 起動ツールバー］にドラッグ＆ドロップします。

登録したいソフトをドラッグ＆ドロップします



3.［AP 起動ツールバー］に登録したいソフトのアイコンが表示されたことを確認します。

登録したソフトのアイコンがツールバーに追加されます

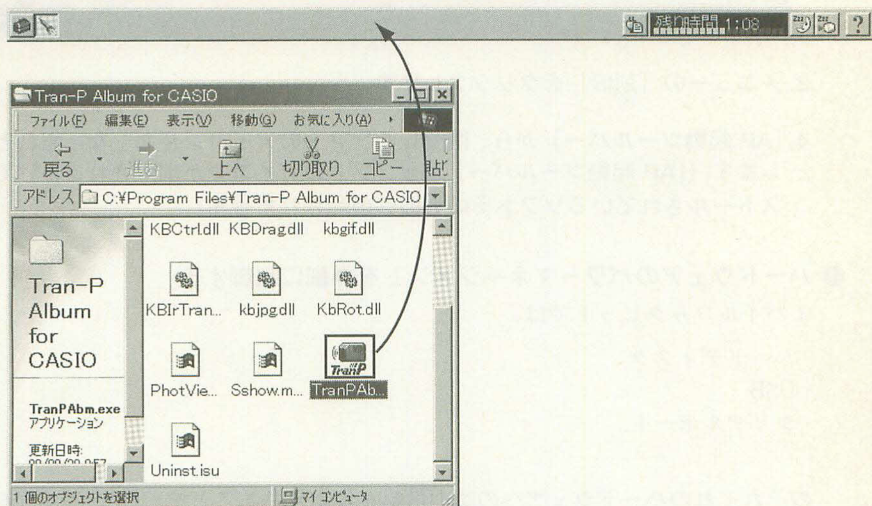


❑［マイ コンピュータ］からソフトを登録する

手順

1. モバイルコックピットの［ツールバー切り替え］アイコンをクリックし、ツールバーを［システム管理ツールバー］から［AP 起動ツールバー］に切り替えます。

2. Windows 98 の［マイ コンピュータ］からソフトの実行ファイルを［AP 起動ツールバー］にドラッグ＆ドロップします。



3. ［AP 起動ツールバー］に登録したいソフトのアイコンが表示されたことを確認します。

❑ 登録したソフトを起動する

手順

1. モバイルコックピットの［ツールバー切り替え］アイコンをクリックし、ツールバーを［システム管理ツールバー］から［AP 起動ツールバー］に切り替えます。

2. 起動したいソフトのアイコンをクリックします。

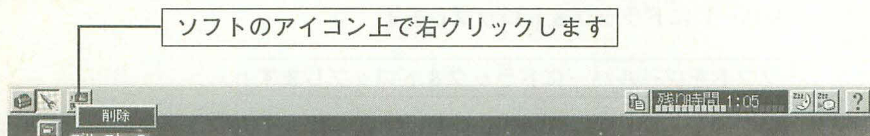
3. ソフトが起動します。

登録されたアイコンを削除する

手順

1. モバイルコックピットの［ツールバー切り替え］アイコンをクリックし、ツールバーを［システム管理ツールバー］から［AP起動ツールバー］に切り替えます。

2. 削除したいソフトのアイコン上でコントロールボタンを右クリックします。



3. メニューの［削除］をクリックします。

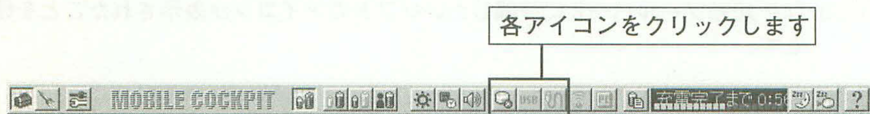
4. ［AP 起動ツールバー］から、削除したソフトのアイコンがなくなったことを確認します（［AP 起動ツールバー］からソフトのアイコンが削除されるだけで、インストールされているソフトそのものは削除されません）。

● ハードウェアのパワーマネージメントを詳細に制御する

モバイルコックピットでは、

・ハードディスク
・USB
・シリアルポート

のそれぞれのハードウェアへの電力供給を停止させることや、CPUの速度を変更することで、バッテリによる使用時間を延ばすことができます。



各ハードウェアのアイコンをクリックすることで、それらへの電力供給が停止します。再び、電力供給を行いたい場合は、再度アイコンをクリックしてください。ただし、ハードディスクについては、アクセスが行われると自動的に電力供給が再開されます。

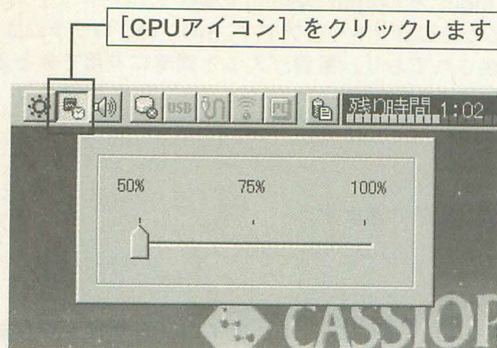


ハードウェアへの電力供給を停止させると、それぞれのハードウェアの機能は停止します。USBやシリアルに周辺機器を接続している場合は、使用中でないことを確認してから電力供給を停止してください。

CPU の速度を変更する

手 順

1. モバイルコックピットの［CPU］アイコンをクリックします。



2. 画面のつまみを 50%または 75%にドラッグします。CPU の速度が、通常の 50%または 75%に設定されます。CPU の速度を落とすことで、バッテリによる使用時間を延ばすことができます。

3

● BIOS設定の表示を行う

モバイルコックピットでは、BIOS設定の表示と一部の機能の設定が行えます。BIOSは、工場出荷時に本機が最適な状態で動作するように設定されています。特に必要性のない場合は、設定の変更は行わないでください。



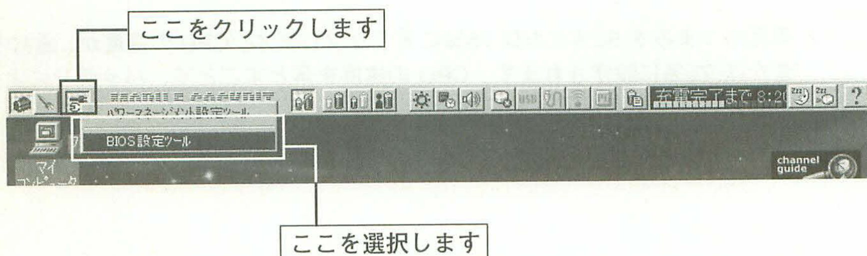
BIOSとは、Basic Input ／ Output Systemの略で、ハードウェアの基本的な機能を実現するためのソフトウェアです。BIOSのプログラムは、ハードウェアとして提供されており、電源が入ると同時に利用できるようになっています。

❏ BIOS設定を表示する

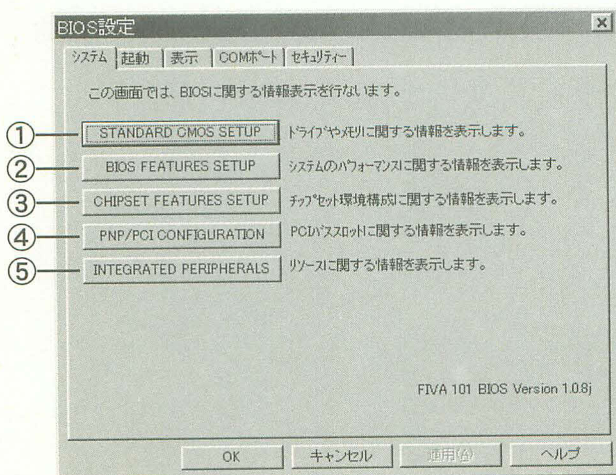
BIOS設定の状況を確認することができます。

手順

1. モバイルコックピットのツールバーの［ツール］アイコンをクリックします。



2. メニューから［BIOS設定ツール］を選択し、クリックします。



3. [BIOS 設定] ウィンドウの [システム] タブの各ボタンをクリックした場合に表示される画面は以下のとおりです。

① STANDARD CMOS SETUP
ハードディスクやメモリに関する情報

STANDARD CMOS SETUP

HARD DISKS	TYPE	SIZE	CYLS	HEAD	PRECOMP	LANDZ	SECTOR	MODE
PrimaryMaster	AUTO	2116	4200	16	65535	4199	63	AUTO
PrimarySlave	----	0	0	0	0	0	0	AUTO
SecondaryMaster	----	0	0	0	0	0	0	AUTO
SecondarySlave	----	0	0	0	0	0	0	AUTO

Drive A : 1.44M,3.5in
Drive B : None
Halt On : All,But Disk/Key

Base Memory : 640 KBytes
Extended Memory : 29184 KBytes
Other Memory : 384 KBytes
Total Memory : 30208 KBytes

OK

② BIOS FEATURES SETUP
BIOSの基本的な機能に関する情報

BIOS FEATURES SETUP

Virus Warning : Disabled
CPU Internal Cache : Enabled
External Cache : Enabled
Quick Power On Self Test : Enabled
Boot Sequence : A,C
Swap Floppy Drive : Disabled
Boot Up Numlock Status : Off
Boot Up System Speed : High
Gate A20 Option : Fast
Memory Parity Check : Enabled
Typematic Rate Setting : Disabled
Typematic Rate(Char/Sec) : 6
Typematic Delay(Msec) : 250

Security Option : Setup
PCI/VGA Palette Snoop : Disabled
OS Select For DRAM > 64MB : Non-OS2
Show Full Screen Logo : Enabled

Video BIOS Shadow : Enabled
C8000－CBFFF Shadow : Disabled
CC000－CFFFF Shadow : Disabled
D0000－D3FFF Shadow : Disabled
D4000－D7FFF Shadow : Disabled
D8000－DBFFF Shadow : Disabled
DC000－DFFFF Shadow : Disabled

OK

③ CHIPSET FEATURES SETUP
チップセットの基本的な機能に関する情報

CHIPSET FEATURES SETUP

System Clock Speed : 200MHz
SDARAM CAS Latency Time : AUTO
16－bit IO Recovery(CLK) : 5
8－bit IO Recovery(CLK) : 5
USB Keyboard Support : Enabled

OK

④ PNP/PCI CONFIGURATION
PCIバスに関する情報

PNP/PCI CONFIGURATION

Resource Controlled By : MANUAL
Reset Configuration Data : Disabled

PCI IRQ Actived By : Level
Used MEM base addr : N/A
Used MEM length : 8K

IRQ－3 assigned to : Legacy ISA
IRQ－4 assigned to : Legacy ISA
IRQ－5 assigned to : PCI/ISA
IRQ－7 assigned to : PCI/ISA
IRQ－9 assigned to : PCI/ISA
IRQ－10 assigned to : PCI/ISA
IRQ－11 assigned to : PCI/ISA
IRQ－12 assigned to : PCI/ISA
IRQ－14 assigned to : PCI/ISA
IRQ－15 assigned to : PCI/ISA

DMA-0 assigned to : PCI/ISA
DMA-1 assigned to : PCI/ISA
DMA-3 assigned to : PCI/ISA
DMA-5 assigned to : PCI/ISA
DMA-6 assigned to : PCI/ISA
DMA-7 assigned to : PCI/ISA

OK

⑤ INTEGRATED PERIPHERALS
ハードディスクコントローラなどの内蔵デバイスに関する情報

INTEGRATED PERIPHERALS

IDE HDD Block Mode : Enabled

Primary IDE Channel : Enabled
Read Prefetch : Disabled
Write Buffering : Disabled
Master Drive PIO Mode : AUTO
Slave Drive PIO Mode : AUTO

Secondary IDE Channel : Enabled
Read Prefetch : Disabled
Write Buffering : Disabled
Master Drive PIO Mode : AUTO
Slave Drive PIO Mode : AUTO

Onboard FDC Controller : Enabled
Onboard Serial Port 1 : Auto
UART1 Select : Ext. Port

Onboard Serial Port 2 : Disabled

Touch Panel : Disabled

Onboard Parallel Port : 378/IRQ7
Parallel Port Mode : ECP
ECP Mode Use DMA : 3

Build in CPU Audio : SB 16
Audio IO Base Address : 0x220
MPU 401 IO Base Address : 0x330
Audio IRQ select : 0xF (IRQ)
Audio Low DMA select : DMA0
Audio Heigh DMA select : DMA5

Video Memory Size : 2560 (KBytes)
Display Selection : LCD
Boot from PCMCIA :

OK

3

BIOS 設定を変更する

BIOS 設定の一部を変更することができます。別売りの CD-ROM 装置から起動するような場合や、ポートリプリケータのシリアルポートを有効にする場合など、ここでの設定が必要となります。

1） CD-ROM 装置から起動する設定を行う

Product Recovery CD-ROM を使用し、ハードディスクの中身を工場出荷状態に戻したい場合など、接続した CD-ROM 装置から起動できるように BIOS 設定を変更する必要があります。



Product Recovery CD-ROM の使い方については、109 ページを参照してください。

手順

1. モバイルコックピットのツールバーの［ツール］アイコンをクリックします。

2. メニューから［BIOS 設定ツール］を選択し、クリックします。

ここをクリックします

パワーマネージメント設定ツール

BIOS 設定ツール

ここを選択します

BIOS設定

システム | 起動 | 表示 | COMポート | セキュリティー

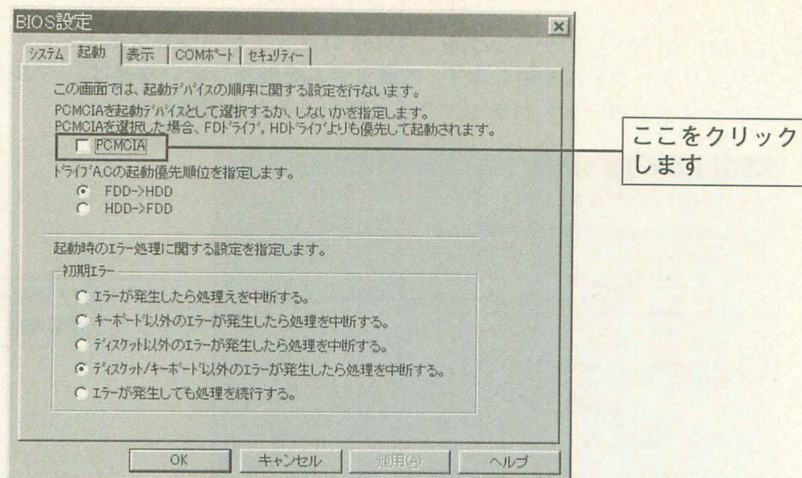
この画面では、BIOSに関する情報表示を行ないます。

STANDARD CMOS SETUP	ドライブやメモリに関する情報を表示します。
BIOS FEATURES SETUP	システムのパフォーマンスに関する情報を表示します。
CHIPSET FEATURES SETUP	チップセット環境構成に関する情報を表示します。
PNP/PCI CONFIGURATION	PCIバススロットに関する情報を表示します。
INTEGRATED PERIPHERALS	リソースに関する情報を表示します。

FIVA 101 BIOS Version 1.08j

OK　キャンセル　適用(A)　ヘルプ

3.[BIOS 設定］ウィンドウの［起動］タブをクリックします。



4.［PCMCIA］の左側にある□をクリックし、チェックします。

5.［OK］ボタンをクリックします。

再起動時は、CD-ROM 装置からの起動が行われます。

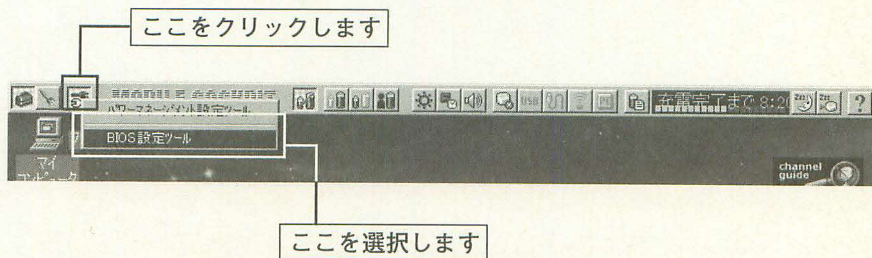
2）COM ポートの設定を変更する

モデムを標準装備するモデルでは、別売りのポートリプリケータを取り付けシリアルポートに周辺機器を接続する場合、工場出荷時でモデム（マルチコミュニケーションポート）に割り当てられている COM ポート 1をポートリプリケータに設定する必要があります。

手 順

1.モバイルコックピットのツールバーの［ツール］アイコンをクリックします。

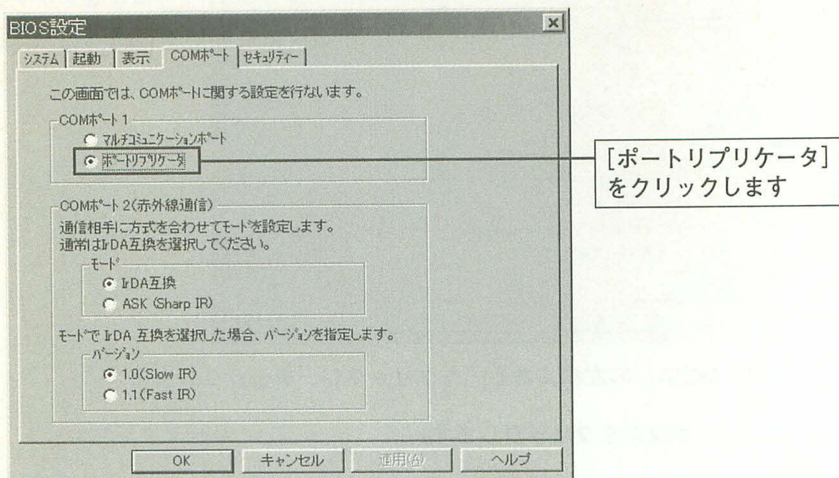
2. メニューから［BIOS 設定ツール］を選択し、クリックします。



3

3.［BIOS 設定］ウィンドウの［COM ポート］タブをクリックします。

4.［COM1　ポート］のチェックを［マルチコミュニケーションポート］から［ポートリプリケータ］に変更します。内蔵モデムを使用したい場合は、［マルチコミュニケーションポート］がチェックされていることを確認します。



5.［OK］ボタンをクリックします。

3）パスワードを設定する

他人が無断で本機を使うのを防ぐために、パスワードを登録することができます。パスワードを登録すると、電源を入れたときやハイバネーション状態からWindows 98の画面に戻るときなどにパスワードが要求されるようになります。正しいパスワードが入力されるまで、本機は起動しません。



通常のご使用ではパスワードを設定する必要はありません。パスワードを設定後、そのパスワードを忘れてしまうと、本機を起動できなくなってしまいます。設定する場合は、十分にご注意のうえパスワードの入力を行ってください。

手順

1. モバイルコックピットのツールバーの［ツール］アイコンをクリックします。

2. メニューから［BIOS設定ツール］を選択し、クリックします。

ここをクリックします

パワーマネージメント設定ツール

BIOS設定ツール

ここを選択します

BIOS設定

システム | 起動 | 表示 | COMポート | セキュリティー

この画面では、BIOSに関する情報表示を行ないます。

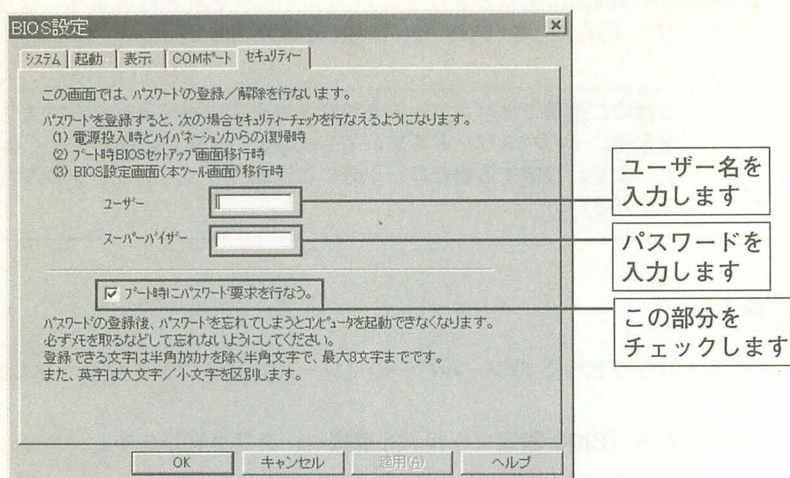
STANDARD CMOS SETUP	ドライブやメモリに関する情報を表示します。
BIOS FEATURES SETUP	システムのパフォーマンスに関する情報を表示します。
CHIPSET FEATURES SETUP	チップセット環境構成に関する情報を表示します。
PNP/PCI CONFIGURATION	PCIバススロットに関する情報を表示します。
INTEGRATED PERIPHERALS	リソースに関する情報を表示します。

FIVA 101 BIOS Version 1.08j

OK　キャンセル　適用(A)　ヘルプ

3. [BIOS 設定] ウィンドウの [セキュリティー] タブをクリックします。

4. [ユーザー] と [パスワード] をそれぞれ入力します。



5. [ブート時にパスワード要求を行なう] の左の□をクリックし、チェックが付いたことを確認します。

ジェスチャ機能を使う

本機には、サムパッド上であらかじめ登録した記号（「シンボル」と呼びます）を描くこと（「ジェスチャ」と言います）により、ソフトの起動や各種制御が行えるユーティリティ「Sensiva Pro」が標準でインストールされています。このSensiva Proには、初期状態でも、いくつかのソフトの起動や、操作に対応するシンボルが登録されていますが、シンボルの登録をご自分で行って好みのソフトを起動できるようにしたり、ソフトの操作を行えるようにしたりすることができます。



登録済みのシンボルは、インジケータ領域の［Sensiva Pro］アイコンをクリックし、［Sensiva Pro］ウィンドウを表示させることで確認することができます。

主なシンボルは以下の表のとおりです。

シンボル	機能	シンボル	機能	シンボル	機能
	切り取り		開く		検索
	コピー		上書き保存		上スクロール
	貼り付け		印刷		下スクロール
	削除		終了		デスクトップ
	元に戻す		ヘルプ		著名
	新規作成		Sensiva ウィンドウ		Sensiva ウェブサイト

3

● ジェスチャ機能でソフトを操作する

まず最初は、初期状態で登録済みのシンボル（ソフトに対する下スクロールの操作）を使って、Sensiva Proの基本的な使い方を説明します。

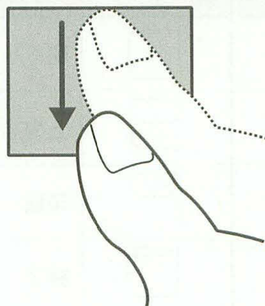
手順

1. 操作したいソフトをアクティブにします。

アクティブなソフトは、通常はデスクトップの最前面に表示され、キー入力を受け付ける状態になっています。操作したいソフトがアクティブでなければ、そのウィンドウをアクティブにしてください。

2. コントロールボタンの右ボタンを押しながら、サムパッド上でシンボルの形状を指でなぞります（この操作をジェスチャと呼びます）。

「下スクロール」操作のシンボル



3. シンボルを描き終えたら、右ボタンを離します。

4. Sensiva Proが描いた記号を認識し、対応する機能が実行されます。今回の例（下スクロール）では、ウィンドウの表示内容が上方向（文章の後ろ方向）にスクロールします。

● シンボルを登録する

初期状態で登録されたシンボル以外にも、ユーザー独自のシンボルを追加することができます。

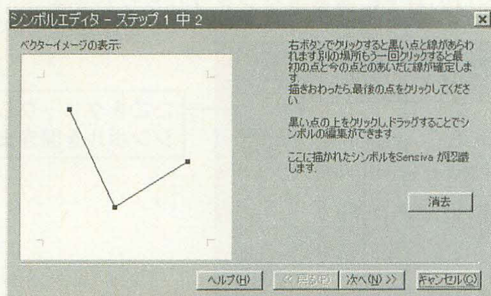
手順

1. インジケータ領域の［Sensiva Pro］アイコンをクリックし、Sensiva Proのウィンドウを表示させます。

2. ［Sensiva Pro］ウィンドウの［ファイル］メニューから、［シンボル］を選択し、［新規作成］をクリックします。

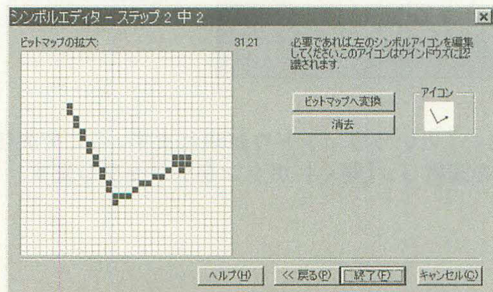
3. シンボルを定義します。

   シンボルを作成するためのエディタが起動するので、ここでシンボルを描きます。右ボタンをクリックすると、黒い点と線が現れます。別の場所でもう1度右クリックすると、最初の点との間で線が確定します。この操作を続けて、登録したいシンボルを描きます。描き終わったら、最後の点をもう1度右クリックし、［次へ>］ボタンをクリックします。



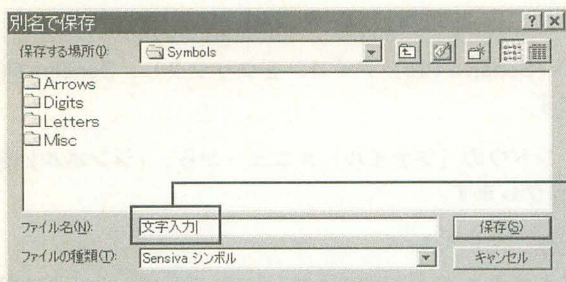
4. シンボルを確認して、必要なら修正します。

   手順3で描いたシンボルのビットマップが自動的に作成されます。このビットマップは、シンボルアイコンとなり、Sensiva Pro のウィンドウ内に表示されます。ビットマップを編集する必要があるときは、このウィンドウ内の［ビットマップの拡大］の中で行います。矢印を描き加えると、シンボルを描く方向がわかりやすくなります。ビットマップを描き終わったら、［終了］ボタンをクリックします。



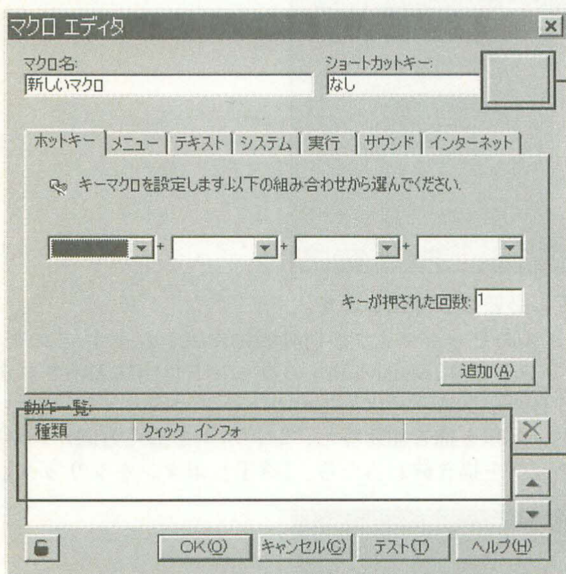
5. シンボルを保存します。

手順 4 で［終了］ボタンをクリックすると、［別名で保存］ウィンドウが現れます。そのシンボルの名前（シンボルの機能を示す名前）を［ファイル名］に入力し、［保存］ボタンをクリックします。



6. ［Sensiva Pro］ウィンドウの［ファイル］メニューから、［マクロ］を選択し、［新規作成］をクリックします。

7. ［マクロ エディタ］ウィンドウの右上にあるボタンをクリックします。



8. ［シンボルを選択してください］というウィンドウが現れます。ここで先ほど作成したシンボルのファイル名を選択し、［開く］ボタンをクリックします。

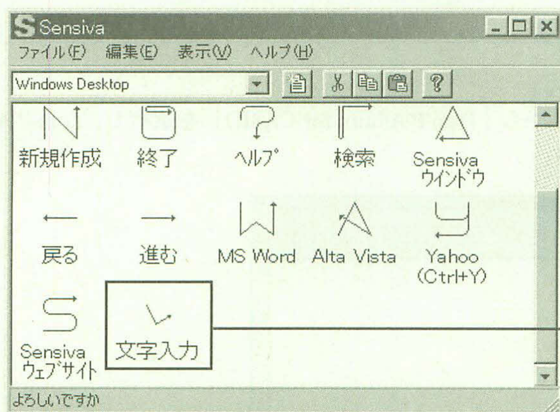
9. マクロで実行する機能を設定します。設定できる機能は以下の表のとおりです。

タブの名前	設定内容
ホットキー	設定したキーの入力が行われたのと同じ操作を行います。
メニュー	ソフトの各メニュー項目を実行します。
テキスト	テキストの入力を行います。
システム	システムの再起動など、システムが用意する動作を実行します。
実行	プログラムの起動や文書ファイルを開きます。
サウンド	保存されているサウンドファイルを再生します。
インターネット	インターネットの特定のアドレスにアクセスしたり、メールを送ったりします。

これらの機能を設定し、[追加] ボタンを押すことで、シンボルに機能が割り当てられます。複数の機能を登録することで、一連の機能が順番に実行される操作をシンボルに登録することもできます。例えば、1 つのシンボルで「メモ帳」を起動し、特定の文字列を入力し、ファイルに保存するといった操作が行えます。このような一連の操作が正しく機能するかどうかは、[テスト] ボタンをクリックすることで試すことができます。

10.機能の設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。

11.シンボルがアプリケーションセットの中に登録されているかどうかを確認します。



3

デジタルカメラとデータ交換する

本機は赤外線通信ポートを標準で装備しており、デジタルカメラとのデータ交換が簡単に行える IrTran-P に対応したソフト「Tran-P Album for CASIO」があらかじめインストールされています。ここでは、本機とカシオの QV-7000SX とのデータ交換を例に説明します。IrDA1.0/1.1 準拠、赤外線通信規格 IrTran-P に対応した機器へ接続ケーブルを使わずに、画像データの送受信ができます。

TranP

IrTran-P は、日本電信電話（株）、ソニー（株）、シャープ（株）、オカヤ・システムウエア（株）、カシオ計算機（株）で共同開発した、デジタルカメラの静止画像を赤外線により転送するための通信規格です。（1998 年 1 月現在）

● QV-7000SX からデータを取り出す

QV7000SX で撮影した画像を本機に取り込んでアルバムとして保存したり、カラープリンタを利用して印刷したりすることができます。
撮影したパノラマやムービーも取り込むこともできます（ムービーはアニメ GIF で変換されます）。

手 順

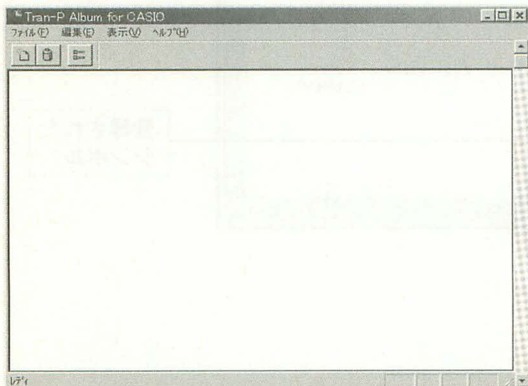
1. 本機の赤外線通信ポートを有効にします。



赤外線通信ポートの設定については、52 ページを参照してください。

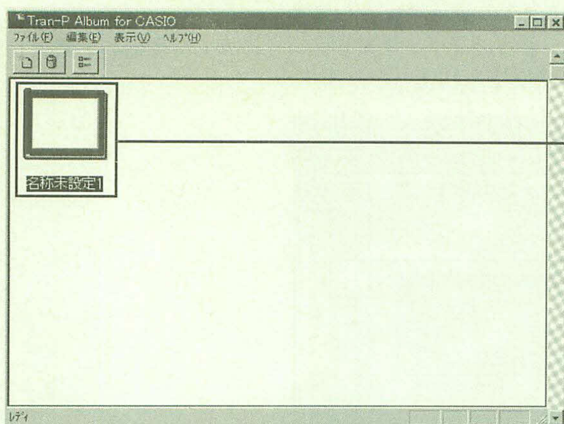
2. ソフトを起動します。

［スタート］メニューから［Tran-P Album for CASIO］を選択し、Tran-P Album for CASIO を実行します。



3. アルバムを作成します。

［ファイル］メニューから［新規アルバム作成］を選択します。［名称未設定 1］というタイトルの大きなフォルダが現れます。

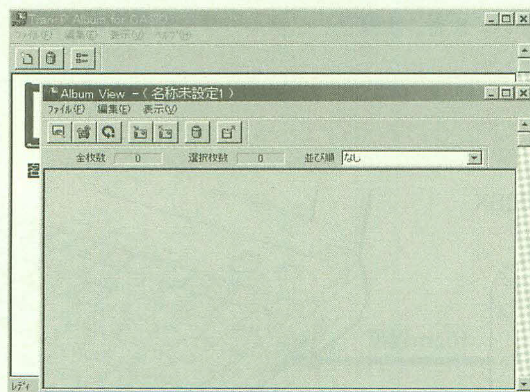




アルバムのタイトル名は自由に変更することができます。タイトル部分を右クリックし、メニューから［アルバムプロパティー］を選択し、現れたダイアログボックスの［タイトル名］を書き換えてください。

4. アルバムを開きます。

手順 3 で作成したフォルダをダブルクリックしてください。［Album View］ウィンドウが現れます。



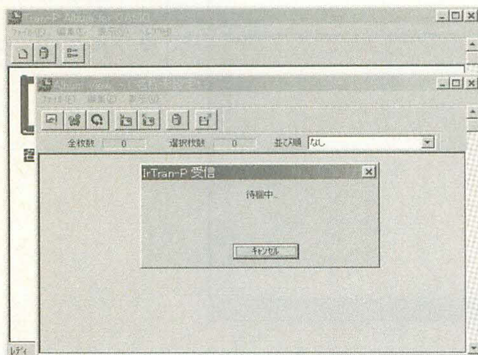
3

5. デジタルカメラ側を設定します。

QV-7000SXの電源を入れ、データ送信の準備を行います。QV-7000SXの操作方法については、QV-7000SXのマニュアルを参照してください。

6. Tran-P Album for CASIOの受信準備をします。

［Album View］ウィンドウの［ファイル］メニューから［受信］を選択します。デジタルカメラからの受信待ち状態となります。



7. デジタルカメラからデータを送信します。

QV-7000SXを本機の左側に近づけ（10cm程度に近づけてください。あまり近すぎてもデータの送受信が行えない場合があります)、カメラ側のデータ送信ボタンを押します。データが正しく受信されると、Tran-P Album for CASIOがデータ受信を示すダイアログボックスが現れます。



データが正しく受信できない場合は、［失敗しました。］というダイアログボックスが現れます。本機の赤外線通信ポートが受信状態になっているか確認してください。また、本機とデジタルカメラの距離を変えて、もう1度試してください。



以上の操作によりデジタルカメラで撮影した画像が、本機に転送できます。同様の手順で、QV-7000SXで撮影したムービーやパノラマを受信することができます。

困ったときは

パソコンはいろいろなアプリケーションや周辺機器を組み合わせて使うので、予期しないトラブルが発生することがあります。こうしたトラブルをうまく解決するためにいくつかのポイントがあります。

● **Point 1：落ち着いて対処する**
電源をすぐに切ったり、何度もクリックしたりキーボードにタッチしないようにします。
パソコンやアプリケーションソフトの反応が遅くなっただけかもしれません。

● **Point 2：メッセージが表示されていたら書き留める**
画面上やプリンタに、番号や英数字／英文字など出力されていたら解決への何かのヒントになるかもしれません。紙に書き留めておくようにしてください。

● **Point 3：原因がなにか考える**
原因が本体なのか周辺機器かまたはアプリケーションソフトなのか、また同じ操作をすると必ず発生するものなのか、原因の特定に役立つものがあると解決が早くなります。

● **Point 4：添付されている他の「説明書」やヘルプを見る**
トラブルの解決に役立つことが説明されているかもしれません。説明書やソフトに添付されているヘルプを一度は見てください。

＊問い合わせをする前に、下記の表を記入しておいてください。問題解決に大変便利です。

あなたのパソコンの構成		
本体	型　名	
	製造番号（本体の底部に記載）	
	メモリの容量（MB）	
	ハードディスクの容量（GB）	
	ハードディスクの空き容量（MB）	
	バッテリパックの使用の有無	
	UNIT ID番号	
周辺機器	外部接続ディスプレイ	
	接続しているプリンタ	
	使用しているＰＣカード	
	その他接続している周辺機器	
ソフトウェア	OS（Windows）のバージョン	
	トラブル時に実行していたソフトウェアのすべて	
備考		

3

カシオペア ファイバ サポートセンター

■パソコンの使い方や製品の技術的なことについては、下記のカシオペア ファイバ サポートセンターにお問い合わせください。それ以外についてのお問い合わせは、開発元または販売店へお問い合わせください。
(電話番号) 03-5334-4956
(営業時間) 午前 9～12 時、午後1～5時 (土・日・祝祭日を除く)

■ハードウェアのアフターサービスについては、下記のカシオサービスセンターにお問い合わせください。

■ユーザーサポートやそのほかのサービスをご利用の際には、本製品に同梱の UNIT ID STICKER (ユニット ID ステッカー) が必要となります。

カシオサービスセンター

北海道

札　幌　☎011-842-1231
札幌市白石区菊水五条1-19-5

東北

仙　台　☎022-256-8822
仙台市宮城野区榴岡5-1-35

盛　岡　☎0196-46-3393
盛岡市上堂2-3-6

関東

宇都宮　☎028-623-5588
宇都宮市戸祭町3009-8

水　戸　☎029-228-3155
水戸市城南3-10-17

高　崎　☎0273-22-9555
高崎市新町67-1

埼　玉　☎048-666-8567
大宮市大成町4-83

千　葉　☎043-243-1087
千葉市中央区神明町13-4

新　宿　☎03-3227-6751
新宿区西新宿7-5-25

秋葉原　☎03-5820-9871
千代田区神田佐久間町2-15

多　摩　☎042-523-3990
立川市曙町1-22-17

横　浜　☎045-211-0811
横浜市中区南仲通3-26

信越

信　越　☎025-287-1151
新潟市弁天橋通り3-9-12

北陸

金　沢　☎076-224-0061
金沢市南新保町ト52

東海

静　岡　☎054-281-8085
静岡市津島町16-23

名古屋　☎052-936-4601
名古屋市東区葵3-22-5

近畿

京　都　☎075-351-1161
京都市下京区五条通り堀川東入ル

大　阪　☎06-352-7111
大阪市北区天神橋6-3-16

神　戸　☎078-392-2145
神戸市中央区伊藤町119

中国

岡　山　☎086-244-3404
岡山市西古松西町9-1

広　島　☎082-230-5900
広島市西区大芝2-14-10

四国

高　松　☎087-837-7641
高松市今里町2-21

九州

福　岡　☎092-411-2939
福岡市博多区東比恵2-16-23

熊　本　☎096-367-0614
熊本市健軍1-38-7

鹿児島　☎099-256-3573
鹿児島市郡元1-1-3

※住所・電話番号などは変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

CASSIOPEIA FIVAに関する情報は、CASSIOPEIAホームページ (URL http://www.casio.co.jp/mpc) でご覧いただけますので是非ご活用ください。

●電源がおかしい

状況	対応
電源が入らない PW-LEDが赤色に点滅している 一度電源が入るがすぐに切れる 電源スイッチを押しても全然動作しない	ACアダプタを接続します。 充電済みのバッテリパックを取り付けます（電池残量が10%以上でないと警告メッセージが表示されて電源が切れます）。
電源を入れてもシステムが起動しない ハイバネーション状態で本機の電源を入れたがシステムが起動しない	電源を入れた状態で本体裏面のリセットスイッチを押してください（この場合ハイバネーション機能によって保存されたデータは失われますので注意してください）。
ディスプレイを開いたが電源が入らない	HDD-LED が消灯してから、電源スイッチを押して電源を入れます。
電源が切れる 使用中にハイバネーション処理を行い、電源が切れる	しばらく放置して、内部の温度が下がるまで使用をお待ちください（下記 メモ を参照）。
	ACアダプタを接続するか充電済みのバッテリパックを取り付けます。電池残量が少ないときに起動すると、この状況になります。
バッテリの充電が完了しても、バッテリによる使用時間が短くなった	モバイルコックピットのバッテリレポートツールを起動し、[バッテリ劣化率] を確認してください。 この値が目安として30%以下ならバッテリパックの交換時期です。



本機は、内部温度が一定以上に上昇すると危険防止機能がはたらき、まずＣＰＵの速度を落とし温度を上昇させないように制御します。

3

●画面がおかしい

状況	対応
画面に何も表示されず、PW-LED が点灯しない	電源スイッチを押して、電源を入れてください。
画面に何も表示されず、表示自動停止機能がはたらいた	Shift を押してください（省電力機能によってディスプレイ画面を消去する場合があります）。（ 71ページ）
Windows 98のパスワードを忘れたとき	［Windows ログオン］の画面で、新しいユーザー名でログオンを行うか、Windows 98の再セットアップを行います。
BIOS 設定でのユーザーパスワードを忘れたとき	お使いの機種モデルを確認の上、販売店またはお近くのカシオのサービスセンターへご相談ください。
画面が見にくい	本機のディスプレイの向きを変えてみます。
画面が暗い	画面の輝度を調節してください（キーボードの Fn ＋ F1 または F2 ）。調節しても暗い場合は、長期間のご使用でディスプレイの部品が消耗していることが考えられます。 お使いの機種モデルを確認の上、販売店またはお近くのカシオのサービスセンターへご相談ください。
画面に何も映らない	Fn ＋ F10 を押して、表示デバイスを LCD に変更してください（ 71ページ）。



本機は、内部温度が一定以上に上昇すると危険防止機能がはたらき、先ず CPU の速度を落としていきます。更に使用を続けると、自動的にハイバネーション状態にして本機は自動停止します。

●ソフトがおかしい

状況	対応
赤外線通信ができない	赤外線ポートの設定を正しく設定します。 ・通信先と本機の通信速度を同じにする。 ・赤外線コミュニケーションポートの間の障害物を取り除く。
赤外線通信で、データが正しく送られない	通信先と本機の通信速度を同じにします。 ・通信先との距離を変えてみる。 ・直射日光や蛍光灯の光の当たる場所から本機を離す。
スピーカから音が聞こえない	ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取り外します。
ヘッドホンを取り外してもスピーカから音が聞こえない	モバイルコックピットの［音量］アイコンをクリックし、スピーカの音量を確認してください。
音が間延びする	一度サウンドの再生を中断し、もう一度再生します。
音が途切れる	モバイルコックピットの［CPU］アイコンをクリックして、［CPUの速度］を100にします ・他のアプリケーションを終了します。
内蔵のモデムが使用できない（MPC-101M32のみ）	・BIOS設定を変更して、COM1ポートを［マルチコミュニケーションポート］に設定してください（85ページ）。 ・モバイルコックピットの［シリアルポート］アイコンが有効になっていることを確認してください（80ページ）。

3

●周辺機器の動作がおかしい

状況	対応
ＰＣカードが使えない	PCカードが正しくセットされているか確認してください。
シリアルマウスが使えない マウスの設定がシリアルマウスになっていない	・もう一度ポートリプリケータ、シリアルマウスを接続し直し、本体の電源を入れます。 ・［コントロールパネル］の［ハードウエア］のアイコンをクリックし、ハードウエアの自動検出を実行します。
シリアルポートが使えない シリアルポートの電源がオフになっている	・モバイルコックピットの［BIOS設定］を変更して、COMポート1を［ポートリプリケータ］に設定してください。 ・ACアダプタを接続し、パワーマネージメントオフにしてお使いください。
フロッピーディスク装置が使えない 使用するシステムのフロッピーディスクをセットし、Ctrl ＋ Alt ＋ Del を押してもシステムが再起動しない。リセットスイッチを押して再度上記の操作をしてもシステムが再起動しない。	フロッピーディスク装置が故障している可能性があります。お使いの機種モデルを確認の上、販売店またはお近くのカシオのサービスセンターへご相談ください。
フロッピーディスク装置が使えない フロッピーディスク装置のアクセスランプが消えない	大量のデータを処理しているときは、アクセス LED が消えるまで待つ。
フロッピーディスク装置が使えない フロッピーディスクからシステムが起動しない	モバイルコックピットの［BIOS設定］の［起動］から［FDD→HDD］を選択します。
接続したUSB対応周辺機器が動作しない	モバイルコックピットの［USBポート］アイコンが有効になっていることを確認してください（80ページ）。

●文字の入力ができない

状況	対応
文字ロックが希望の状態でない	Shift ＋ CapsLock を使って、希望の状態にします。
Alt ＋ 半／全 を押しても漢字モードにならない	日本語入力システムを組み込みます。
どのキーを押しても反応しない	電源を切って再起動します。
電源を入れ直しても反応しない	Ctrl ＋ Alt ＋ Del を押します。
Ctrl ＋ Alt ＋ Del を押しても反応しない	リセットスイッチを押します。（19ページ）
通常キー入力なのに数字が入力される	Fn ＋ F11 で切り換えます。

●印刷がおかしい

状況	対応
印刷ができない プリンタの電源が入っていない	本機の電源をいったん切り、プリンタ→本機の順に電源を入れ直します。
印刷ができない 接続ケーブルやコネクタが正しく接続されていない	正しく接続し直します（プリンタによっては指定のケーブルが必要な場合がありますので注意してください）。
印刷ができない プリンタが印刷可能状態（オンライン）になっていない	プリンタの「印刷可」や「オンライン」の表示確認をしてください。
印刷ができない 接続しているプリンタと違うプリンタを、アプリケーションソフトで設定している	［コントロールパネル］の［プリンタ］で正しく設定し直します。
上記のすべての対応をしても印刷できない	Windows 98を終了し、本機をあらためて再起動してください。
印刷ができない プリンタ専用のプリンタドライバがインストールされていない	新しく接続したときは、プリンタドライバのセットアップが必要です。プリンタドライバの設定を確認してください。

3

●調子がおかしい

状況	対応
充電したのにすぐにPW-LEDが赤色に点滅する	バッテリパックの充電機能が低下している場合は、別売りのバッテリパックと交換します。
使用中に「ピー・ピー」と音が鳴る	バッテリパックの充電が不足し切れかかっています。 ＡＣアダプタを接続してください。
操作中に本機が動かなくなった	・バッテリパックを使用していたときは、バッテリが切れた可能性があります。ACアダプタを接続してください。 ・使っていたアプリケーションソフト上の問題で、システムが止まってしまった可能性があります。リセットスイッチを押し、本機を再起動してください。
動作が遅い①	・一度電源を切り、再起動して様子を見てください。 ・メモリ不足が考えられます。RAMモジュールの増設を考慮してください。
動作が遅い②	パワーマネージメントがエコノミーになっているときは、ノーマルまたは無効に設定してください（71ページ）。
動作が遅い③	電源を切り、しばらく放置してください。温度が下がれば、通常の状態に戻ります。
画面上の日付／時刻の表示が違っている	・［コントロールパネル］を使って正しい日付／時刻を入力します。 ・何回直しても狂う場合は、日付／時刻の情報を維持しているクロックバッテリが切れかかっている場合があります。お買い上げの販売店またはお近くのカシオのサービスセンターへご相談ください。

●調子がおかしい（続き）

状況	対応
ジェスチャ機能がはたらかない	Sensiva Pro が起動していないときは、[スタート] ボタンをクリックし、メニューから Sensiva Pro を起動してください。
ホットキーがはたらかない	[スタート] ボタンをクリックし、メニューからモバイルコックピットを起動してください。
モバイルコックピットが表示されなくなった	モバイルコックピットが閉じているか、隠す設定になっている可能性があります。 ・閉じているときは、[スタート] ボタンをクリックし、メニューからモバイルコックピットを起動してください。 ・隠す設定になっているときは、[インジケータ領域] の [モバイルコックピット] アイコンをクリックし、[隠す] のチェックを外してください。
Windows 98が動かなくなってしまった	・Ctrl＋Alt＋Del を押して、[シャットダウン] ボタンをクリックして、Windows 98を再起動してください。 ・Ctrl＋Alt＋Del も機能しない場合は、本機のリセットボタンを押して、システムを再起動してください。

3

●リカバリ処理をした後の問題

状況	対応
Microsoft FAX が使用できなくなった	リカバリ後、Microsoft FAX を Windows 98 のCD-ROM からインストールしてください。
標準付属ソフトウェアが使用できなくなった	リカバリを実行しても、一部のソフトウェアは工場出荷時に戻りません。Product Recovery CD-ROMからそれぞれソフトウェアをインストールしてください。
画面のフォントが小さくなった	リカバリを実行しても、画面のフォントサイズは工場出荷時に戻りません。［画面のプロパティ］の設定を変更してください。
壁紙が変わってしまった	リカバリを実行しても、壁紙は工場出荷時の設定に戻りません。［画面のプロパティ］の設定を変更してください。

●異常や故障の場合

状況	対応
異常な臭いや過熱に気づいた場合	すぐに電源を切り、電源コードを抜きます。
操作途中で、どうしても解らない場合	操作できない原因がどうしてもわからない場合は、カシオサポートセンターにご連絡ください。 ご連絡の際には、下記の内容をお知らせください。 ・使用している機器の名称 ・ご購入年月日 ・現在の状態、使用ソフト名称
故障が発生した	すぐにお買い上げの販売店またはお近くのカシオのサービスセンターへご相談ください。 ご相談の際には、下記の内容をお知らせください。 ・使用している機器の名称 ・ご購入年月日 ・現在の状態

再セットアップ

付録

Recovery CD-ROM を使ったハードディスク内容の修復を行う方法を説明します。

リカバリを開始する

同梱の Product Recovery CD-ROM を使用して、ハードディスクの内容を工場出荷状態に戻すことができます。Windows 98 が正しく動作しなくなったとき、Windows 98 が起動しなくなったときなどに、Product Recovery CD-ROM を使用してハードディスクを修復すれば(以下はこの修復作業を「リカバリ」と表記します)、本機をご購入いただいた状態に戻ります。



リカバリを実行すると、それまでにハードディスクに保存していたすべての情報が失われます。重要なデータについては、日頃からデータのバックアップ(複製)をとり、本機とは別に保存しておくように心掛けてください。



- Product Recovery CD-ROM を使用するには、別売りの CD-ROM 装置が必要です(:「別売品一覧」)。
- リカバリを行うときには、必ず本機に AC アダプタを接続して作業してください。リカバリの作業の途中でバッテリ容量がなくなると、作業を初めからやり直す必要があります。

リカバリ作業は、以下の手順に従って実行してください。

● BIOS 設定を変更する

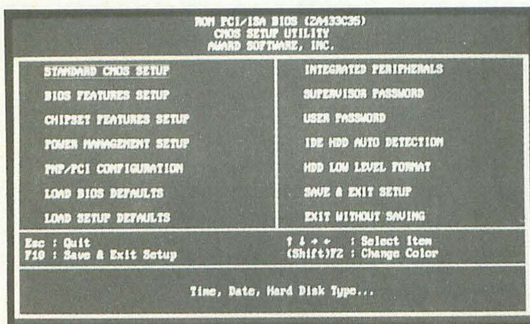
通常はハードディスクから起動するように設定されていますが、CD-ROM 装置から起動する場合には、BIOS 設定を変更する必要があります。

手順

1. 電源を切った状態にします。
2. CD-ROM 装置を接続します。
3. CD-ROM 装置に Product Recovery CD-ROM をセットします。
4. 本機の電源スイッチを押します。

5. 「CASIO」のロゴの画面が現れたら Del を押し、BIOS セットアップユーティリティを呼び出します。





6. ↓ で［BIOS FEATURES SETUP］を選択し、Enter を押します。

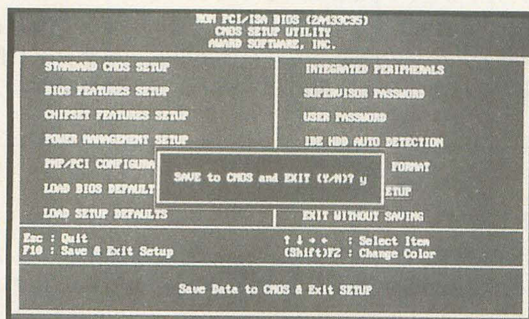
7. ↓ を 4 回押して［Boot Sequence］を選択し、［CARD,C,A］と表示されるまで、PgDn（ Fn ＋ ↓ ）または PgUp（ Fn ＋ ↑ ）を押します。



8. Esc を押して、BIOS セットアップユーティリティの初期画面に戻ります。

9. ↓ 、→ を使って、［SAVE & EXIT SETUP］を選択し、Enter を押します。

10. ［SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?］と表示されたら Y を入力し、Enter を押します。以上で、変更した BIOS の情報が保存され、本機が CD-ROM 装置から再起動するようになります。



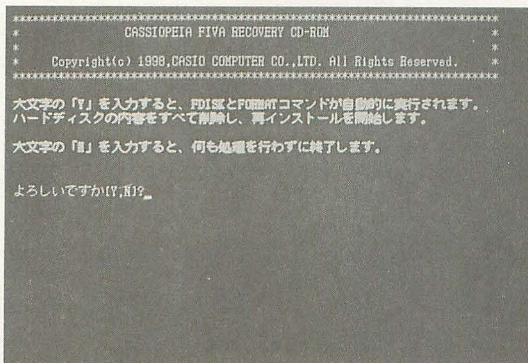
● ハードディスクのパーティション設定／フォーマットを行う

Product Recovery CD-ROM から起動すると、自動的にリカバリ作業が開始されます。画面に表示される指示に従って、作業を進めます。

手順

1. ハードディスクにハイバネーション用の領域を確保します。

Product Recovery CD-ROM から起動すると、一連の初期化処理が行われた後、下の画面が表示されます。ここで Shift ＋ Y （大文字の「Y」）を押すと、ハードディスクの内容をすべて削除し、再インストールが開始されます。



付録



この画面で Shift ＋ Y （大文字の「Y」）を押すと、それまでにハードディスクに保存したデータはすべて削除されます。作業を中止したい場合は、ここで Shift ＋ N （大文字の「N」）を押して、リカバリ作業を中止してください。



ここで「Y」を入力すると、FDISK コマンドでハードディスクのパーティショニングが行われ、通常データの保存に利用するパーティションと、ハイバネーション時のメモリの待避用のパーティションがそれぞれ作成されます。その後ハイバネーション用のパーティションは自動的にフォーマットされます。

2. ディスクをフォーマットします。

以下の画面が表示されたら、任意のキー（ スペース など）を押すと、システムが再起動され、ハードディスクのフォーマットが開始されます。ハードディスクのフォーマットには10分ほどかかります。

```
ハイバネーション域を確保しています。
正常終了すると再立ち上げの確認メッセージが表示されます。
表示を確認した後、任意のキーを押してください。

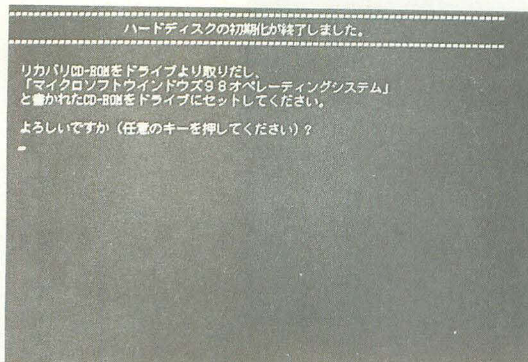
ZVHDD 1.31 -- Award NoteBIOS v4.51GP(tm) Zero-Volt Partition Utility
Copyright (c) Award Software Inc. 1996. All rights reserved.

   Formating 39296KB Byte
The system will now be reset to allow the BIOS to recognize the changes.
If the system fails to reboot, please turn off the power.

Press any key to reset the system......
```

3. CD-ROM を入れ換えます。

ハードディスクのフォーマットが終了したら、Product Recovery CD-ROM を CD-ROM 装置から取り出し、同梱の「マイクロソフトウィンドウズ 98 オペレーティングシステム」の CD-ROM を入れます。その後、任意のキーを押します。

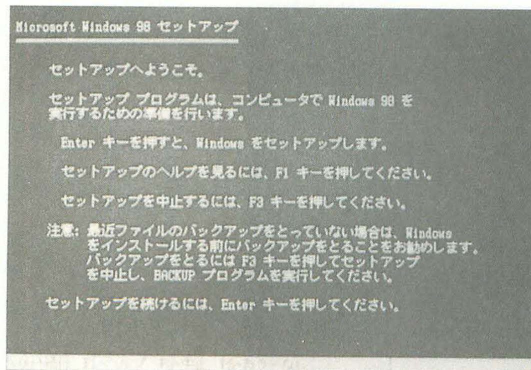




CD-ROM を入れ換えるときは、CD-ROM 装置の電源を切らないでください。

4. Windows 98 のセットアップを始めます。

以下の画面が現れたら、Enter を押します。



5. システムチェックを実行します。

以下の画面が現れたら、Enter を押します。スキャンディスクが開始され、ハードディスクにエラーがないかどうかチェックされます。

Windows をインストールする準備をしています。

準備をしています。しばらくお待ちください...

システムのチェックを行います。

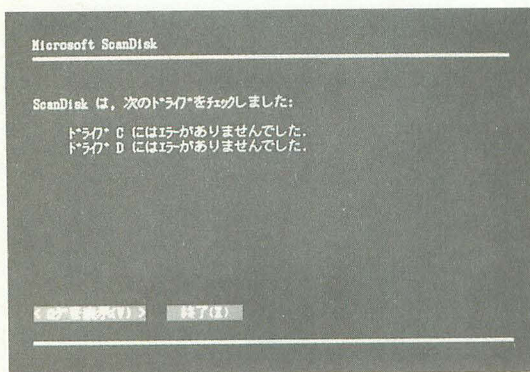
Enter キーを押すと続行します。Esc キーを押すと、セットアップを中止します。_



スキャンディスクは、ハードディスクにエラーがないかどうかを確認するプログラムです。このときエラーがある場合には、修復を行います。

6. システムチェックを終了します。

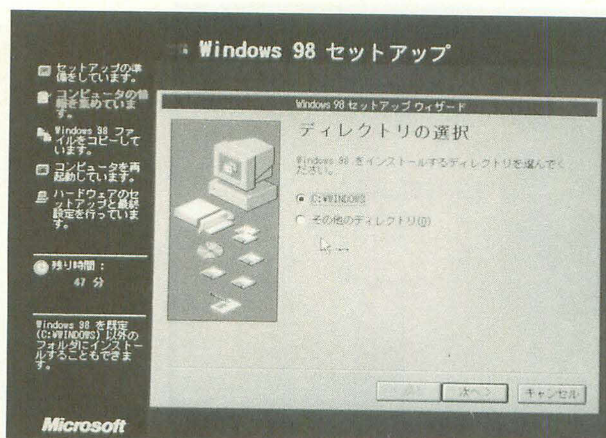
スキャンディスクの処理が終了したら、X を押してスキャンディスクを終了させます。



すると画面が変わり、Windows 98のセットアップの準備を行い、Windows 98 セットアップ ウィザードが開始されます。

7. Windows 98 をインストールするディレクトリを選択します。

［C:¥WINDOWS］が選択されていることを確認して、［次へ>］ボタンをクリックします。

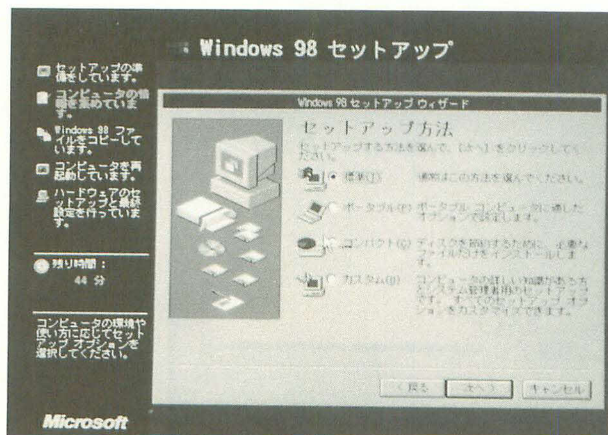




Windows 98 をインストールするディレクトリを変更したい場合は、ここで［その他のディレクトリ］を選択し、指示に従ってインストールしたいディレクトリ名を入力します。通常はデフォルトの［C:¥WINDOWS］のままで問題ありません。

8.［セットアップ方法］を選択します。

［標準］が選択されていることを確認して、［次へ>］ボタンをクリックします。



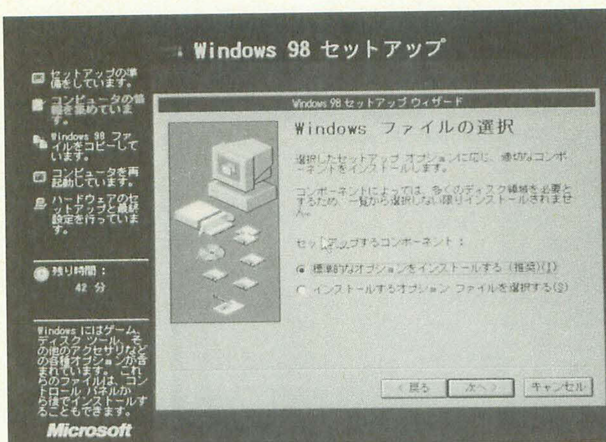


［標準］以外の項目を選択することもできますが、ハードディスクを工場出荷時の状態に戻したければ、必ず［標準］を選択してください。

付録

9. [Windows ファイルの選択] を選択します。

ここでは［標準的なオプションをインストールする］が選択されていることを確認して、［次へ>］ボタンをクリックします。

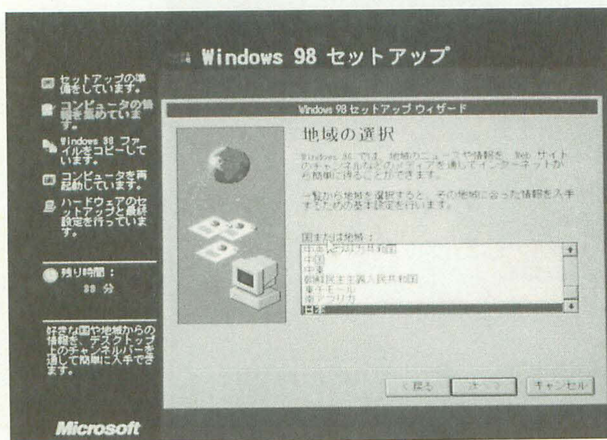




［インストールするオプション ファイルを選択する］を選択することもできますが、ハードディスクを工場出荷時の状態に戻したければ、必ず［標準的なオプションをインストールする］を選択してください。

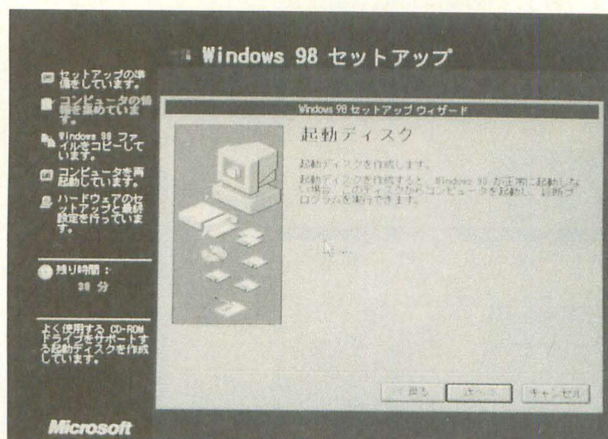
10.［地域の選択］を行います。

［国または地域］が［日本］になっていることを確認して、［次へ>］ボタンをクリックします



11.起動ディスクの作成処理をスキップします

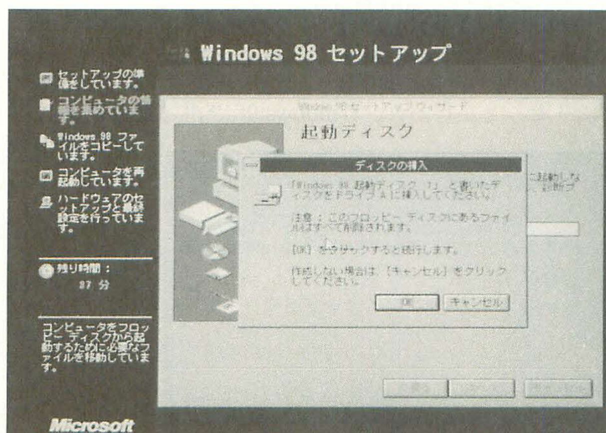
下の画面が表示されたら、[次へ>] ボタンをクリックします。





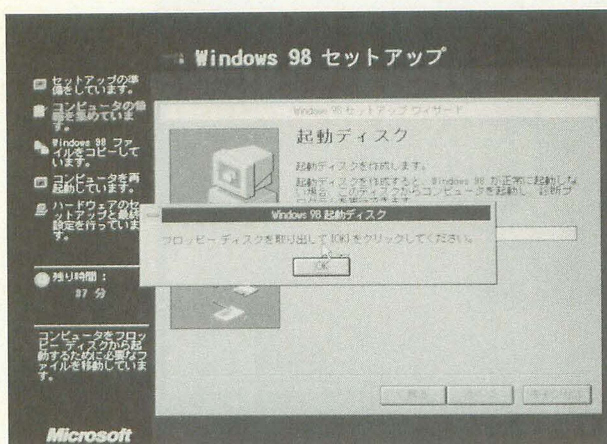
起動ディスクは、Windows 98 が正常に起動しない場合に使用するフロッピーディスクです。起動ディスクを使って、システムを起動し、診断プログラムを実行することで、正常に起動しない原因を調べることができます。

下の [ディスクの挿入] ダイアログが表示されたら、[キャンセル] ボタンをクリックします。



付録

確認のメッセージが表示されるので、ここで［OK］ボタンをクリックします。これにより、起動ディスクの作成処理はスキップされます。起動ディスクは、Windows 98のインストール後に作成します。





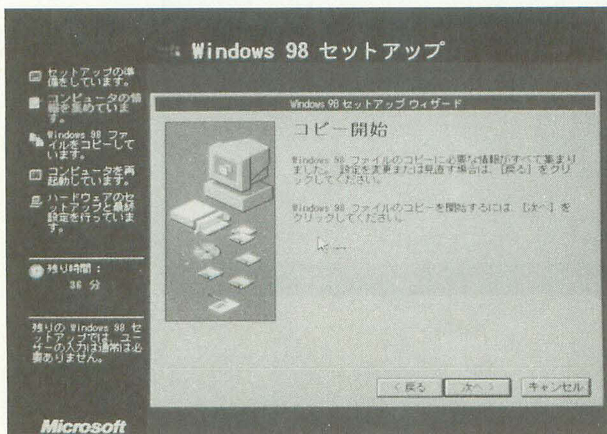
Windows 98 のインストール後に起動ディスクを作成する方法については、138 ページを参照してください。



リカバリの作業中は、CD-ROM 装置が A：ドライブとなるため、フロッピーディスク装置を接続していても、起動ディスクはできません。ここで起動ディスクの作成処理をスキップするのはこのためです。

12.ファイルのコピーを開始します。

下の画面が表示されたら、［次へ>］ボタンをクリックしてファイルのコピーを開始します。ファイルのコピーには、15分ほどかかります。ファイルのコピーが終わると、自動的にリセットが行われ、Windows 98が再起動します。

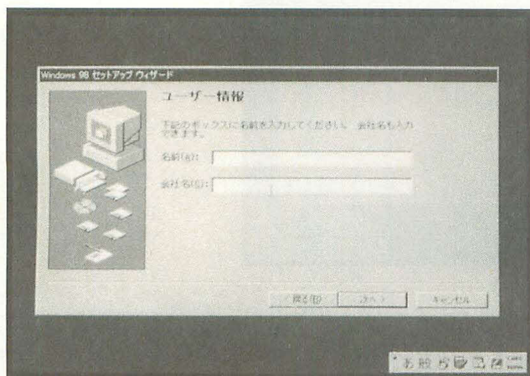


● Windows 98 の設定を行う

手順

1. ユーザー情報を入力します

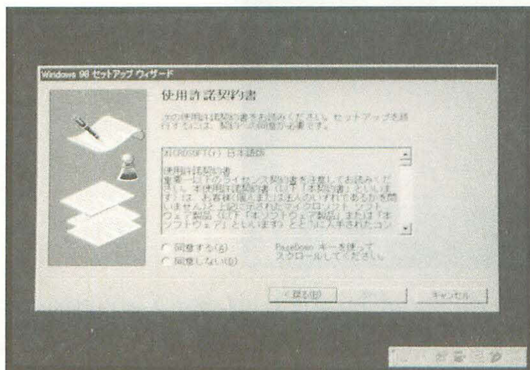
ここでは、名前と会社名を登録します。名前の入力は必須ですが、会社名は省略可能です。日本語入力システムが起動されているので、日本語による入力が行えます。入力方法は、「ローマ字入力」です。［名前］を入力したら、TAB を押します。カーソルが［会社名］に移動します。



名前と会社名を入力したら、確認のうえ、［次へ>］ボタンをクリックします。

2. 使用許諾契約書を確認します

「マイクロソフト ソフトウェア使用許諾契約書」の内容を必ずお読みください。すべての説明を読むには、画面のスクロールバーの▲、▼ボタンまたは PgUp（Fn ＋ ↑）、PgDn（Fn ＋ ↓）を使って表示内容をスクロールします。

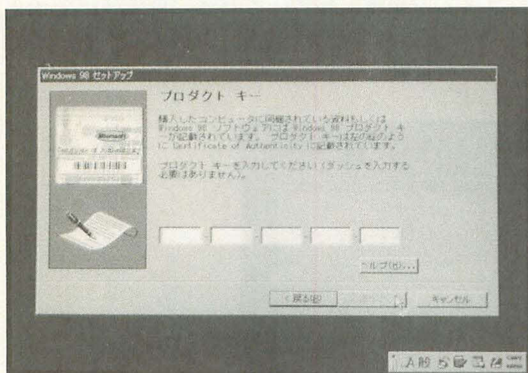


［同意する］の左にある○部分をクリックし、［次へ>］ボタンをクリックします。

付録

3. プロダクト キーを入力します

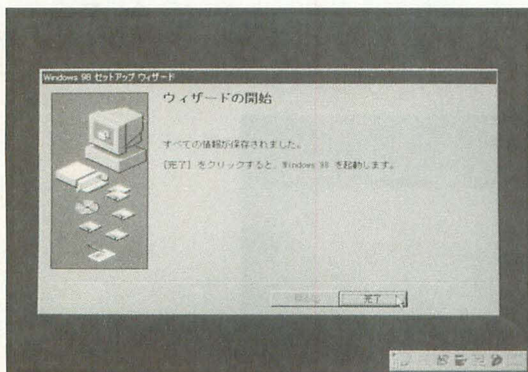
同梱されている「ファーストステップガイド Windows 98」に貼られた「Certificate of Authenticity」に印刷されている英数字（プロダクト キー）を入力し、[次へ>] ボタンをクリックします。この入力では、Shift を押さない状態でも英文字が大文字で入力されます。





プロダクト キーを入力する際は、0（ゼロ）とO（オー）、B（ビー）と8（ハチ）など間違いやすい文字がありますので、十分注意してください。

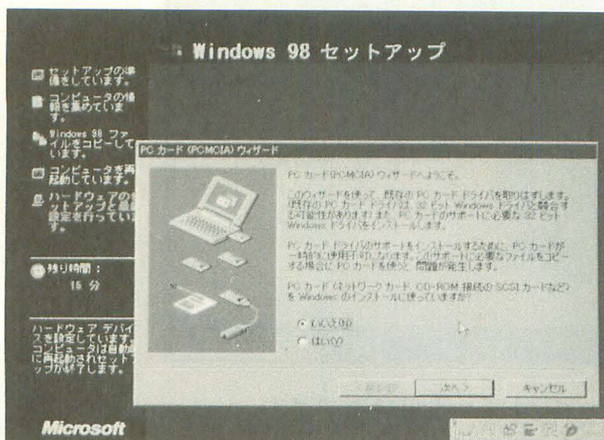
プロダクト キーの入力が完了すると、[ウィザードの開始] となります。[完了] ボタンをクリックします。



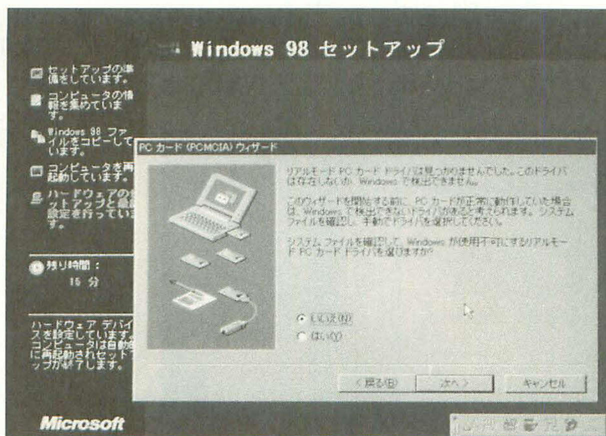
これ以後、CD-ROM からファイルがコピーされ、システムが自動的に再起動されます。

4. PC カードウィザードが開始します。

［いいえ］がチェックされていることを確認して、［次へ>］ボタンをクリックします。

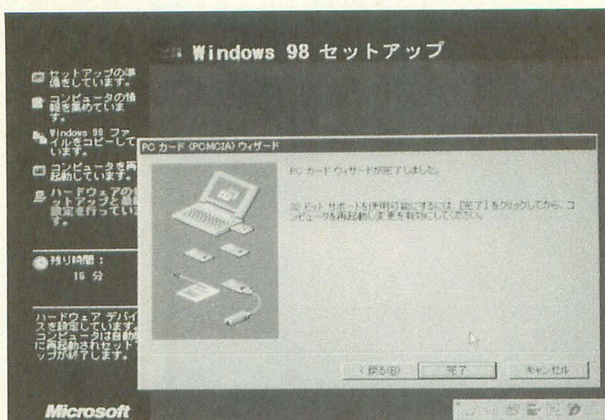


5. 以下の画面でも［次へ>］ボタンをクリックします。



付録

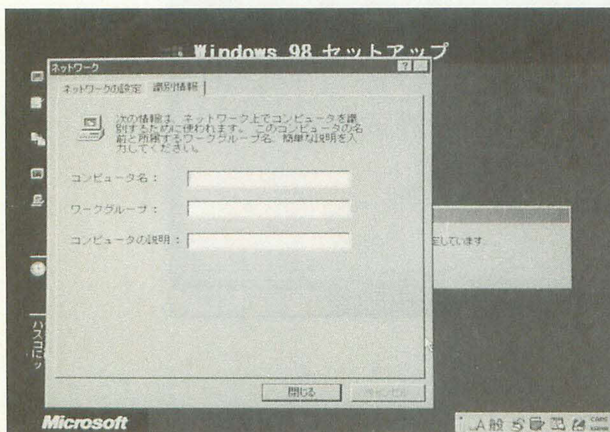
6. PC カードウィザードが完了します。



再起動が行われ、セットアップが継続されます。

7. コンピュータ名とネットワークグループ名を設定します。

[OK] をクリックすると、[ネットワーク] ウィンドウが現れます。[コンピュータ名] と [ワークグループ名] を入力し、[閉じる] ボタンをクリックします。たとえば、[コンピュータ名] を「FIVA」、[ワークグループ名] を「CASIO」などとします。

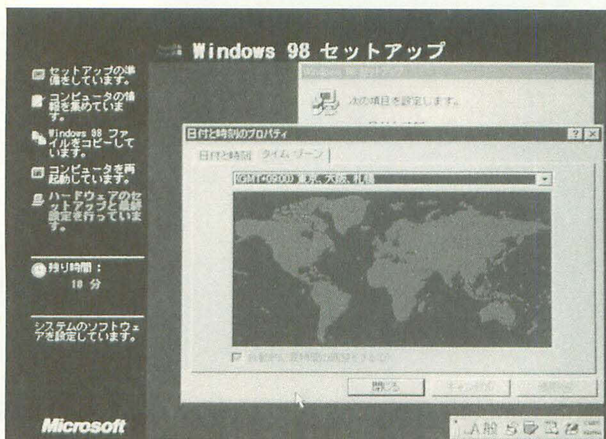




ネットワークに接続して本機を使用する場合、[コンピュータ名]、[ワークグループ名] の設定は、ネットワーク管理者に聞いて入力してください。

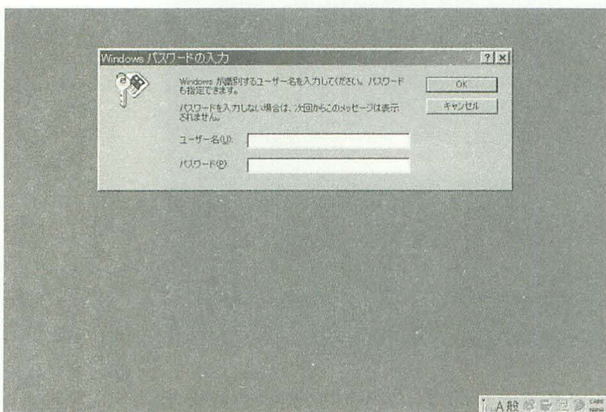
8. [日付と時刻のプロパティ] を設定します。

[タイムゾーン] は、[(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌] が選択されていることを確認します。[日付と時刻] タブをクリックし、日付と時刻を設定します。月は、[▼] をクリックし、リストから月を選択します。日は、カレンダー上で数字をクリックすることで設定します。時刻は、時、分、秒をそれぞれ数字で入力します。AM、PM は[▲]、[▼]で切り替えます。設定後、[閉じる] ボタンをクリックします。



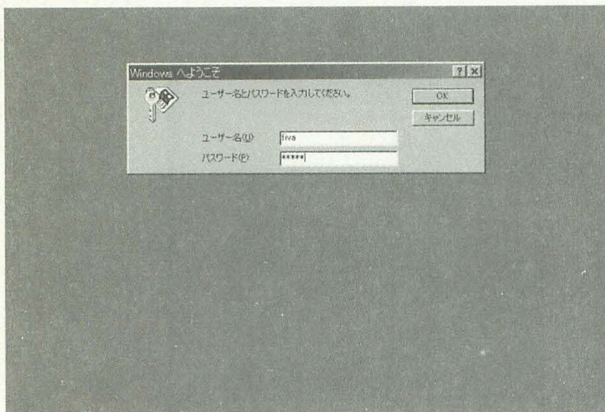
9. しばらく自動的にセットアップが行われます。その後、自動的に再起動します。

10. ユーザー名とパスワードを入力します

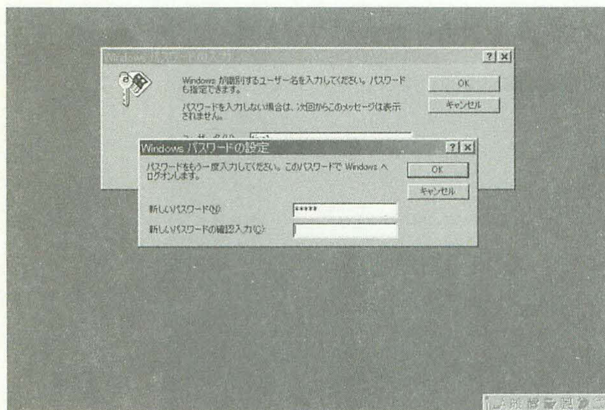


付録

Windows98を利用するユーザーの名前と、その人のパスワードを入力します。ユーザー名とパスワードの入力を省略すると、次回の起動からはこの画面は表示されません。ユーザー名を入力したら、TAB を押します。するとカーソルが［パスワード］に移動します。パスワードでは、入力した文字がすべて「＊」で表示されます。パスワードの入力が完了したら、［OK］ボタンをクリックします。



パスワードの確認を行うため、同じパスワードを［新しいパスワードの確認入力］に入力します。ここでも入力した文字がすべて「＊」で表示されます。入力が完了したら［OK］ボタンをクリックしてください。ここで入力したユーザー名とパスワードは、次回からの Windows 98 のログインに必要となります。



11.［Windows 98 へようこそ］のウィンドウが表示されます。

ここでは、インターネットに接続するためのセットアップウィザードの起動や、Windows 98 の紹介を見ることができます。Windows を起動するたびにこの画面が表示されますが、もし次回の起動にこの画面を表示させたくない場合は、ウィンドウ左下の ☑ をクリックし、チェックを外してください。次回の起動時から表示されなくなります。ウィンドウを閉じる場合は、右上の ☒ をクリックします。

● カシオ独自のソフトをインストールする

手順

1. CD-ROM を交換します。

「マイクロソフトウィンドウズ 98 オペレーティングシステム」の CD-ROM を CD-ROM 装置から取り出し、Product Recovery CD-ROM を入れます。

2. ツールを選んでインストールします。

しばらくすると、「Basic Utilities for FIVA」が自動的に起動します。各ツール名にマウスカーソルを移動すると、右側のウィンドウにツールに関する説明が表示されます。



各ツール名をクリックすることでインストールが行えるソフトは、

- FIVA TOOLS（モバイルコックピットなど）
- Sensiva Pro
- Tran-P Album for CASIO

の 3 つです。

各ソフトは選択的にインストールできますが、FIVA TOOLS（モバイルコックピット等）には重要なシステムサポート機能が組み込まれているので、必ずインストールするようにしてください。



モバイルコックピットには、ホットキーによる音量の設定機能、シリアルポートの切り替え機能などが組み込まれています。

3. 各ツールのインストールが完了したら、[EXIT] をクリックします。



BIOS 設定の起動の順番は、自動的に C ドライブが優先して起動するようにインストールツールが変更します。CD-ROM 装置から起動したい場合は、再び BIOS 設定を変更してください。

リカバリ作業でも復元されない設定／ソフト

これまでの作業により、本機のハードディスクの内容はほぼ工場出荷時の状態に戻ります。ただし、以下のソフトや設定については、リカバリ作業を行っても元の状態には戻りません。

設定／ソフト	対処方法	参照
Acrobat Reader	Product Recovery CD-ROMからインストールします	128ページ
ニフティサーブでインターネット	Product Recovery CD-ROMからインストールします	128ページ
通信カラオケ LANA Lite	Product Recovery CD-ROMからインストールします	128ページ
QV-LINK	Product Recovery CD-ROMからインストールします	128ページ
壁紙と画面デザイン	[画面のプロパティ] で設定を変更します	129ページ
Microphone のミュート	[ボリューム コントロール] で設定を変更します	135ページ
マイクロソフトFAX	「マイクロソフトウィンドウズ 98オペレーティングシステム」のCD-ROMからインストールします	131ページ
Windows 98のアクセサリ類	[アプリケーションの追加と削除] でインストールします	133ページ

● Irドライバを再インストールする

手順

1. デスクトップ画面から、［マイコンピュータ］→［コントロールパネル］→［ハードウェアの追加］→［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面を開きます。
   ガイダンスに従い［次へ>］ボタンを2回押します。

2. 「ハードウェアを自動的に検出するか」を聞いてきます。
   ［いいえ］にチェックをいれ、ガイダンスに従い［次へ>］ボタンを2回押します。

3. 「ハードウェアの種類」を選択する画面から、［ネットワークアダプタ］を選択します。
   ［次へ>］ボタンを押します。「デバイスの選択」ウィザードが表示されたら、

   製造元：National Semiconductor
   モデル：NSC-PC87338 Fast Infrared Port

   を選択し、［OK］ボタンを押します。

4. リソースの設定値が表示されたら、［次へ>］ボタンを押します。
   インストール終了のダイアログが表示されたら、［完了］ボタンを押します。ここで、シャットダウンを促すダイアログが表示されますが、［いいえ］ボタンを押します。

5. 再び［コントロールパネル］画面を開き、［ネットワーク］をダブルクリック、［ネットワークコンポーネント］画面から、［NSC-PC87338 Fast Infrared Port］を選択し［プロパティ］ボタンを押します。
   ［詳細設定］タブから［Infrared Transceiver A］を選択します。
   ［値］のボックスから［HP HSDL-2300］を選択し、［OK］ボタンを押します。

6. ［ネットワーク］ダイアログから、［OK］ボタンを押し［コントロールパネル］画面を終了します。

7. 再起動を促す画面になったら、［はい］ボタンを押して再起動します。

Recovery CD-ROMからソフトをインストールする

本機は、工場出荷時に幾つかのソフトがインストールされています。このうち、

・QV-LINK
・Acrobat Reader
・ニフティサーブでインターネット
・通信カラオケ LANA Lite

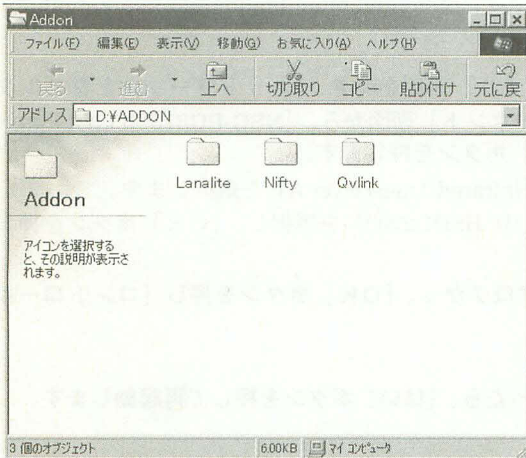
の4つのソフトは、Product Recovery CD-ROMから自動的にインストールすることができません。それぞれのソフトのセットアッププログラムを起動して、インストールしてください。

手順

1. CD-ROMドライブにProduct Recovery CD-ROMをセットします。

2. しばらくすると、「Basic Utilities for FIVA」が自動的に起動します。ここで、CD-ROM Viewerを選択します。

3. Product Recovery CD-ROMの内容がウィンドウに現れます。ここで、インストールしたいソフトのフォルダをダブルクリックし、フォルダを開きます。



4. 各ソフトのフォルダの中から、[Setup]をダブルクリックし、実行します。あとは指示に従って、インストール作業を行ってください。

壁紙と画面デザインを変更する

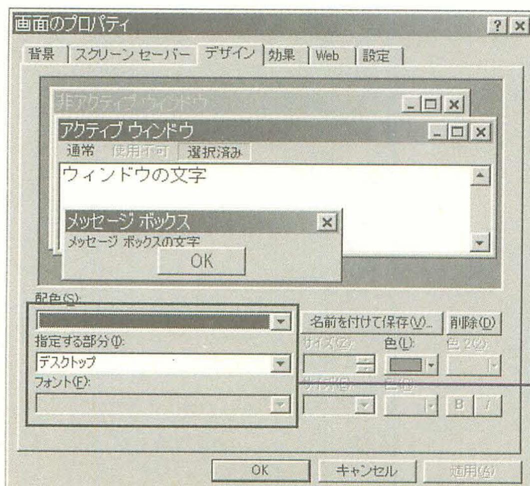
本機の工場出荷時の設定では、Windows 98 のデフォルトのフォントサイズを変更しています。リカバリ作業後工場出荷状態の設定にするには、以下の操作により、画面設定の各項目を変更します。

手順

1. Windows 98 のデスクトップ上で右クリックをします。
2. メニューから［プロパティ］を選択します。［画面のプロパティ］ウィンドウが現れます。



3. ［デザイン］タブをクリックします。



付録

4. フォントのサイズなどを変更します。

工場出荷の状態に戻すには、以下に示す設定にしてください。

指定する部分	設定項目	設定
アイコン	フォントサイズ	12
アクティブタイトルバー	フォントサイズ	12
スクロールバー	サイズ	18
タイトルのボタン	サイズ	20
メニュー	フォントサイズ	10

5. 壁紙を変更します。

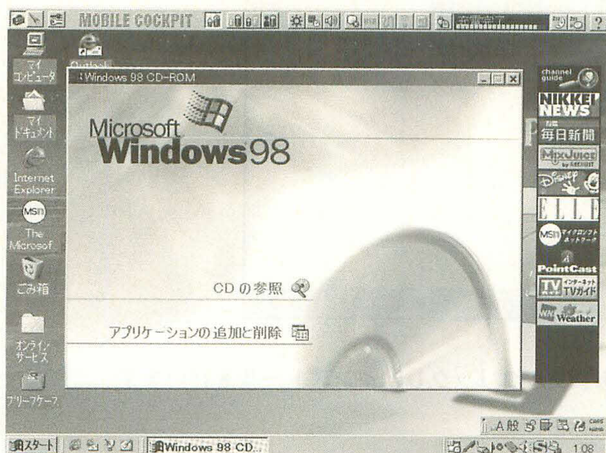
［背景］タブをクリックし、［壁紙］から 16bit_Horizon を選択します。

6. ［OK］をクリックして、設定を終了します。

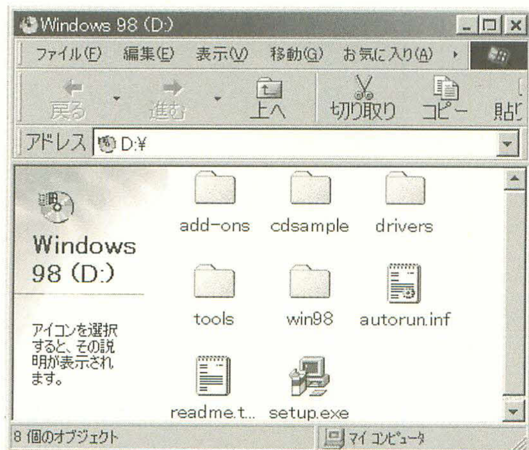
Microsoft FAX をインストールする

手順

1. CD-ROM 装置に「マイクロソフトウィンドウズ 98 オペレーティングシステム」の CD-ROM をセットします。自動的に以下のウィンドウが現れます。



2. ［CD の参照］をクリックします。



3. [tools] フォルダをダブルクリックし、[oldwin95]、[message] と各フォルダをダブルクリックして開きます。



4. [awfax.exe] をダブルクリックし、インストールを行います。

5. 再起動を行います。

インストール完了後、システムの再起動が必要となります。[はい] ボタンをクリックし、再起動を行います。

Windows 98 のアクセサリ類をインストールする

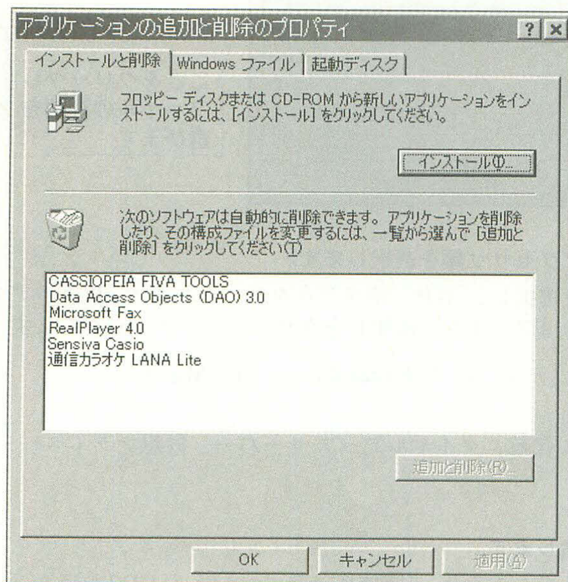
Windows 98 を標準状態でインストールした場合、アクセサリ類が工場出荷時の状況と異なります。ここでは、アクセサリ類を工場出荷時と同じにする方法を説明します。

手順

1. CD-ROM 装置に「マイクロソフトウィンドウズ 98 オペレーティングシステム」の CD-ROM をセットします。

2. [アプリケーションの追加と削除] を行います。

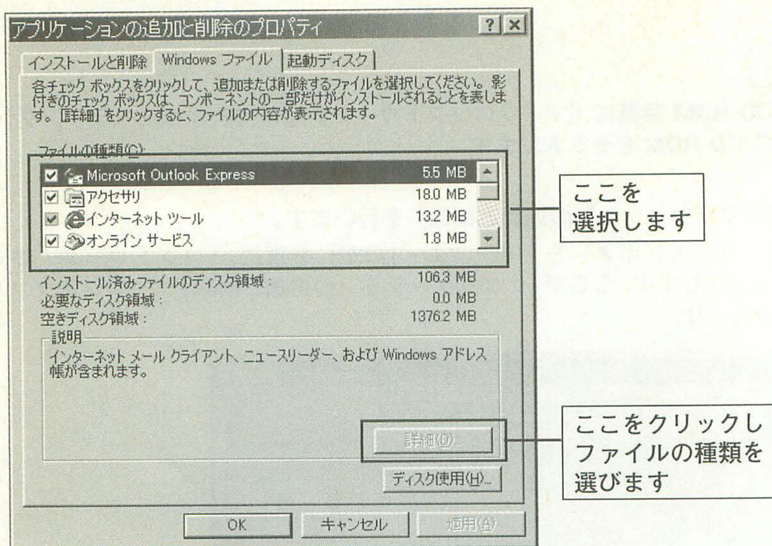
[スタート] ボタンをクリックし、[設定] を選択、[コントロールパネル] をクリックします。ここで[アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。



付録

3. [Windows ファイル] タブをクリックします。

すでにインストールされているファイルは、[ファイルの種類] のリストの中でチェックが行われています。



4. インストールするアクセサリ類を選択します。

各ファイルの種類を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。以下のアクセサリ名を除く、すべての [ファイルの種類] をクリックし、チェックします。

- [インターネット ツール] の Web-Based Enterprise Mgmt
- [多言語サポート]
- [通信] のケーブル接続、ダイヤルアップ サーバー、仮想プライベート ネットワーク

5. インストールを開始します。

[OK] ボタンをクリックすると、自動的に Windows 98 の CD-ROM から選択したアクセサリがインストールされます。インストールが完了するまで、10 分ほどかかります。その間、Windows 98 は使うことができません。再起動を要求するダイアログボックスが現れるまで、しばらくお待ちください。

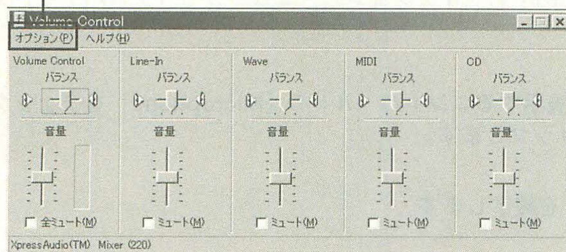
Microphone の設定を変更する

工場出荷時では、Windows 98 の［ボリューム コントロール］の［Microphone］がミュートに設定されています。リカバリ作業後に Microphone の設定を変更するには、以下のようにします。

手順

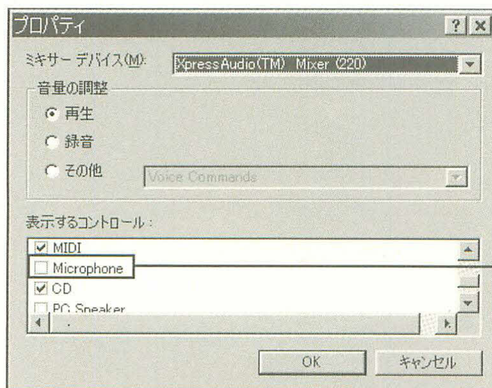
1. ［インジケータ領域］の［音量］アイコンをダブルクリックし、［Volume Control］を表示させます。

［オプション］メニューから［プロパティ］を選択します



2. ［Volume Control］の［オプション］メニューから［プロパティ］を選択します。

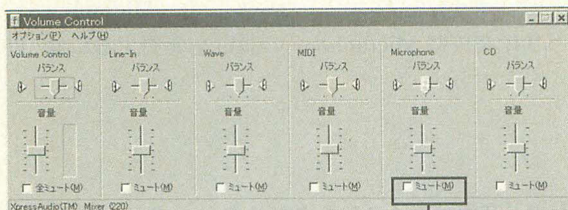
3. ［プロパティ］の［表示するコントロール］の［Microphone］をチェックし、［OK］ボタンをクリックします。



ここをチェックします

付録

4. [Volume Control] に追加された [Microphone] の [ミュート] をチェックします。



ここをチェックします

5. 再び [Volume Control] の [オプション] メニューから [プロパティ] を選択し、クリックします。

6. [プロパティ] の [表示するコントロール] の [Microphone] をチェックを外し、[OK] ボタンをクリックします。

7. [Volume Control] を終了します。

CABファイルをハードディスクにコピーしておく

ドライバなどが含まれているWindows 98のCABファイルをハードディスクにコピーしておくと、周辺機器などを接続した場合にCD-ROMを接続する必要がなく便利です。

手順

1. CD-ROM装置を接続します。

2. CD-ROM装置に「マイクロソフトウィンドウズ98オペレーティングシステム」のCD-ROMをセットします。

   C：ドライブの¥Windows¥Optionsフォルダの下に「Cabs」フォルダがあるのを確認してください。

3. 「マイクロソフトウィンドウズ98オペレーティングシステム」のCD-ROMにある［Win98］フォルダの内容を、Cabsフォルダにすべてコピーします。

   以後、ドライバのインストール時にWindows 98のインストールCD-ROMを要求されたときには、¥Windows¥Optionsフォルダの下にある「Cabs」フォルダを指定します。

起動ディスクを作る

ここでは起動ディスクの作り方を説明します。起動ディスクは、Windows 98が正常に起動しない場合に使用するフロッピーディスクです。起動ディスクを使って、システムを起動し、診断プログラムを実行することで、正常に起動しない原因を調べることができます。



起動ディスクの作成には、別売りのフロッピーディスク装置が必要になります。

手順

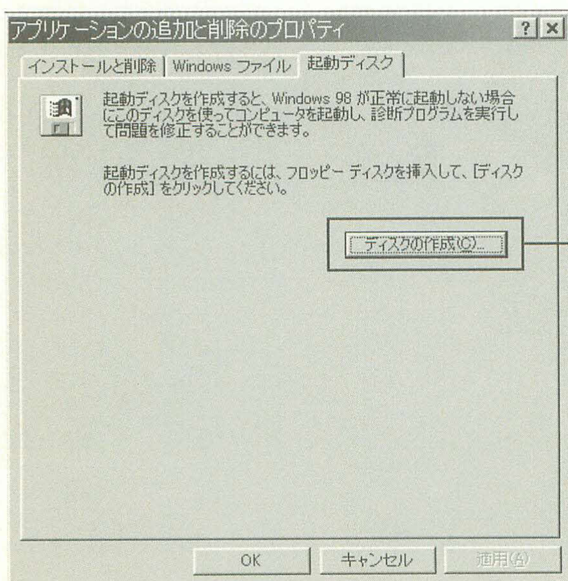
1. [スタート] ボタンをクリックし、メニューから [設定] を選択、[コントロールパネル] をクリックします。

2. [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。

3. [アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログボックスが現れるので、[起動ディスク] タブをクリックします。

4. フロッピーディスク装置に 2HD（1.44Mbytes）の新しいフロッピーディスクを入れます。

5. [ディスクの作成] ボタンをクリックすると、起動ディスクの作成が開始されます。



6. 起動ディスク用のファイルを準備します。

Windows 98 のインストール CD-ROM が要求されるので、¥Windows¥Options フォルダの下にある「Cabs」フォルダを指定します。CAB ファイルをコピーしていないときは、CD-ROM 装置をつなげて「マイクロソフトウィンドウズ 98 オペレーティングシステム」の CD-ROM をセットしてください。

7. [ディスクの挿入] ダイアログボックスが現れたら、フロッピーディスク装置にフロッピーディスクが入っていることを確認して、[OK] ボタンをクリックします。起動ディスクが作成されます。

付録

仕様

機種名（FIVA 101）		MPC-101M30（発売予定）	MPC-101M31	MPC-101M32
CPU		CyrixMediaGX（MMXTM対応）		
周波数／内蔵キャシュメモリ		200MHz / 16KB		
メモリ	メインメモリ（RAM）	32MB		
	増設メモリ（RAM）	32/64MB 単位（SO-DIMM）最大 96MB　増設スロット×1		
	ROM	256KB（BIOS）		
	ビデオRAM	2.5MB（UMA）		
ハードディスク（内蔵）		3.2GB	2.1GB	3.2GB
表示機能	表示装置 *1	6.7 型 HAST TFT カラー液晶ディスプレイ（バックライト付き）		
	解像度	SVGA（800 × 600 ドット）、65536 色		
入力装置	キーボード	本体との一体型（ JIS 標準配列英数・かな 総数 84 キー）、12 ファンクションキー（Fn キー対応）、アプリケーションキー 15mm × 14mm ピッチ／ 1.5mm ストローク		
	タッチパッド（縦×横）	31 × 27 mm（有効サイズ）		
サウンド機能		スピーカ（内蔵モノラル）		
		ヘッドフォン（ステレオミニジャック）		
		マイク（モノラル内蔵）		
		PCM（Sound Blaster 16 相当）音源		
インターフェース	本体内蔵	USB　1 チャンネル		
		赤外線通信ポート　IrDA1.1 準拠（データ転送速度 4Mbps, 最大 115.2kbps/ASK）		
	通信ポート	シリアルポート	なし	あり（モジュラケーブル標準）
	ポートリプリケータ *2 増設時	USB × 1		
		外付け FDD 専用× 1		
		シリアル（D-SUB9 ピン　オス）× 1		
		パラレル（D-SUB25 ピン　メス）× 1		
		ビデオ（ミニ D-SUB15 ピン　メス）× 1		
		PS/2 × 1		
内蔵FAXモデム		なし	なし	56kbps（受信） 1.44kbps（FAX）
PC カードスロット		Type Ⅱ　1 スロット（Card Bus 対応）		

パワーマネージメント		自動または任意設定可能		
時計機能		クロックバッテリバックアップ		
セキュリティ		パワーオンパスワード		
電源	入力 (バッテリパックは消耗品です)	ACアダプタ16V（入力AC100V，50/60Hz）		
		リチウムイオンバッテリ（公称11.1V，1500mA）（標準添付品）		
		大容量リチウムイオンバッテリ（公称11.1V，3000mA）*2		
	消費電力	最大40W		
バッテリ稼働時間	(時間はご利用状況やオプションの接続により変わります)	標準バッテリパック使用時約3時間、 大容量バッテリパック*2 使用時約6時間		
バッテリ充電時間		電源ON時：約4時間（大容量バッテリパック使用時約 8 時間） 電源OFF時：約2時間（大容量バッテリパック使用時約 4 時間）		
外形寸法（標準バッテリ搭載時）		210（幅）×132（奥行き）×25.4（高さ）mm		
質量（標準バッテリ搭載時）		約840g	約825g	約840g
外形寸法（標準バッテリパック）		206（幅）×27（奥行き）×22（高さ）mm		
質量（標準バッテリパック）		170g		
使用環境条件		温度：5～35℃　湿度：30～80%（ただし結露しないこと）		
標準搭載ソフトウェア		Microsoft Windows 98、Tran-P Album（赤外線）、Sensiva Pro（ジェスチャ）、QV-LINK、LANA LIte-S（通信カラオケ）、Nifty Manager、システム管理ツール		

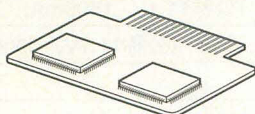
*1　FIVAのTFT液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、明るさのむらや微細な斑点が現れることがあります。また、一部に非点灯、常時点灯などの点表示が存在することがありますが故障ではありません。

*2　ポートリプリケータと大容量バッテリパックは別売りです。

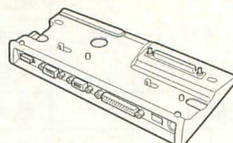
付録

FIVA MPC-101シリーズでお使いいただける、便利な「別売り品」をご紹介いたします。
ぜひ、ご活用ご利用お願いいたします。

増設メモリ
（品番：MPC-151RAM）32MB
（品番：MPC-152RAM）64MB

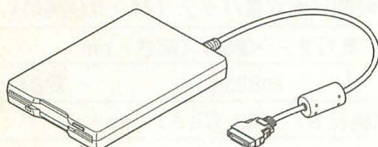


ポートリプリケータ
（品番：MPC-160PR）

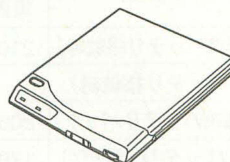


各種周辺装置を増設できます。

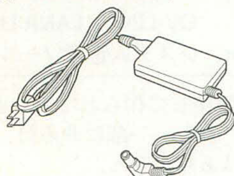
フロッピーディスクドライブ
（品番：MPC-140FDD）



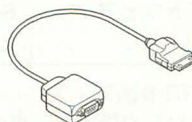
CD-ROMドライブ
（品番：MPC-141CDD）



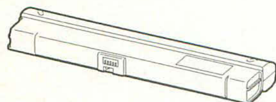
ACアダプタ
（品番：MPC-177ADP）



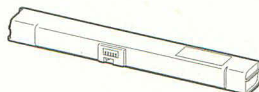
シリアル変換アダプタ
（品番：MPC-180RSC）



大容量バッテリパック
（品番：MPC-174LBAT）



バッテリパック
（品番：MPC-173BAT）



A～Z、数字

あ

か

さ

た

付録

な

は

ま

や〜ん

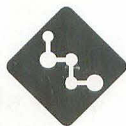
FIVA101 取扱説明書
初版　1998 年 11 月
第 2 版　1998 年 12 月
発行　カシオ計算機株式会社
システム事業部
〒207-8501　東京都東大和市桜が丘 2-229

取扱説明書に関するご注意

・本書の内容の一部又は全部を無断転記することは禁止されています。
・本書の内容について将来予告なしに変更することがあります。
・本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、ご不明な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたら販売店までご連絡ください。
・乱丁、落丁はお取り替えいたします。

CASIO

MPF0100198-07



CASSIOPEIA
FIVA



この取扱説明書は
エコマーク認定の
再生紙を使用しています。

カシオ計算機株式会社